

市立横手病院年報

平成 21 年 度

市 立 横 手 病 院

平成21年度年報発刊にあたり

横手市病院事業管理者 長山 正四郎

平成21年度は病院増改築工事が始まり、従来の正面玄関が使用できず、病院裏側（山側）の駐車場に一番近い所に患者さん出入口を設置し、外来診療等を受けさせてもらいました。又、4月1日からDPC対応病院として新たな診療報酬の請求業務が行われるようになりました。その1年間を振り返ってみますと、喜び、不安、苦しみの三者が混じりあった複雑な思いの年度であったと思います。

医療スタッフは全盛期と考えられた平成20年より更に充実し常勤医師数が増え、県内の多くの病院から羨望の眼差しで見られ、多いに気分をよくした思いと、これでいいのかという心苦しさを感じた時期もありました。又、一方では平成21年3月から始まった病院増改築工事で、特に旧病棟の解体、改修工事は想像以上の騒音、振動の発生で入院中の多くの患者さんに多大な御迷惑をおかけすることになり、本当に申し訳なくただ謝ることしかできず、非常に心苦しい思いを致しました。さらにDPC対応病院として急性期医療を十分やっていけるのかと不安もかなりのものがありました。諸々について振り返ってみます。

まず最初に新しく生まれ変わる市立横手病院の増改築工事について触れてみたいと思います。従来の病院正面駐車場に新築中の新館（新病棟）工事は順調に進み、平成22年5月の連休明けから運用可能となります。少しでも療養環境のいい所で診療のできる喜びを一日も早くと全職員が首を長くして待っている所であり、多くの市民の方々の期待も大きいこととと思っています。

少子高齢化社会、地域の過疎化などの影響が自分達医療業界にも大きな波となって押し寄せて来ております。お産件数の減少、分娩に対する若い女性の考え方の変化などについて病院としての対応を真剣にかつ早急に決断せねばならない状況と判断致しました。病院新築工事と共に病棟改修で最初に着工が必要な工事は産科病棟の個室化が最優先課題と決め、まず2病棟改修工事に着手することにしました。自分が考えたより1年早目の着工となりました。分娩室、新生児室など臨時といっても安全な場所の確保など様々な難問をクリアしながらの工事となりました。そして最大の悩みはRC解体に伴う騒音、振動でした。多くの入院患者の御協力を得て、LDRの2室を含め産科病棟に個室9部屋を設置する難工事が9月にやっと完成致しました。そして新病室運用開始と共に褥婦さんの食事も病院食から外注に変更し、豪華な食事へと変更しました。病院広報誌やホームページで病院のこの新たな取り組みを紹介し、里帰り分娩も含め、お産件数が増えてきてくれることを多いに期待している所です。

次に医療スタッフの充実について述べてみたいと思います。平成21年度の医局人事は前期研修医の当院採用は6人でしたが、秋田大学とのタスキ掛けで消化器科を希望する研修医が2～3名、それと本荘第一病院からの1名を加え、一時期は11名となりました。又、嬉しかったことに後期研修医が3名入り、2名は3年間消化器疾患を主体に研修することとし、残り1名は呼吸器・アレルギー疾患の診療を主体に1年間頑張ってくれました。又、常勤の医師として秋田大学整形外科教室の島田教授の温情で、富岡先生が整形外科科長として赴任してくれました。整形外科もや

っと二人体制となり、元の賑やかさを取り戻す雰囲気となり、外来患者数、手術件数も増え病院全体に活気を与えてくれるようになりました。そして又、病院として首を長くして待っていた麻酔科の常勤医、寺田先生を5月にやっと迎え入れることができました。病院にとっては有り難く、そして安堵する寺田先生の赴任であったと思っています。病院の規模、手術件数などから麻酔医の不在は病院の不備として厳しく指摘されていた点でした。病院の医療安全の面でも、又手術に携わる外科系の医師にとっても寺田先生の赴任の意義は大きく計り知れないものがあると思っています。寺田先生には手術室の安全運営と共に得意とするペインクリニックの分野でも多いに活躍して欲しいと思っています。平成21年度は病院として想像もできなかった医局スタッフの充実をみることができました。全ての医師が協力しあって切磋琢磨して横手地域の医療、保健分野で大活躍してくれることを期待したいと思っています。又、本年度は一昨年のWOCナースの獲得について感染認定看護師の育成もかなえられました。小川伸君が長い期間の研修を終え、本年見事に国家試験をパスして認定を受けました。その後の彼の院内活動は目覚ましいものがあり、感染症予防対策、医療安全対策面での講話などで職員を徹底的に指導してくれました。このように医局以外でも医療スタッフが充実してきております。平成21年10月には秋田県病院協会主催のパネルディスカッションで、医師が減らない病院の代表として自慢話をさせてもらいましたが、大会の結論は医師、医療スタッフのモチベーションが下がらない様な工夫を病院全体で考えることが大切であるということでした。当院は横手という地の利を生かしつつ、医師を大事に守り育ててゆくような環境をしっかりと整備し、いつまでも医師の減らない病院であり続けたいものと思いません。

次にDPC対応病院としての1年を振り返りますと、結果として挑戦して本当に良かった、もし対応病院になっていなかったら本年度の病院会計はどうなっていたらと思うと背筋が凍る思いが致します。1年半の準備期間中に平均在院日数の短縮、主病名選択の検討、退院サマリーの早期完成、クリパスの作成、ジェネリック薬品の取り扱い、入院時検査のあり方、さらには出来高請求となる部門の強化などを医事課職員を中心に種々検討し準備してきました。DPC対応病院の申請が厚労省より認可され、規則通りの業務を無難に1年間やり通すことができました。その結果は病院運営の危機を救ってくれる有り難い成果となって現れました。入院患者の大幅な減少、さらに外来患者の落ち込みなどで出来高請求であれば大幅な減収が避けられない状態に陥る所でしたが、DPC対応で医業収益の落ち込みを相当抑えることができました。本当にお陰様といった所でした。DPC制度は急性期病院にとって必要性が続くものと思っていますが、調整係数、機能評価係数の算定などは厳しくなってくるものと推測されます。当院は他のDPC対応病院に比較して平均在院日数も長く、急性期病院としての質もまだまだ低い段階にあります。病院の救急医療体制、看護体制、亜急性期病床の運用、出来高請求部門の再検討などもっと詳細に検討を重ね、クリアせねばならない問題点が多くあります。次年度に向けてその対応策は急がねばなりません。地域の中核病院としての当院の役割を再確認し、そしてその役割を忠実に実行している姿を地域住民の方々に強くアピールし、幅広く信頼を得ることが大切と思われま

す。地域医療連携で病院の存在感を診療所の先生方にもっと理解してもらえよう努力することの重要性を強く感じています。地域住民の方々への当院の医療に関する情報提供は本年度から出前講座を積極的に開催していただき、従来より効率的に活動ができたと思います。各地の公民館に

医師、薬剤師、栄養管理士、理学療法士、認定看護師が出向いて積極的にニーズに合った講演をしてくれました。非常に評判が良く、希望も増えていますのでこの出前健康講座は当院の宝物として地域に定着させていきたいと思っています。

5年に一度更新しなければならない病院機能評価受審が本年度中に完了せねばなりませんでしたが、病院トップの考え方が職員に感染したのか受審の気運が盛り上がりませんでした。最終的に丹羽副院長が受審準備委員会の委員長を引き受けて、忙しいスタッフの尻を叩いてくれてやっと受審のメドが立ちました。最終的にはあらゆる部門の多くのスタッフの協力と各部署の管理職にあたる方々の不休不眠の状態に近い御支援を得て、3月の受審へと結びつけることができました。病院が増改築工事中ということで当院本来の姿を拝見してもらえませんでした。病院の普通の生き生きとした雰囲気は十二分に感じ取っていただけたものと思っています。訪問審査の際には大きな問題点の指摘はありませんでしたので、その内認定通知が届くものと期待している所です。(結局平成22年8月に認定証の交付を得ました。)

病院の経営状況にふれてみますと、平成19・20年度は残念ながら赤字決算でした。しかし、本年は交付税算入が少し増え、新型インフルエンザによる収益が伸び、DPC対応病院としての収益が伸びたお陰で入院患者は減少したにもかかわらず黒字決算となりそうであります。病院経営では次年度以降の医療設備投資が必要であります。それがなければ病院の医療は衰退しますので、僅か一円でもいいから黒字決算を出したいものと常々思っております。不況が長く続く世の中で医療費の大幅な伸びは期待できません。このような厳しい時勢でありますので、経営の基本である“入りを測りし出ざるを制す”という教訓を固く守って病院経営にあたりたいと思いを強くしています。

最後に平成22年度も病院の改修工事が大幅に行われ、日常診療への悪影響も懸念されます。又、DPCに関しても調整係数、機能係数の見直しが必要で。かなり厳しい病院経営になることが予想されますが、かつてない程充実した医療スタッフが一丸となってこの難局を乗り越えてくれますことを期待致します。

目 次

巻頭言	1	消化器科	38
目 次	4	循環器科	40
沿 革	9	呼吸器科・アレルギー科	42
基本理念・基本方針	15	心療内科	43
倫理綱領	16	外科	44
患者様の権利と責務	17	整形外科	48
病院の概要	21	小児科	50
開設者	21	産婦人科	54
名 称	21	眼科	56
所在地	21	泌尿器科	57
開設年月日	21	放射線科	58
事業管理者	21	麻酔科	60
病床数	21	リハビリテーション科	61
診療科目	21	救急センター	68
看護体系	21	薬剤科	69
医療機関の指定等	21	診療放射線科	70
病院施設の概要	22	看護科	73
病院統計	25	2 病棟	80
収支決算	25	3 A 病棟	82
診療科別入院患者数	27	3 B 病棟	84
診療科別外来患者数	28	4 病棟	86
新患患者数	29	外来	88
地域別患者数の状況	29	手術室・中央材料室・洗濯室	90
紹介患者数	31	人工透析室	92
紹介患者地域別統計	31	訪問看護センター	94
救急患者統計	32	ME 室	97
部門報告	35	臨床検査科	100
診療科	35	食養科	102
内 科	35	健康管理センター	104
老年科	35	事務局	106
脳神経内科	36	総務課	107

医事課	114	衛生委員会	161
医療安全管理室	115	患者サービス向上委員会	162
医療情報管理室	119	教育委員会	163
地域医療連携室	120	広報委員会	164
委員会活動	125	個人情報保護推進委員会	165
リスクマネージャー委員会	125	診療記録開示審査委員会	166
医療事故防止委員会	126	年報編集委員会	167
院内感染予防対策委員会	127	医療ガス安全管理委員会	168
倫理委員会	130	医療廃棄物管理委員会	169
栄養管理委員会	131	防火管理委員会	170
N S T委員会	132	看護科の委員会	171
褥瘡対策委員会	133	教育委員会	171
緩和ケアチーム委員会	135	看護研究委員会	173
救急センター運営委員会	136	看護記録・計画委員会	174
手術室運営委員会	137	師長主任会	175
糖尿病委員会	139	学術研究業績	179
輸血療法委員会	141	同好会活動	183
臨床検査適正化委員会	143	野球部	183
図書委員会	144	バレーボール部	184
臨床研修管理委員会	146	職員等互助会	187
治験委員会	148	編集後記	189
診療材料検討委員会	149		
病床運営委員会	150		
医療情報管理委員会	151		
電子カルテ委員会	152		
D P C委員会	153		
クリニカルパス委員会	154		
業務改善委員会	155		
地域交流推進委員会	156		
病院機能評価準備委員会	157		
薬事委員会	158		

沿 革

沿革

- 明治14年 私立横手病院創立。
- 17年 公立平鹿病院と改称。
- 21年 3月 県が公立病院設置規則公布。
- 22年 7月31日 廃院と同時に横手町がこれを譲り受ける。
- 12月15日 公立横手病院として開院。総坪数78坪。初代院長中村良益氏就任。
- 24年11月 大町下丁に新築工事着手。
- 25年 1月30日 竣工開院。
- 33年 4月 1日 平鹿郡の委託をうけ看護婦養成所設置。
- 昭和27年 2月 7日 醜翻診療所開設。初代所長藤田健康氏就任（本院内科兼務）。
- 11月15日 保健婦、助産婦、看護婦法（昭和23年法律第203号）による附属准看護婦養成所設立（定員40名）。
- 28年 9月21日 栄診療所開設。初代所長和賀卓爾氏就任（専任）。
- 9月30日 横手市外21ヶ町村立伝染病隔離病舎組合設立竣工（249.75坪）。
- 34年 7月 3日 厚生年金保険積立金の還元融資を受け昭和33年度より3カ年計画による病院全面改築工事に着手。大町下丁36番地より根岸町5番31号旧北小学校跡へ移設。
- 35年 3月31日 醜翻診療所廃止。
- 7月31日 改築工事竣工（総面積3,116.26㎡、総工費8,500万円）。
- 9月 6日 竣工に伴い指令秋収医第2140号により施設の使用許可（一般病室19室113床）。
- 36年 2月 1日 地方公営企業法（昭和27年法律第292号）に基づき条例全部適用。
- 4月 1日 国民健康保険制度施行。
- 7月 7日 伝染病棟移転改築工事竣工。横手市外7ヶ町村立伝染病隔離病舎組合と改称。
- 7月 7日 結核病棟改築竣工（総工費300万円）。
- 38年10月 1日 健康保険法による基準寝具承認。3病棟160床。
- 39年 6月30日 救急指定病院の許可（優先使用される病床3床）。
- 40年 7月15日 集中豪雨による横手川氾濫。午後1時30分頃より同4時頃まで浸水、最高床上1メートルの被災のため3日間休診。復旧費150万円。
- 41年 1月 1日 地方公営企業法一部改正に伴い条例制定管理者を置く（院長）。
- 43年 3月25日 温泉浴治療棟新築工事及び送湯管布設工事着手。
- 7月30日 同新築工事竣工（面積322.99㎡、引湯管全長1,500m、総工費2,300万円）。
- 8月 1日 リハビリ棟竣工により指令医第1499号、指令環第690号で使用許可。
- 45年12月15日 准看護学院創立20周年記念式典。第20期までの卒業生358名。
- 48年 4月 1日 横手市外7ヶ町村立隔離病舎組合を横手平鹿広域市町村圏隔離病舎組合と改称。
- 5月14日 医第1012号をもって横手平鹿医療圏における地域センター病院に指定（地域医療センター）。

- 56年10月1日 基準看護一般病棟160床特二類承認。承認番号(看)第20号。
- 57年12月15日 看護職員に対する勸奨(希望)退職制度の適用。
- 59年7月31日 第1病棟(47床)、伝染病棟(10床)閉鎖。解体。
- 8月1日 病院開設許可事項変更許可(指令医-299)。
一般病床160→194 伝染病床10→10 計170→204
- 8月30日 病棟改築工事起工式。
- 60年10月20日 新病棟竣工(着工59.8.24)。
- 62年3月31日 附属准看護学院閉校(昭和27年11月開校以来34期592名卒業)。
- 7月7日 CT導入(設置許可指令医-684)。
- 63年4月1日 健康管理センター発足。
- 平成元年1月25日 第1回コメディカル研究会開催。
- 9月16日 開設100周年記念式典。
- 12月1日 基準寝具承認指令保-1531 194床 承認番号(寝第7号)
- 2年7月24日 皆川浄司院長急逝。
- 9月1日 江本彰二院長就任。
- 10月1日 皆川浄司学術振興基金設立。
- 3年1月1日 基準看護(特2類看護)辞退。
- 1月9日 病院開設許可事項変更許可(指令医-1801)。
一般病床194→250 伝染病床10→10 計204→260
- 2月1日 第2期診療棟等改築工事着工(250床)。
- 4月1日 基準看護(特2類看護)承認(看第61号)指令保2363
- 10月28日 大友公一産婦人科科長急逝。
- 4年4月1日 標ぼう科目に泌尿器科新設。
- 4月1日 名誉院長に品川信良先生発令。
- 4月4~5日 新しい診療棟移転。
- 4月6日 新しい診療棟に仮出入口をもうけて外来診療開始。
- 7月1日 泌尿器科外来診療開設。
- 7月3日 人工透析開設(10床)。
- 7月20日 新しい診療棟正面玄関オープン。
- 7月31日 第2期改築工事竣工(着工3.2.1、完成4.7.31)。
- 8月1日 看護4単位制に入る(250床 実施開始)。
- 8月29日 公立横手病院第二期改築工事竣工式。
- 10月1日 新カルテ(A4版)に変更。
- 11月7~8日 第1回病院祭。
- 12月1日 特3類看護(2病棟、3B病棟)117床承認される(承認番号(看)第25号)。
重症者の収容基準承認される(承認番号(重収)第18号)。
個室4床 201・218・367・420号室
2人部屋6床 350・321・422号室

- 5年1月1日 夜間看護等加算承認（承認番号(夜看)第21号）。
- 4月1日 秋田大学医療技術短期大学部理学療法科実習病院の承認。
- 5月9日 経営問題で読売新聞ニュースになる。
- 8月1日 入院時医学管理料承認される。
- 9月24日 健康管理センター棟着工。
- 12月1日 特3類看護（4病棟）承認される。
- 6年3月10日 健康管理センター棟竣工（着工5.9.24）。
- 6月1日 完全週休2日制実施。
- 6月8日 秋田大学による地域包括保健・医療・福祉実習開始。
- 9月8日 経営コンサルティングの実施。
- 7年6月1日 新看護基準（2.5：1、10：1）承認。
- 6月30日 江本院長退任。
- 7月1日 新事業管理者・院長に長山先生就任、新副院長に丹羽先生就任。
- 8月5日 基本理念策定
「安心できる良質な医療の提供」
「心ふれあう人間味豊かな対応」
基本方針策定
「地域医療への貢献」
「患者サービスの充実」
「健全な病院経営」
運営方針策定
「急性期医療の充実」
「生活習慣病の予防」
「検診業務の拡大」
- 8年4月23日 (財)日本医療評価機構による病院機能評価運用調査受審。
- 6月3日 眼科外来診療開設（週1回月曜日午後）。
- 7月1日 院内感染防止対策加算承認。
- 7月5日 更年期外来開設。
- 12月5日 心療科外来診療開設（週1回）。
- 12月11日 MR I棟着工
- 9年3月19日 MR I棟竣工。
- 3月31日 名誉院長品川信良先生退任。
- 4月21日 食堂を開設。
- 4月28日 MR I装置稼働。
- 9月27日 横手病院温故会（OB会）設立。
- 10年4月1日 名誉院長正宗研先生就任。
- 4月13日 診療材料管理システム稼働。
- 11年4月1日 院外処方実施（7月から全面実施）。

- 4月1日 第2種感染症指定医療機関（4床）。
- 10月1日 オーダリングシステム運用開始。
- 10月30日 横手病院110周年記念式典。
- 平成12年2月1日 無菌製剤処理加算。
- 5月1日 重症者等療養環境特別加算 10床→15床
検体検査管理加算取得（算定4月1日）。
- 平成13年4月1日 横手病院前バス路線開設。
- 平成14年4月1日 公立横手病院職員等互助会設立。
- 5月16日 全国自治体病院協議会総会 自治体立優良病院両会長表彰受賞。
- 6月10日 病院機能評価受診準備委員会委嘱。
- 7月1日 新財務会計システム稼動。
- 7月26日 新基本理念策定。
地域の人々に信頼される病院を目指します。
安心できる良質な医療の提供
心ふれあう人間味豊かな対応
- 8月23日 新基本方針策定。
患者さん中心の安全な医療の提供に努めます。
地域医療・保健に貢献します。
健全な病院経営に努めます。
- 平成15年2月13日 自動再来受付機稼動開始。
- 3月31日 正宗名誉院長退任。
- 4月1日 三浦傳名誉院長就任、加藤哲郎顧問就任
- 4月30日 マスタープラン策定部会答申提出
- 6月20日 「患者様の権利と責務」策定
- 8月22日 病床区分を一般病床として届出（250床）
- 9月12日 「公立横手病院の倫理綱領」策定
- 10月30日 臨床研修病院の指定を受ける
- 平成16年1月15日 S A R S 模擬訓練（保健所、消防署、当院）
- 1月16日 病院機能評価模擬サーベイ（練馬総合病院院長、総師長）
- 3月1日 公立横手病院広報第1号発行
- 3月25日～27日 病院機能評価受審
- 5月27日 自治体立優良病院総務大臣表彰
- 6月16日 管理職・主任者研修 講師：市長
- 7月1日 最初の臨床研修医研修開始（小林医師）
- 7月26日 自治体立優良病院総務大臣表彰祝賀会 ラポート
- 8月27日 病院教育委員会主催公開講座 かまくら館 講師：湊浩一郎先生
- 11月1日 外来二交代制試行
- 平成17年2月8日 第1回病院増改築検討委員会開催

- 2月10日 病院機能評価窓口相談
- 5月9日 新CT使用開始
- 5月30日 日本病院機能評価機構の認定を受ける
- 6月20日～7月8日 秋田大学医学部地域保健福祉医療包括実習
- 6月23日 長野県東御市議会が当院を視察
- 7月26日 兵庫県加西市議会が当院を視察
- 8月4日 福島県須賀川市議会が当院を視察
- 9月23日 閉市式 市民会館
- 10月1日 市町村合併により新横手市誕生、病院名を市立横手病院に変更
- 平成18年4月25日 市議会厚生労働委員会 病院視察
- 8月30日 福島県公立藤田病院 視察
- 平成19年3月1日 レントゲンフィルムレス化運用開始
- 5月15日 福島県桑折町議会 病院視察
- 6月18日～7月6日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 10月1日 電子カルテ稼動
- 平成20年6月16日～7月14日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 11月8日 日本消化器病学会 市民公開講座（かまくら館）
- 平成21年2月1日 増改築工事開始
- 3月6日 病院増築安全祈願祭

平成21年度の主な出来事

- 平成21年4月1日 辞令交付式
- 4月1日～6日 新規採用職員研修
- 4月24日 病院歓送迎会（横手セントラルホテル）
- 5月29日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 5月31日 電気設備年次点検
- 6月1日～3日 秋大医学部3年次早期地域医療研修
- 6月8日～10日 秋大医学部3年次早期地域医療研修
- 6月15日～7月3日 秋大医学部学生地域包括保健・医療・福祉実習
- 6月24日 春季防災訓練
- 7月4日 市民公開講座（かまくら館）
- 7月19日 県南病院対抗野球大会（仙北市）
- 7月19日 臨床研修病院合同説明会（東京都）
- 7月25日 職員採用試験
- 7月29日 ふれあい看護体験
- 8月15日 盆おどり
- 8月25日 医療安全研修会（院内暴力対策について）

- 9月1日 企業会計決算特別委員会
- 9月4日 医療安全シンポジウム（市役所南庁舎）
- 9月5日 市民医学講座（かまくら館）
- 9月11日 電話対応コンクール県南ブロック大会
- 9月13日 全県病院対抗バレーボール大会（秋田市）
- 10月2日 コメディカル研究発表会
- 10月4日 職員採用試験
- 10月7日 横手保健所立入検査
- 10月17日 研修旅行（酒田）
- 10月18日 市民と集う看護フォーラム
- 10月21日 秋季防災訓練
- 10月22日 研修旅行（酒田）
- 10月24日 研修旅行（仙台）
- 10月27日 病診連携セミナー
- 10月31日 研修旅行（酒田）
- 11月29日 秋田県医療学術交流会
- 12月7日 接遇研修会
- 12月18日 病院忘年会（横手セントラルホテル）
- 12月23日 白衣のクリスマスコンサート
- 平成22年1月4日 年始式
- 2月10日 臨床研修病院合同説明会（秋田大学）
- 3月11日～13日 病院機能評価 訪問審査
- 3月19日 病院送別会（横手セントラルホテル）
- 3月21日 東北ブロック臨床研修病院合同説明会（仙台市）
- 3月30日～31日 退職者辞令交付式

基本理念

地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

基本方針

1. 患者さん中心の安全な医療の提供につとめます。
2. 地域医療・保健に貢献します。
3. 健全な病院経営につとめます。

市立横手病院の倫理綱領

我々市立横手病院で働く者は、地域の医療機関や行政機関等との連携を図りながら、公平、公正な医療を提供し、地域住民の健康の維持・増進を図り、地域の発展に貢献することを使命とする。

その守るべき行動規範は次の通り定める。

1 医療の質の向上

我々は医療の質の向上につとめ、人格教養を高めることによって、全人的医療を目指す。

2 医療記録の適正管理

我々は医療記録を適正に管理し、その情報を原則として開示する。

3 患者中心の医療の確立

我々は患者様に対し、パートナーとしての認識を持ち、十分な説明と同意のもとに医療を提供し、患者様の権利を擁護し、プライバシーの保護に努める。

4 安全管理の徹底

我々は安心して医療を受けられる環境を整備し、職員の安全教育を推進する。

5 地域社会との連携の推進

我々は地域の人々とは勿論のこと、地域の医療機関や福祉保健施設との緊密な連携に努める。

6 健全経営の確保

我々は公共性を確保すると共に、合理的かつ効率的な病院経営につとめ、健全で自立した経営基盤を確立する。

患者様の権利と責務

1. 患者様には、平等かつ公平に医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、診断・治療・経過について説明を受ける権利があります。
1. 患者様には、治療法を選択し、同意の上で医療を受ける権利があります。
1. 患者様には、プライバシーを尊重される権利があります。
1. 患者様には、疾病を克服するために提供される医療に協力し治療に支障がないよう配慮する責務があります。

病院の概要

病院の概要

開設者	横手市長 五十嵐 忠悦
名称	公立横手病院（平成17年9月30日まで） 市立横手病院（平成17年10月1日から）
所在地	秋田県横手市根岸町5番31号
開設年月日	明治22年12月15日
事業管理者	院長 長山 正四郎
病床数	一般病床250床（第2病棟58床、第3A病棟67床、第3B病棟60床、 第4病棟65床）、感染症病床4床、計254床
診療科目	内科、呼吸器科、消化器科、循環器科、アレルギー科、外科、整形外科、小児科、 産婦人科、泌尿器科、眼科、心療内科、麻酔科、リハビリテーション科、放射線科、 耳鼻いんこう科（休診）
看護体系	患者2.5：看護1、患者10：看護補助1

医療機関の指定等

指 定	救急告示指定 地域医療センター病院 臨床研修病院指定施設 母性保護法指定設備医療機関
認 定	財団法人日本医療機能評価機構認定 運動療法施設基準承認施設（運動療法施設、作業療法施設） 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設 日本アレルギー学会教育施設 日本外科学会外科専門医制度関連施設 日本整形外科学会専門医制度研修施設 日本産婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設 日本静脈経腸栄養学会NST稼動施設 日本栄養療法推進協議会認定NST稼動施設

病院施設の概要

敷地面積 8,201.81㎡

	構 造	建築面積(㎡)	延面積(㎡)	完成年月日
本館(第1期工事)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階建、塔屋2階	1,389.12	5,175.29	昭和60年8月24日
新館(第2期工事)	鉄筋コンクリート造、地下1階、地上4階、塔屋1階	2,175.96	6,406.67	平成4年7月31日
検診センター棟	鉄骨造、地上2階	272.55	506.55	平成6年3月10日
MR I 棟	鉄骨造、地上3階	160.91	414.97	平成9年3月19日
計		3,998.54	12,503.48	

病院統計

収支決算

貸借対照表

	平成 20 年度	単位:円
固定資産	4,447,036,299	
有形固定資産	4,446,008,719	
土地	246,506,628	
建物	1,809,072,019	
構築物	49,758,428	
器械及び備品	1,037,558,895	
車両	3,766,939	
建設仮勘定	1,299,345,810	
無形固定資産	1,027,580	
電話加入権	1,027,580	
流動資産	2,188,882,743	
現金預金	1,128,664,797	
未収金	1,024,349,362	
貯蔵品	35,868,584	
その他流動資産	0	
資産合計	6,635,919,042	
流動負債	179,067,680	
未払金	179,039,121	
預り金	28,559	
預り有価証券	0	
負債合計	179,067,680	
資本金	6,428,936,611	
自己資本金	2,755,416,153	
借入資本金	3,673,520,458	
企業債	3,673,520,458	
剰余金	57,285,000	
資本剰余金	57,285,000	
受贈財産評価額	0	
他会計負担金	57,285,000	
他会計補助金	0	
国県補助金	0	
利益剰余金	1,860,000	
減債積立金	1,860,000	
当年度未処分利益剰余金	0	
欠損金	31,230,249	
当年度未処理欠損金	31,230,249	
資本合計	6,456,851,362	
負債資本合計	6,635,919,042	

収益的収支決算（税抜き）

科目	平成 21 年度
病院事業収益	4,734,057,212
医業収益	4,460,613,253
入院収益	2,713,100,817
外来収益	1,513,753,829
その他医業	233,758,607
医業外収益	273,443,959
受取利息及び配当金	680,394
国県補助金	17,020,650
他会計補助金	5,848,850
他会計負担金	232,769,500
その他医業外収益	17,124,565
特別利益	0
病院事業費用	4,705,446,236
医業費用	4,617,386,547
給与費	2,591,066,700
材料費	1,233,516,224
経費	446,702,769
減価償却費	319,885,134
資産減耗費	7,262,054
研究研修費	18,737,066
重量税	216,600
医業外費用	88,058,689
支払利息及び企業債取扱諸費	87,818,296
雑損失	240,393
特別損失	1,000

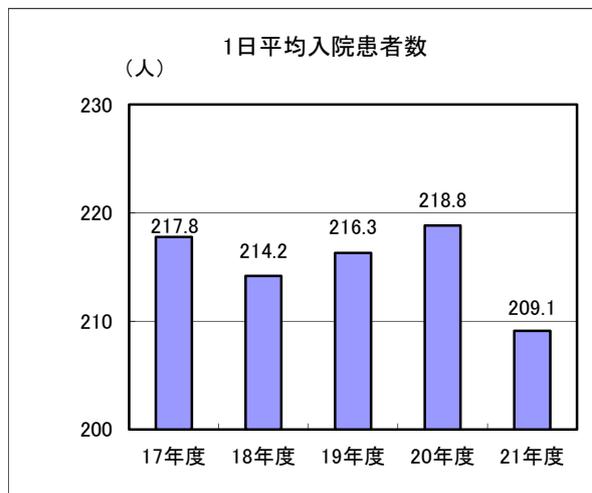
単位：円

資本的収支決算

資本的収入	2,403,310,000
他会計出資金(H18より)	447,610,000
企業債	1,955,700,000
固定資産売却代金	0
資本的支出	2,688,264,247
建設改良費	1,410,768,134
企業債償還金	1,277,496,113
差引収支不足額	△ 284,954,247
補てん財源	284,954,247
過年度分損益勘定留保資金	284,954,247

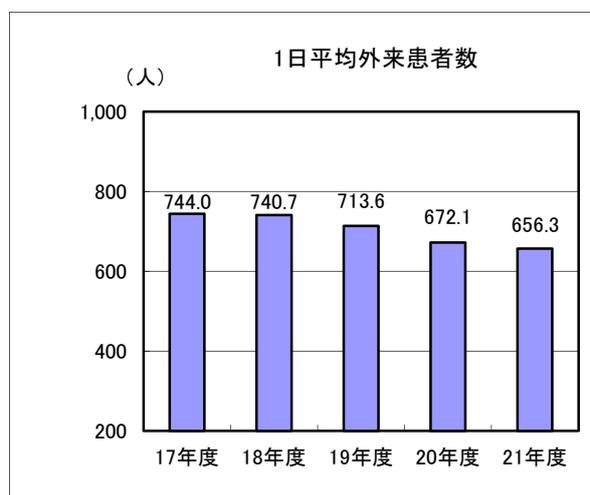
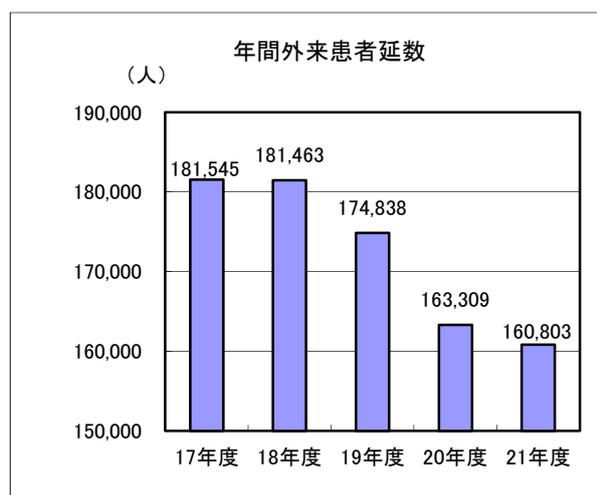
診療科別入院患者数

科	年間入院患者延数					1日平均入院患者数				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
内科	7,668	7,929	8,256	3,174	2,345	21.0	21.7	22.6	8.7	6.4
呼吸器科	5,382	7,034	7,494	7,309	8,280	14.7	19.3	20.5	20.0	22.7
消化器内科	18,914	18,022	24,822	27,180	28,561	51.8	49.4	68.0	74.5	78.2
循環器内科	9,314	7,716	9,540	12,732	6,643	25.5	21.1	26.1	34.9	18.2
外科	11,851	14,397	13,653	13,981	12,718	32.5	39.4	37.4	38.3	34.8
整形外科	11,751	9,999	4,895	5,745	9,992	32.2	27.4	13.4	15.7	27.4
産婦人科	4,304	4,074	3,169	3,446	3,025	11.8	11.2	8.7	9.4	8.3
小児科	5,656	4,285	3,842	3,562	2,475	15.5	11.7	10.5	9.8	6.8
泌尿器科	4,654	4,720	3,282	2,745	2,236	12.8	12.9	9.0	7.5	6.1
麻酔科					50					
計	79,494	78,176	78,953	79,874	76,325	217.8	214.2	216.3	218.8	209.1



診療科別外来患者数

科	年間外来患者延数					1日平均外来患者数				
	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
内科	41,620	41,654	46,973	43,193	43,365	170.6	170.0	191.7	177.7	177.0
呼吸器科	3,519	5,265	5,078	5,388	4,740	14.4	21.5	20.7	22.2	19.3
消化器内科	18,625	16,571	17,060	17,725	18,719	76.3	67.6	69.6	72.9	76.4
循環器内科	13,335	13,636	14,425	13,288	11,300	54.7	55.7	58.9	54.7	46.1
外科	14,647	15,565	15,473	15,050	14,432	60.0	63.5	63.2	61.9	58.9
整形外科	28,478	26,881	20,321	17,968	19,717	116.7	109.7	82.9	73.9	80.5
産婦人科	7,348	7,959	7,032	6,814	6,432	30.1	32.5	28.7	28.0	26.3
小児科	38,562	38,025	33,790	30,118	26,896	158.0	155.2	137.9	123.9	109.8
泌尿器科	14,224	14,640	13,377	12,557	13,330	58.3	59.8	54.6	51.7	54.4
眼科	1,187	1,267	1,309	1,208	1,571	4.9	5.2	5.3	5.0	6.4
麻酔科					301					
計	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803	744.0	740.7	713.6	672.1	656.3



新患患者数（外来）

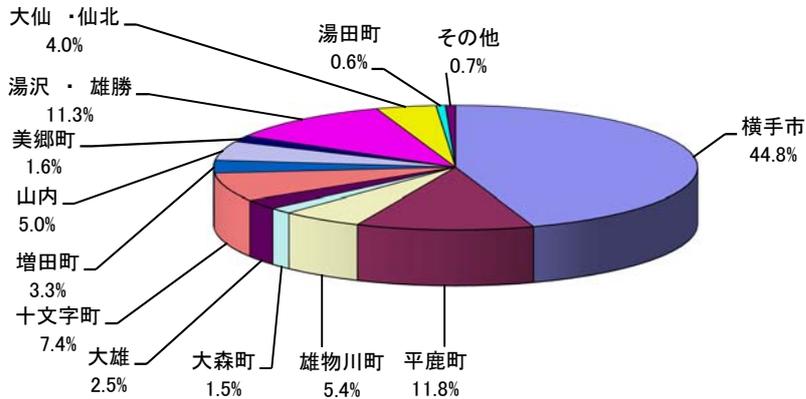
	18年度	19年度	20年度	21年度
内 科	753	916	817	936
外 科	248	206	156	152
整形外科	568	281	239	289
婦人科	139	118	102	88
小児科	759	563	343	375
泌尿器科	76	62	46	42
眼 科	2	4	0	7
心療内科	2	3	1	3
アレルギー・呼吸器内科	117	75	68	15
消化器内科	164	255	215	185
循環器内科	97	85	43	6
放射線科	9	4	19	11
人工透析	7	3	1	0
麻酔科（ペインクリニック）	0	0	0	8
合 計	2941	2575	2050	2117

地域別患者数の状況

【入院】

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
横 手 市	36,628	36,693	35,090	33,944	34,190
平 鹿 町	8,363	8,696	8,338	8,707	9,029
雄物川町	5,212	4,701	3,737	3,837	4,140
大 森 町	1,111	989	709	866	1,161
大 雄	2,708	2,240	2,278	2,340	1,939
十文字町	5,697	5,489	6,519	6,782	5,614
増 田 町	2,799	2,609	3,922	3,964	2,535
山 内	4,321	4,903	4,376	3,745	3,803
美 郷 町	4,397	1,591	1,868	1,513	1,250
湯沢・雄勝	5,056	6,479	8,651	10,576	8,620
大仙・仙北	941	1,930	2,347	2,564	3,057
湯 田 町	448	529	693	463	477
そ の 他	1,813	1,527	425	573	510
合 計	79,494	78,376	78,953	79,874	76,325

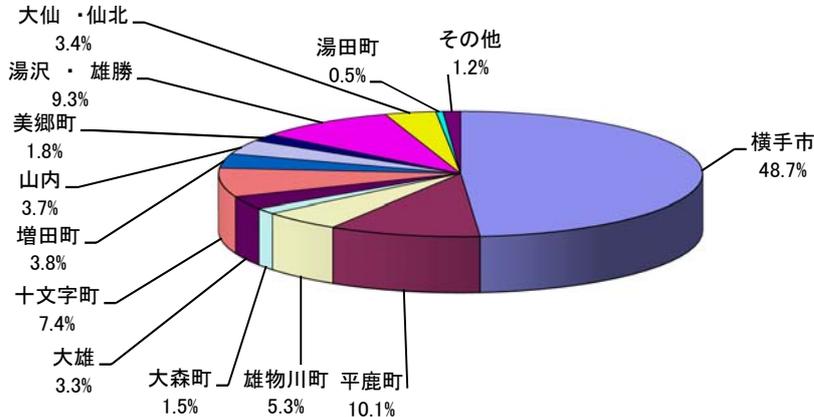
地域別患者構成比【入院】(平成21年度)



【外来】

	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度
横手市	98,943	93,178	88,798	80,959	78,338
平鹿町	20,179	19,055	17,941	16,359	16,239
雄物川町	10,369	10,501	9,809	8,606	8,533
大森町	3,300	3,118	2,809	2,663	2,401
大雄	6,223	6,481	5,792	5,711	5,339
十文字町	10,340	12,012	11,682	11,611	11,951
増田町	5,362	6,775	6,515	6,233	6,045
山内	7,734	7,392	7,001	6,173	6,006
美郷町	5,161	4,182	3,926	3,128	2,957
湯沢・雄勝	8,255	11,609	13,473	14,463	14,884
大仙・仙北	2,013	4,124	4,738	5,176	5,479
湯田町	838	764	820	840	773
その他	2,828	2,272	1,534	1,387	1,858
合計	181,545	181,463	174,838	163,309	160,803

地域別患者構成比【外来】(平成21年度)



紹介患者数（科別）

	18年度	19年度	20年度	21年度
内 科	321	316	167	165
消化器科	493	664	746	770
循環器科	149	188	130	124
呼吸器科	123	106	80	95
外 科	157	124	132	125
整形外科	356	248	246	315
婦人科	207	169	156	181
小児科	487	375	310	291
泌尿器科	110	69	112	89
眼 科	9	4	6	17
心療内科	4	20	9	9
麻 酔 科				20
放射線科	707	590	712	760
計	3,123	2,873	2,806	2,961

紹介患者（診察）地域別統計

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
全 区	横 手	1,427	1,309	1,079	1,178
	大 森	29	34	26	38
	平 鹿	89	82	58	82
	十 文 字	192	178	197	160
	増 田	40	55	51	41
	大 雄	27	16	22	16
	雄 物 川	38	34	20	26
	山 内	27	19	15	19
	美 郷 町	28	30	54	43
	湯 沢 ・ 雄 勝	128	198	277	233
	大 仙 ・ 仙 北	45	44	57	86
	西 和 賀 町	15	9	22	26
	県 内	97	115	67	83
	そ の 他	191	116	129	140
計	2,373	2,239	2,074	2,171	
県内 (詳細)	大 館 市	1	3	0	1
	秋 田 市	86	103	60	70
	由 利 本 荘 市	6	6	2	7
	鹿 角 市	0	1	0	1
	能 代 市	3	1	1	2
	北 秋 田 市	0	0	3	0
	湯 上 市	0	1	0	1
	男 鹿 市	0	0	0	1
	南秋田郡八郎潟町	1	0	1	0
	計	97	115	67	83

救急患者統計

	救急患者数	救急車で来院	その他	帰宅	入院	転送	その他	軽症	中等症	重症	死亡
18年度	16,186	647	15,539	15,281	853	21	31	15,302	594	259	31
19年度	14,694	701	13,993	13,732	896	31	35	13,763	584	312	35
20年度	12,070	680	11,390	11,201	808	32	29	11,232	490	318	29
21年度	12,946	706	12,240	12,057	821	33	35	12,085	486	335	35

	内科	小児科	整形外科	外科	産婦人科	泌尿器科	眼科	計
18年度	5,061	8,204	1,495	1,043	230	153	0	16,186
19年度	5,193	7,286	995	913	160	146	1	14,694
20年度	4,366	5,766	803	893	104	136	2	12,070
21年度	4,769	6,480	810	595	173	114	5	12,946

部門報告

部 門 報 告

診療科

内 科

老 年 科

H20年度より下斗米先生の異動に伴い、代謝内分泌分野の外来枠は月、火、木の週3回となり、秋田大学糖尿病内分泌内科の医師が担当した。このため、外来の縮小に伴い、1日の外来患者数も増加し、待ち時間など患者様には負担を強いることになった。

診療疾患は、糖尿病、高血圧、脂質異常症が大部分を占めており、次に甲状腺疾患が多く、内分泌疾患は少数である。入院が必要な際は、大部分は消化器科の先生にお願いしているが、一部は大学へ紹介し対応している。また、他科に入院中の患者様に関しては、主に血糖コントロールの依頼が多く、各医師が協力して診療に当たっている。

現在は、外来患者数が年々増加し、予約もなかなか困難になっている状況である。今後は、新患患者や重症患者に多く対応できるように、状態が落ち着いた患者は地域の開業医の先生に紹介するなど、病診連携に力を入れていきたいと考えている。

<文責 細葉美穂子>

脳神経内科

スタッフ：医師 塩屋 斉
外来診察助手 梅川素子（月）
外来診察助手 高橋香里（水、金）
看護師 最上智佳子（木）

診療時間：午前は8時45分から、午後は1時30分から

診療内容：月曜日（午後）・・・頭痛外来
火曜日（午後）・・・脳ドック
水曜日（午後）・・・頭痛外来
木曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来
金曜日（午前）・・・脳神経内科・頭痛外来

平成21年度頭痛初診患者数：総計750人（男性203人、女性547人）

片頭痛： 496人（男性101人、女性395人）
緊張型頭痛： 180人（男性 48人、女性132人）
群発頭痛： 12人（男性 11人、女性 1人）
神経痛： 66人（男性 25人、女性 41人）
副鼻腔炎： 56人（男性 21人、女性 35人）
外傷後： 4人（男性 3人、女性 1人）
その他（くも膜下出血、脳出血、動脈解離、髄膜炎、他）：21人

上記の頭痛初診患者さんの中で薬物乱用頭痛は52人で全体の6.9%を占めていた

平成21年度疾患別入院患者数：総計55人

脳梗塞： 42人
一過性脳虚血発作： 1人
脳出血： 4人
椎骨脳底動脈循環不全： 2人
片頭痛発作： 2人
神経痛発作： 1人
症候性てんかん： 1人
頭部外傷： 1人
誤嚥性肺炎： 1人

「講演・学会発表」：

平成21年2月6日（金）

大曲頭痛ワークショップ「頭痛外来と慢性頭痛について」

大曲エンパイアホテル

平成21年2月27日（金）

グラクソ・スミスクライン社内研修会「頭痛外来と慢性頭痛について」

商工中金・第一生命秋田ビル6F会議室

平成21年6月5日（金）

大館頭痛ワークショップ「頭痛外来へようこそ：慢性頭痛の診断と治療」

ホテルクラウンパレス秋北

平成21年 7月24日 (金)
湯沢雄勝薬剤師会学術講演会「頭痛外来へようこそ：慢性頭痛の診断と治療」
湯沢ロイヤルホテル

平成21年 7月28日 (火)
大曲仙北養護教諭研修会「頭痛外来へようこそ」
大仙市大曲交流センター

平成21年 7月30日 (木)
大曲仙北薬剤師会学術講演会「頭痛外来へようこそ：慢性頭痛の診断と治療」
グランドパレス川端

平成21年10月23日 (金)
横手市養護教諭研究会秋季研修会「頭痛外来へようこそ」
サンサン横手

平成21年11月28日 (土)
第37回日本頭痛学会総会スポンサードレクチャー
「頭痛専門外来の役割と責任：地域での取り組み」
宇都宮東武ホテルグランデ
パネルディスカッションのパネリスト

平成21年12月 4日 (金)
仙北地区頭痛勉強会「頭痛外来へようこそ：慢性頭痛の診断と治療」
ニュー大切

「番組出演」

平成21年 2月20日 (金)
A K Tテレビ「健康でけっこー」「緊張型頭痛」

平成21年 6月11日 (木)
NHKテレビ「ドクターこまち」「女性に多い片頭痛」

平成21年 6月17日 (水)
NHKテレビ「ドクターこまち」「肩こりから来る緊張型頭痛」

平成21年 7月10日 (金)
A K Tテレビ「知っとく！メディカル情報」「目の奥の激しい痛み・群発頭痛」

平成21年10月26日 (月)
A B Sラジオ「みんなの健康」「目の奥の激しい痛み・群発頭痛」

平成21年11月 2日 (月)
A B Sラジオ「みんなの健康」「薬物乱用頭痛にご用心」

平成21年12月25日 (金)
A K Tテレビ「知っとく！メディカル情報」「薬物乱用頭痛にご用心」

「当院頭痛外来の書籍掲載」

週刊誌「週刊現代」2009年 3月28日号 「ニッポンの最先端医療：頭痛外来」
健康雑誌「安心」2009年 9月号 「頭痛がスッと消える最新最強撃退術」

「当院頭痛外来のテレビ紹介」

平成21年11月27日 (金)
フジテレビ「とくダネ！」「新常識ニッポンの医療：頭痛」

<文責 塩屋 斉>

消化器科

消化器内科医師

船岡 正人
藤盛 修成
奥山 厚
小田嶋 傑
武内 郷子
渡部 昇 (後期研修医)
木下 幸寿 (後期研修医)
中島 裕子 (週 2 回腹部超音波検査担当)
佐藤美知子 (週 1 回腹部超音波検査担当)

消化器内科医不足がさらに顕著となってきた秋田県内において、当院消化器内科は新たに当院で初期研修をおこなった渡部先生、秋田赤十字病院で初期研修を終えた木下先生が消化器内科の後期研修医として加わり、常勤医 5 名、後期研修医 2 名、腹部超音波検査を担当していただいている非常勤の中島先生、佐藤先生とベテランから若手まで、また消化管・肝胆膵領域にバランスのとれた診療体制となってきた。

消化管の分野では上部・下部内視鏡検査は検査件数が毎年増加傾向にあるが、本年度も昨年に比し増加を認めた。治療に関しても食道・胃・大腸の早期癌に対する治療内視鏡をはじめ、小腸疾患のカプセル内視鏡、ダブルバルーン内視鏡による診断・治療と消化管疾患の幅広い診断・治療がなされてきている。内視鏡件数・治療内視鏡の増加に関しては、内視鏡内視鏡室のスペース、人的な問題が山積であるがこれは病院増築後にできる消化器センターが設けられることにより改善が期待される。

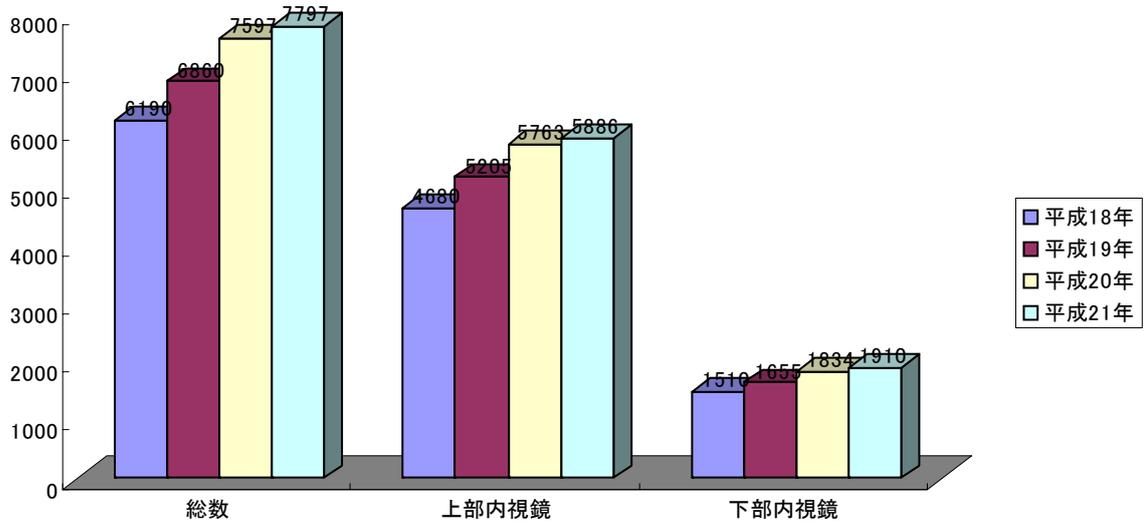
肝胆膵疾患に対しても内視鏡による胆道疾患の診断治療、肝癌に対して TAE・RFA による集学的治療も積極的におこなわれており良好な成績をおさめている。

現在当院の消化器内科は消化管・肝胆膵領域ともに専門医が複数おり、また外科・放射線科医との共同によりほぼ院内で完結した医療がおこなえる状態となっている。課題としてはさらに高度な医療を行うために、今後導入される予定である超音波内視鏡などの最新機器を用いたあらたな診断・治療手技の習熟に関して医師・コメディカル研修などが必要と思われる。

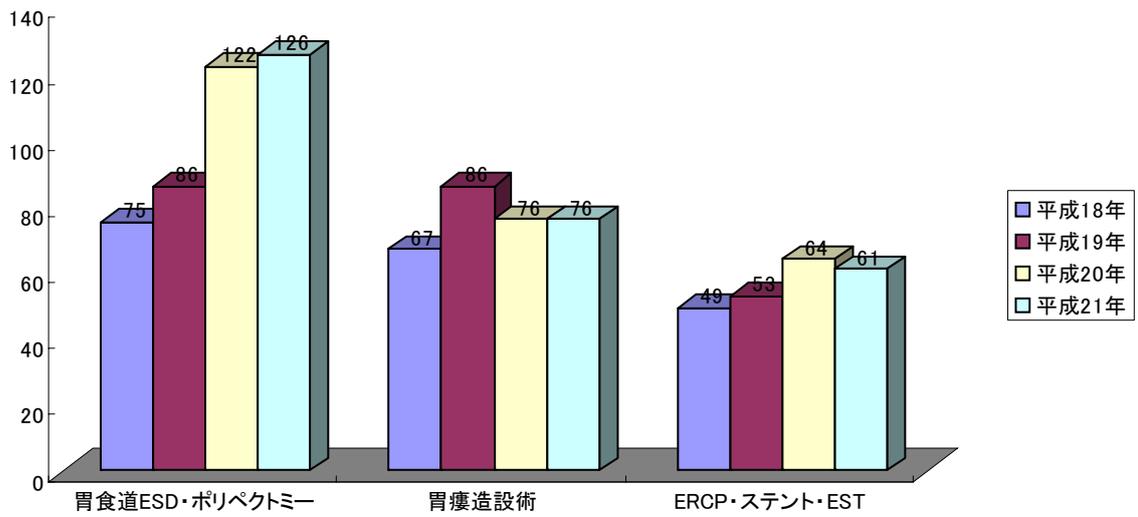
今後は後期研修医の消化器内科医としての研修プログラムを構築することや、研究発表や症例報告などの学会活動や臨床研究などを行い県南における消化器疾患の臨床をさらに高度なものを目指すことが目標と考えられる。

<文責 小田嶋 傑>

内視鏡検査数の推移



治療内視鏡の推移



循環器科

スタッフ

常勤医師

循環器科科長

根本 敏史 (平成15年5月1日から 現在在職中)

和泉千香子 (平成8年6月1日から 現在在職中)

検査技師

平塚多喜雄 (生理検査室)

川越 弦 (臨床工学技士)

柏谷 肇 (臨床工学技士)

大嶋 聡子 (生理検査室)

外来診察助手(循環器科担当)

金子 洋子

検査 (平成21年4月1日から平成22年3月31日)

心臓カテーテル検査	38件
心臓超音波検査	1677件 (経食道心臓超音波検査含む)
頸動脈超音波検査	220件
ホルター心電図	290件
トレッドミル	12件
24時間心電血圧計	1件
ペースメーカー植え込み	15件 (新規 8、交換 7)
体外ペーシング	1件
下大静脈フィルター留置	1件
血圧脈波検査	344件
CCO用スワングアンツカテーテル留置	0件

循環器科の体制は、これまで通り、根本・和泉の2人体制である。看護助手の金子さん、平塚さん、大嶋さん、ME川越さん・柏谷さんの協力のもと、今年度も今まで通りの業務をこなしてきたが、同級生2人組の加齢による変化は否めない感がある。

血管撮影装置が昨年9月に更新され、心臓カテーテル検査はコンスタントに行われた。循環器科をローテーションしている臨床研修医への指導も行い、特にスワングアンツカテーテル検査はすべての研修医に経験してもらった。

心エコーに関しては検査数に大きな変化はないが、診断装置の衰えが顕著であり、検査途中で消えてしまったり、電源が入りにくかったり、検査に支障をきたし始めている。基盤の交換などで対応してきたが、来年度は更新しなければいけないと感じている。心エコーに関してすべての研修医に経験してもらった。将来的に何科にいてもエコー検査が出来るということは強みになると考え、ルーチン検査が出来ることを目標にがんばっている。今年の研修医1年目は非常に積極的であり、時間外に自習している姿を見かけた。非常に喜ばしい瞬間であった。

外来業務は大きな変わりはない。二人で週6コマの外来を継続して行っている。循環器疾患は慢性疾患であり、患者の年齢層も高い。顔ぶれも固定されてきてはいるが、近隣の医院の閉院などで微増傾向は続いている。外来助手の金子さんはベテランの域に達し、循環器科外来の一員として診察前後の患者さんに対応してくれている。

入院に関しても患者年齢層が高いのは変わらない。心不全を中心に不整脈、虚血性心疾患による入院が多かった。高齢者が多いため、在院日数が長くなってしまいがちなのが悩みの種である。しかし、心臓カテーテル検査が増えたことによる検査入院もクリニカルパスを利用し、2泊3日の日程で行った。ペースメーカー交換入院もクリパスの利用をすすめており、順調である。これらを平均して在院日数の緩和に努めたい。

同級生二人組のコンビとして業務に関しては連携もとれ、順調にこなしている循環器科ではあるが、年齢を重ねることで体力的には厳しい状況も出てきている。健康に注意して仕事をしていきたい。

<文責 和泉千香子>

呼吸器科・アレルギー科

<診療内容の概要>

現在、火（竹田）、水・金（齋藤）に外来を行っている。外来では、気管支喘息、肺気腫等については主に竹田が、その他呼吸器全般、特殊なアレルギー疾患については齋藤が担当している。近年は肺癌患者が増加しており、入院および外来にて化学療法を行っている。また、肺気腫、結核・非結核性抗酸菌後遺症等による慢性呼吸不全患者に対し、在宅酸素やNIPPV（非侵襲的陽圧換気装置）を導入している。

<特徴・特色>

気管支喘息などアレルギー疾患はストレスにより増悪する（心身相関する）という報告が多数あり、また呼吸器科においては、過呼吸症候群、原因不明の胸苦、肺がん患者など、心療内科的・緩和医療的アプローチが非常に重要となってきている。当科では平成20年度から、問診・症状によって心療内科的アプローチが必要と考えられた症例には積極的に心理テストを行い、心身症、神経症、うつ病等の鑑別を行い、心身両側面から診断・治療を行うよう心がけている。

<文責 齋藤紀先>

心療内科

心療内科は毎週火曜日、金曜日と診療を行っている。完全予約制で、スタッフは医師一名（榊田理恵）、看護師一名（赤平綾子）の体制で行っている。

火曜日は榊田理恵が外来を担当している。外来のほか、内科・小児科等からの依頼を受けて入院・外来で診療している。子供の心療内科、ということで、やはり15歳以下の子どもの受診は多い。状態・疾患では、不登校が最も多く、他に発達障害（自閉症など）、引きこもり、がみられる。「子どもの心療内科」と標榜しているが、診療エリアは多岐に渡り、ターミナルケア、老年期のうつ、などに及んでいる。受診人数は約20人／日である。一人につき30分を目安としているが、初診の場合特に1時間は超えることが多い。また、看護師との役割分担においても、看護サイドの受容的かかわりにより、受診している患者さんたちの自己治癒力が引き出されているようである。昨年度5月より臨床心理士によるカウンセリングの導入されており、子供の場合著効がみられており、今後も継続する方針である。火曜日、金曜日に臨床心理士によるカウンセリング、箱庭療法などを定期的に行っている。

<文責 榊田理恵>

外科

総括

消化器を中心に乳腺内分泌疾患、呼吸器疾患を担当した。スタッフが充実し、さらにコミュニケーションを図ってチームによる質の高い診療を目指した1年間であった。

スタッフ

常勤

- ・ 丹羽 誠 (S55秋田卒)
- ・ 吉岡 浩 (S59自治卒)
- ・ 粕谷孝光 (S63秋田卒)
- ・ 加藤 健 (H6秋田卒)
- ・ 若林俊樹 (H14秋田卒) H21年10月より

専門医修練認定施設関係

- ・ 日本外科学会専門医制度関連施設
- ・ 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設
- ・ 日本消化器病学会専門医制度認定施設
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設

人事動向

- ・ 若林先生は1年6ヶ月間の秋田赤十字病院での研修を終了して当院へ戻り、外科専門医を取得、更なる活躍をされることとなった。
- ・ 今までどおり毎週(水)大森病院の藤田先生に手術応援をして頂いた。
- ・ 臨床研修医1年目の佐々木研、荻原、高木、佐伯の各先生が外科研修をされた。

診療関係

- ・ リンパ浮腫外来を月2回秋田大学医学部看護学科高貝先生が担当して下さった。ストマ外来は当院WOC佐藤美夏子看護師が月2回担当した。リンパ浮腫外来は秋田市以外では唯一である。
- ・ 乳腺外来は週1回完全予約制を週2回とし、患者さんの便宜を図った。乳がん手術での温存率は70%となり、センチネルリンパ節生検も標準術式となった。これは平鹿病院病理診断科の御協力があったことである。
- ・ 待望していた麻酔科常勤医寺田先生(麻酔学会指導医)を得て、手術日程の余裕が大きく広がった。秋大麻酔科と横手市梅の木クリニック松元茂先生のご協力は継続して頂き、麻酔科一人体制を支えるため各診療科でも協力を行った。
- ・ 肺悪性で縦隔郭清を前提とする症例の手術では、秋田大学呼吸器外科小川教授に今年も御指導を頂いた。
- ・ 消化管の腹腔鏡下手術を吉岡先生主導の下にさらに展開した。
- ・ 加藤・若林両先生の活躍で肝胆道膵の手術が安定化した印象がある。
- ・ 消化器癌、乳がん化学療法選択枝増大に伴い、オーダーリングでの標準化、パスの整備を行った。

薬剤師の積極的関与が進み、診療の質の向上に貢献している。

- ・ 小川感染管理認定看護師と協力し、SSI サーベイランスを日常業務とした。
- ・ 病棟での連携（医師同士、看護師、薬剤師、リハビリ、事務）を心がけ、週1回金曜日午後のカンファランスを丁寧に行うように務めた。化学療法の適応評価、全人的苦痛の評価、倫理的ジレンマ、ケアのゴール設定の検討などが課題である。

・ 総説

- 1) 嘉藤茂, 伊藤登茂子, 煙山晶子, 橋本誠, 丹羽誠 (2009) 秋田県における学びの場づくりからみた緩和ケアの歩み 秋田県ターミナルケアを学ぶ会、症状マネジメント勉強会、秋田県緩和医療研究会をめぐって 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻紀要 17、44-53

学会発表

全国

第71回日本臨床外科学会総会、11月、京都

- 1) 加藤健、粕谷孝光、吉岡浩、丹羽誠、泉純一、平野弘子 (2009) 胸部CT上すりガラス様陰影 (GGO) を呈した乳癌肺転移の1例
- 2) 若林俊樹 (2009) 腎細胞癌根治的手術後に小腸転移をきたした一例

第24回日本静脈経腸栄養学会総会、1月、鹿児島

- 1) 櫻谷麻美、船岡正人、粕谷孝光、木村カズ子、渡部香織、渡邊あかね、金子由美子、藤井洋子、原田優子、川越真美、小宅英樹、高橋洋、佐々木美奈子 (2009) NST介入により経口摂取可能になった肺炎患者の1症例
- 2) 古屋智規、蛇口達造、長谷川由美子、鈴木裕之、添野武彦、佐々木智好、遠藤和彦、佐藤美和子、大内慎一郎、向井想一、八代均、粕谷孝光、金子由美子、細谷重直、由利由美子、高嶋恵美子 (2009) 秋田県における地域連携型NSTに向けた課題 秋田県NST研究会の現況報告

第18回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会、5月、仙台

- 1) 佐藤美夏子、粕谷孝光 (2009) ストーマ周囲皮下膿瘍腔と離開部が交通した症例に減圧療法を活用した経験

第82回日本超音波医学会学術集会、5月、東京

- 1) 長沼裕子、藤盛修成、小田嶋傑、丹羽誠、小丹まゆみ、大嶋聡子、石田秀明、渡部多佳子、伊藤恵子、大山葉子 (2009) 門脈血栓症における造影エコーの意義

地方会

第5回県南緩和医療研究会、12月、横手

- 1) 加藤健、若林俊樹、粕谷孝光、吉岡浩、丹羽誠 (2009) 地域連携で高める緩和ケア～S状結腸癌肝肺転移の1例～

第186回日本消化器病学会東北支部例会、2月、仙台

- 1) 渡部昇、船岡正人、小田嶋傑、武内郷子、奥山厚、藤盛修成、吉岡浩、粕谷孝光、加藤健、丹羽誠（2009）術後癒着による胃軸捻転の1例

第37回社団法人日本超音波医学会東北地方会学術集会、3月、仙台

- 1) 長沼裕子、本郷麻依子、船岡正人、吉岡浩、泉純一、法花堂学、小丹まゆみ、大嶋聡子、石田秀明、渡部多佳子（2009）胆嚢捻転症の一例

第38回日本超音波医学会東北地方会学術集会、9月、福島

- 1) 小丹まゆみ、大嶋聡子、長沼裕子、藤盛修成、船岡正人、加藤健、平野弘子、泉純一、石田秀明、高橋正人（2009）造影エコーで経過を観察した黄色肉芽腫性胆嚢炎（XGC）の一例

外科手術件数

疾患名	数	鏡視下手術件数、再掲
食道悪性	1	
胃良性	6	
胃悪性全摘	15	
胃悪性幽門側	23	
胃悪性噴門側		
胃悪性その他	3	
胆摘(胆石・胆のう炎)	40	35
うち術中胆管切石		
膵・胆管・胆のう悪性	14	
胆道良性	1	
肝悪性	3	
うちRFA	1	
結腸良性		
結腸悪性	52	
直腸悪性	19	
成人虫垂切除	31	29
腸閉そく	6	
腹膜炎	8	
小腸良性	1	
炎症性腸疾患	1	
その他の消化器	6	
成人鼠径・大腿ヘルニア	44	
閉鎖孔ヘルニア		
痔核	12	
痔ろう・肛門周囲膿瘍	6	
その他		
乳腺良性	6	

乳腺悪性	15	
肺良性	3	
肺悪性	5	
副甲状腺		
甲状腺良性	1	
甲状腺悪性	3	
中心静脈ポート	22	
成人その他	46	
小児鼠径ヘルニア	15	
小児虫垂切除	17	17
小児その他	1	
	426	
全麻	318	
腰麻	23	
局麻	85	
	426	

< 文責 丹羽 誠 >

整形外科

スタッフ

平成21年4月1日現在のスタッフ氏名

医師：江畑公仁男

富岡 立

看護師：小野ゆう子

田中 京子

工藤 真美

事務：藤原真喜子

概要、平成21年度特記事項、業務内容

【外来】

H. 21年4月より富岡医師が赴任し、常勤医2名で外来診察をおこなった。

外来患者数 1643人/月、80.4人/日であった。

【入院】

入院患者総数 9992人/年、27.3人/日であった。常勤医の増加に伴い入院患者数が増加し、手術件数も倍増した。

手術件数

脊椎		104
腰椎	ヘルニア切除術	34
	開窓術	31
	PLIF	28
胸椎		2
頸椎	拡大術	7
骨折		109
	大腿骨骨接合術	30
	大腿骨人工骨頭挿入術	14
	その他骨接合術	65
人工関節置換術		18
	THA	4
	TKA	14
手根管・肘部管開放術		21
膝関節疾患		6

その他	64
-----	----

総数	322
----	-----

H. 21. 9月から手術室にバイオクリーンルームが新設され、人工関節手術や腰椎固定術が清潔な環境で施行できる状況が整った。これによりインプラントが必要な手術を積極的に行えるようになりTKA, THAが増加、PLIFは28件と前年度の倍以上に増加した。

富岡医師により骨折に対する先端治療であるイリザロフ創外固定治療を行うようになり、骨折治療の選択枝がひろがった。

H. 21. 5月から常勤の麻酔科医師が赴任し、毎日全身麻酔の手術が行えるようになった。

今後手術件数は増加していくと予想されるが、外来患者数も増加しており午後しか手術を組めないのが悩ましいところである。外傷患者の手術も増加傾向にあり、余裕をもった手術ができるようにならないかとスケジュールの調整を思案している。

<文責 江畑公仁男>

小児科

stuff 医師：常勤 小松 明
 非常勤 小山田 遵（第1、3月曜日午前中）
 看護師：石田亜希子、伊藤 良子
 事務：高橋 香里、梅川 素子

外来

診療時間：午前8時30分～、午後14時～ 内容：表-I～IVを参照。

表-I：外来診療内容

	午 前	午 後
月	一般診療	検査、予防接種（冬季インフルエンザワクチン）
火		乳児健診
水		予防接種
木		1、3週 乳児健診
金		慢性外来

表-II：各外来患者数

	一般外来	乳児健診				予防接種	慢性外来	合計
		1ヶ月	7ヶ月	10ヶ月	その他			
H21/4月	2418	24	5	9	0	99	133	2680
5月	2127	22	3	10	1	68	150	2374
6月	1649	23	7	15	1	78	132	1898
7月	1256	28	8	12	0	152	149	1597
8月	1718	25	7	2	0	125	100	1969
9月	1508	32	6	17	0	128	110	1793
10月	2296	25	8	12	1	108	146	2588
11月	2840	29	4	7	0	347	141	3326
12月	1837	29	4	12	1	681	161	2687
H22/1月	1646	22	11	14	0	233	117	2005
2月	1819	22	6	9	1	118	106	2076
3月	1942	32	5	11	3	137	117	2239
合計	23056	313	74	130	8	2274	1562	27232

表－Ⅲ：予防接種内訳

DPT	650	A型肝炎	4
MR	269	B型肝炎	2
おたふく	53	ヘブスブリン	1
水痘	46	Hib	58
BCG	129	季節性インフルエンザ	688
DT	2	新型インフルエンザ	342
破傷風	1		
風疹	1		
ポリオ	6	合計	2252

- * 一日平均患者数 約74.6人（土、日、祝日も含む）。前年比 -8.0人。
- * 外来患者総数 27232人。前年比 -2900人。
- * 一般外来患者総数 23056人。前年比 -2575人。
- * 乳児健診受診総数 517人。前年比 -140人。
- * 予防接種外来受診総数 2274人。前年比 +22人。
- * 慢性外来患者総数 1562人。前年比 -130人。

表－Ⅳ 医療機関別紹介件数

他医療機関から紹介		当院から紹介	
朝日ヶ丘レディースクリニック	192	高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	128
高橋耳鼻咽喉科眼科クリニック	63	阿部耳鼻咽喉科医院	37
しおたこどもクリニック	7	平鹿総合病院	31
おかだ小児科医院	12	(耳鼻咽喉科14)	
ダイゴクリニック	4	(小児科12)	
山田眼科医院	2	(救急外来1)	
		(形成外科1)	
		(循環器科1)	
		(脳神経外科1)	
		(整形外科1)	
		秋田大学附属病院 小児科	6
		守口耳鼻咽喉科医院	5
		すずき皮膚科クリニック	4
		山田眼科医院	3
		白鳥耳鼻咽喉科医院	2
		雄勝中央病院 耳鼻咽喉科	2
		(小児科1)	
		(耳鼻咽喉科1)	
		中通総合病院	2
他 医療機関	10	他 医療機関	22
合計	290	合計	242

昨年度に比し、他院からの紹介は19件減、当院からの紹介は16件増。

病棟（入院）

3 A病棟（整形外科との混合病棟、定床15床）。新生児入院は2 F新生児室にて管理。

表－V：疾患別入院数

		患者数	
感染症	気管支炎・肺炎等 ¹⁾	153	443
	上気道炎 ²⁾	44	
	喉頭炎	35	
	腸炎 ³⁾	120	
	歯肉・口内炎 ⁴⁾	13	
	中耳炎	14	
	髄膜炎・脳炎 ⁵⁾	2	
	インフルエンザ ⁶⁾	54	
	その他 ⁷⁾	8	
気管支喘息			39
精神・神経系	熱性けいれん	3	12
	無熱性けいれん	6	
	その他 ⁸⁾	3	
周産期	高ビリルビン血症 など ⁹⁾		9
川崎病			1
代謝・内分泌系 ¹⁰⁾			7
その他 ¹¹⁾			11
合計			522

- 1) RSV 感染症 57例を含む。
- 2) 溶連菌感染症 2例を含む。
- 3) ロタウイルス感染症 48例、サルモネラ感染症 4例、カンピロバクター感染症 3例を含む。
- 4) 手足口病 2例、ヘルパンギーナ 3例、ヘルペスウイルス感染症 7例を含む。
- 5) 新型インフルエンザウイルスによる急性脳症 1例を含む。
- 6) インフルエンザA 1例、B 10例、新型インフルエンザ 43例。
- 7) 突発性発疹症 1例、水痘 1例、尿路感染症 4例、ウイルス性肝炎 2例、を含む。
- 8) 脳梗塞 1例、髄膜瘤 1例、めまい症 1例。
- 9) ミルクアレルギー 1例、メレナ 1例、仮死 1例、高ビリルビン血症 1例、ダウン症候群 1例、TTN 3例、無呼吸 1例。
- 10) GH 分泌負荷試験 3例、周期性ACTH・ADH放出症候群 4例。
- 11) アレルギー性紫斑病 3例、肥厚性幽門狭窄症 2例、胃潰瘍 1例、急性虫垂炎 3例、哺乳不良 1例、AMMoL 1例含む。

表一VI：年齢別入院患者数

	男児	女児	合計
0-1才	39	54	93
1-2才	65	36	101
2-3才	47	35	82
3-4才	31	34	65
4-5才	26	13	39
5-6才	25	12	37
6-8才	19	21	40
8-10才	18	11	29
10-12才	17	5	22
12-14才	5	5	10
14才～	1	3	4
合計	293	229	522

院外活動

明照保育園（園医）

県南愛児園（園医）

横手市 4ヶ月、1才6ヶ月、3才児健診

ももの家講話

最後に

一人科長は大変だ、とよく言われるが、他人からトヤカク言われず自分のペースで仕事ができ、考えようによっては気楽なものである。ただひとたび不測の事態が生じると、すべての機能が麻痺し、復旧のメドはなかなか立たない。全国の小児科を取り巻く環境の変化に伴い、ここ秋田県でも小児科医の集約化がすすんでいる。拠点病院でない施設は、まあがんばってください、的な扱いをされる。しかし、いかに非力な小児科医と言えども、いる と いない とでは大違いであり、私がいつか当院を離れる時は必ず次の小児科医を探し出してバトンを渡したいと考えている。

<文責 小松 明>

産婦人科

平成21年度の産婦人科は前年度と同じスタッフでスタートしました。病棟のスタッフ(助産師)に産休の人が多く、少ない人数でがんばりました。

何ととっても大きなイベントは、病院増改築に伴う分娩室および産科病室の改修でした。約半年以上前より産科のスタッフでプランを練り、陣痛室や処置室、および従来の分娩室の一部をつぶして新しい分娩室を作り上げることになりました。LDRを2室作ることでまとまっていたのですが、従来のスペースの限られた空間・条件の中で作ること、また参考になる資料などもあまりなく、大変苦勞をしました。当初描いていたイメージとだいぶ変わった部分もありましたが(特に医療機器を置くスペースが大きくなってしまい、妊婦さんのプライベートな空間がかなり狭くなってしまった)、使いやすいLDR室が完成しました。

その後9月より産科病室の個室化が行われました。こちらにも既存の病室を分割したため、部屋によって入らないベッドがあるなどの制限もありますが、念願のシャワー・トイレ付きの個室が完成し、12月より稼働しました。改装中は古い病室を仮分娩室として利用するなど、妊婦さんには大変不便をおかけしましたが、無理を言って早めに作ってもらい、結果的にはよかったと思っています。

改修の影響か、分娩数・手術件数ともに近年にない落ち込みでした。分娩数はやはり出生数の減少が大きく影響していると思いますが、手術数の減少に関しては、この地域の産婦人科の体制を考え直す必要があるのではと思わせるほどでした。ただ1月より平鹿病院の麻酔科医の減少に伴い、他院より頼まれる症例も増えた気がします。

何ととっても今年度の一番の出来事は、1月、これまで一緒にがんばってきた滝澤 Dr.の転勤でしょう。私の来る前の平成14年4月より8年近くの間、私とも7年半2人でやってきました。この間の産婦人科の社会的立場や自分たちの環境の変化は著しく、感慨深いものがあります。今後横手市に家をおいたまま単身赴任するとのことですが、体調に気をつけてますますの活躍を期待します。

滝澤 Dr.がいなくなり、産婦人科1人体制になってしまいました。そして間もなく、産科にとって最も悲しい出来事である母体死亡を経験しました。他科の先生には本当にお世話になり、お礼申し上げます。この経験を無駄にしないよう今後もみんなでがんばっていきたいと思います。

<文責 畑澤淳一>

平成 21 年度手術		
件数	134	
全身麻酔	66	
硬膜外麻酔	17	
腰椎麻酔	7	
局所・静脈麻酔	42	
無麻酔	2	
腹式子宮全摘術	14	筋腫 7 腺筋症 1 高度異形成 1 CIS1 頸部腺癌 1 卵巣腫瘍 1
腔式子宮全摘術	8	筋腫 3 高度異形成 4 頸癌 1
子宮体癌	7	準広汎 1 TAH6
卵巣癌	3	子宮全摘+両側付属器切除+骨盤・大動脈周囲リンパ節郭清+大網切除
子宮脱	8	
膣閉鎖	2	
膣壁形成	3	
円錐切除	13	高度異形成 7 CIS4 浸潤癌 2
筋腫核出	5	
筋腫分娩	5	
ラパロ卵巣	14	卵巣嚢腫 8 内膜症 4 付属器炎 1 その他 1
ラパロ筋腫	2	
ラパロ外妊	1	
卵巣腫瘍(開腹)	3	
レゼクトスコープ	1	
帝王切開	12	
人工妊娠中絶	12	
流産手術	8	
胞状奇胎手術	1	
その他	3	
平成 21 年度分娩		
分娩数	137	うち死産 4 件
自然分娩	104	
圧出分娩	7	
吸引分娩	4	
鉗子分娩	8	
骨盤位牽出術	2	
帝王切開	12	

眼 科

スタッフ

医師 月曜日：早川真弘、 水曜日：渡部広史 木曜日：阿部早苗
看護師 小川 伸、 小松則子、 高橋正子、 小沼時子、 千田真理子
事務 小松陽子、 高橋朋子
メガネ・CL担当 山中優逸

診察時間 13時～17時

静的量的視野検査： 136件、 網膜光凝固術： 22件 (H21. 4～H22. 3)

これまで月曜・木曜だった診察日を平成22年4月から月曜・水曜・木曜の週3日体制に増やして診療を行っています。

新病棟建設に伴い、1階にあった外来がH22年春から2階に移動になりました。今後、再度1階に引越しH23年からは2階に完全に移動する予定です。

平成21年度から導入したデジタル眼底カメラはその後患者さんの眼底の経時的変化をみることで、病気やその状態を理解していただくのに非常に役立っています。

また、同じく平成21年度より導入した視野検査を経時的に表示できるシステムも緑内障患者さんへの説明の際に表示することで、治療への意欲を薄れさせないようにするのに役立っています。

週3日体制になったのに伴い、当院での人間ドック2次検診も積極的に受け入れることができようになりました。こちらも今後も受診される方がより増加されることが期待されます。

「情報の80%は視覚から」と言われています。横手地方は人口に比べて眼科医が少なく、今後は高齢化社会を背景にさらなる患者増が見込まれます。患者さんがよりよい視環境で過ごせるようスタッフ一同頑張りたいと思います。どうぞよろしく願い致します。

<文責 早川真弘>

泌尿器科

<スタッフ>

医師： 神崎 正俊

外来： 藤坂マリ子、得平やす子

病棟： 主に3B病棟（木下文子師長以下スタッフ一同）

人工透析室： 別項参照

<平成21年度特記事項>

前年度から診療体制・機器等に大きな変化はなかった。

神崎医師一人体制で泌尿器科診療・透析診療を担当した。

<日常業務>

外来診療は月曜～金曜までの毎日午前。

検査・手術等は午後不定期に施行。

血液透析は月曜から土曜まで午前・午後・夜間（月水金のみ）の3部制、祝祭日も稼働。

<概要>

外来患者延べ人数は13330人（透析患者含む、平成20年度：12557人、平成19年度：13377人）と例年通りに留まった。

入院患者延べ人数は2236人（平成20年度：2745人、平成19年度：3282人）と年々の減少は同様の傾向であり、平均在院日数は8.4日（平成20年度12.0日、平成19年度10.8日）であった。一患者あたりの入院期間短縮の努力によるものと推察される。

手術件数は126件（平成20年度：154件、平成19年度：172件）と減少。

前年度は平鹿総合病院への紹介例も多かったが、今年度は可能な限り当院での手術施行に努めた。開腹手術は例年通り秋田大学泌尿器科教室の応援医師と施行した。

医師一人体制での診療には限界があるものの、患者数の増加につながるよう、質の高い医療を提供していきたい。

<文責 伊藤卓雄>

放射線科

スタッフ

常勤医師 : 平野 弘子, 泉 純一
応援医師 : 秋田大学放射線科より随時。

特記事項

平成21年度は、各種撮影装置や画像診断関連機器等に更新・増設は無く、進行中の病院増改築工事にあわせて、MRI 更新を含め主な懸案は、次年度に検討される予定。

CT 機種は、平成17年5月より、MDCT (Philips、Brilliance CT 40) を使用。MRI は、0.5T 機種 (GE、SIGNA Contour) を継続使用。血管撮影システムは、平成20年10月より、Bransist Safire (SHIMADZU 社製) を使用。

平成16年10月より画像の電子保存が始まり、平成19年度より放射線科画像診断は完全にモニター診断に移行している。今年度の CT・MRI のフィルムレス率は外来94.0%、入院94.8%で、電子画像管理加算が算定されている。

今年度より、肺がん CT 検診を開始した。

業務内容

平成21年度に放射線科で行われた画像読影件数は、CT 6469件、MRI 1546件、単純写真6401件であった。単純写真の院内診療科からの依頼による読影件数は662件で、この内胸部単純写真が656件であった (表. 1)。CT・MRI には画像診断管理加算 2 が、単純写真には画像診断管理加算 1 が算定されている。

造影剤使用検査は、CT が2517件、MRI が231件施行された。造影 CT の内、CT angiography が138件、この内の85件が心臓 CT であった。

病診連携室を介しての他施設依頼の撮影・読影件数は、CT 332件、MRI 427件、単純写真の撮影・読影は18件で、この内、17件が胸部単純写真であった。他施設依頼 CT, MRI は、各々読影件数全体の5.1%、27.4%を占めおり (表. 1)、MRI の他施設依頼の割合の多さが目立った。

血管造影検査は28件で、全例が IVR 目的であった。内訳は、肝腫瘍に対する TACE が20件、血管塞栓術+動注用リザーバ留置が2件、脾損傷に対する血管塞栓術が1件、胃静脈瘤に対する B-RTO が1件、重症膵炎に対する動注用カテーテル留置が4件であった (表. 2)。

検診業務としては、脳ドックが128件あり、頭部 MRI & MRA が126件、頭部 CT が2件施行されていた。健診の胸部単純写真の読影は5721件であった (表. 1)。CT による内臓脂肪量の測定は65件、今年度より開始された肺がん CT は22件であった。

過去5年間の検査・読影件数の推移を示した (表. 3)。

昨年度と比べ、CT・MRI の総件数は、ほぼ横ばいであった。単純写真読影の件数が増えており、病診連携・健診以外の院内診療科からの読影依頼が増加していた。

平成21年度 検査・読影件数

検査	件数
CT 総計	6469
病診	332 (5.1%)
脳ドック	2
MRI 総計	1538
病診	427 (27.4%)
脳ドック	126
胸部写真 総計	6401
健診	5721
病診	17

表.1

血管造影検査			
検査治療内容		疾患名	
TACE	20	肝細胞癌	20
血管塞栓術 + リザーバ留置	2	肝転移	2
血管塞栓術	1	脾損傷	1
動注用カテ留置	4	重症膵炎	4
B-RTO	1	胃静脈瘤	1
合計	28	合計	28

表.2

放射線科で施行された年度別の読影件数

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
CT	4637	5747	6026	6592	6469
MRI	1974	2050	1544	1538	1546
血管造影	15	21	17	23	28
単純写真			3245	5851	6401

表.3

<文責 平野弘子>

麻 醉 科

スタッフ

常 勤：寺田宏達（平成21年5月～）

非常勤：松元 茂（梅ノ木ペインクリニック）

堀口 剛（秋田大学医学部麻酔科）、ほか

業務内容

1. 手術での麻酔または検査での麻酔

全身麻酔、硬膜外麻酔、脊椎麻酔、伝達麻酔、局所麻酔
件数等の実績に関しては、手術室の項を参照のこと。

2. 外来（ペインクリニック）

平成21年6月から開設。当初月・木曜日から月・水・金曜日に変更

治療対象

○帯状疱疹の治療（特に急性期痛、帯状疱疹後神経痛の強い症例）

○顔の神経痛（三叉神経痛、非定形顔面痛）に対して、薬物治療・神経ブロック治療（高周波熱凝固法）

○腰痛、背部痛、肩、腕、足の痛み（椎間板ヘルニア、脊椎症、椎間関節症、腰部脊柱管狭窄症、圧迫骨折、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、肋間神経痛、四肢の末梢循環障害、坐骨神経痛、会陰部痛、尾骨神経痛、幻肢痛、カウザルギー、反射性交感神経性萎縮症などのうち手術の対象にならないもの）

○けがや手術後の創部痛、種々の神経損傷後の神経因性疼痛など。

○まぶたや顔の筋肉がぴくぴくと痙攣したり（眼瞼痙攣、顔面痙攣）、顔が急に変な方向を向いてしまう状態（痙性斜頸）に対するボツリヌス毒素治療

実績

新規患者数約70名、延べ患者数約400名。疾患別内訳は、腰部脊柱管狭窄症やヘルニアによる腰下肢痛が30%、首や肩の疾患は10%、帯状疱疹痛が20%、顔面の激しい痛みを生じる三叉神経痛は20%である。そのほかの神経障害性疼痛の診療や顔面痙攣のボトックス治療も行った。

治療内容の内訳は、腰下肢痛や体幹の帯状疱疹に対して行う硬膜外ブロックが15%約50件、星状神経節ブロックが5%約20件、三叉神経ブロックが8%約30件うちガッセル神経節ブロック4件、神経根ブロック3%8件、その他の末梢神経ブロック10%約30件、おもに皮疹乾燥後の軽症から中等症の帯状疱疹痛に行うイオントフォレーシス3%10件、頸部から背部腰部の局所的な痛みに行うトリガーポイントブロック治療26%90件などとなった。

<文責 寺田宏達>

リハビリテーション科

I. リハビリテーション科・組織

江畑公仁男	(副院長兼整形外科科長兼リハビリテーション科科長)
小田嶋尚人	(技師長) 理学療法士
高橋 貞広	(主任) 理学療法士
高橋 洋	(主任) 作業療法士
高橋 茂実	(副主任) 理学療法士
鈴木 務	(副主任) 理学療法士
熊谷 剛	(副主任) 作業療法士
古関 佳人	言語聴覚士
渋谷 美紀	助手

II. 定例スケジュール

毎週月曜日	: リハビリテーション科ミーティング
第1月曜日	: 3A病棟カンファレンス
第1金曜日	: 4病棟カンファレンス
第2金曜日	: 3B病棟カンファレンス
第2木曜日	: 2病棟カンファレンス

III. 業務

1. 院外活動

①横手市デイサービスセンター 康寿館

5月25日(月)	高橋 貞広	鈴木 務
26日(火)	高橋 洋	高橋 茂実
27日(水)	小田嶋尚人	熊谷 剛
28日(木)	高橋 貞広	鈴木 務
29日(金)	高橋 洋	高橋 茂実

②ヘルパー講習講師 横手市社会福祉協議会

小田嶋尚人

6月17日	13:00~17:00	「福祉用具、住宅改修に関する知識」
6月26日	13:00~15:00	「リハビリテーションの基礎知識」

③美郷町立金沢小学校 校内指導

6月10日	熊谷 剛
12月 2日	熊谷 剛

④第91回全国高等学校野球選手権秋田大会 トレーナー

7月18日 鈴木 務

2. 研修活動

平成21年

4月11日	秋田市	高橋 洋 、 古関 佳人 第3回秋田県NST研究会
4月18日～19日	鹿角市	高橋 洋 、 熊谷 剛 第18回秋田県作業療法学会
4月24日～25日	小田原市	熊谷 剛 国際医療福祉大総合実習指導者会議
5月10日	仙台市	高橋 洋 、 古関 佳人 日本離床研究会教育講座
5月16日～17日	東根市	熊谷 剛 第17回山形県作業療法学会
5月23日	秋田市	古関 佳人 平成21年度秋田県言語聴覚士協会 総会、学習会
5月31日	秋田市	小田嶋 尚人 、 鈴木 務 平成21年度第1回トレーナーステップアップ研修会
6月6日	秋田市	高橋 貞広 、 鈴木 務 、 熊谷 剛 平成21年度第1回秋田県理学療法士会研修会、総会
6月7日	秋田市	熊谷 剛 平成21年度秋田県作業療法士会現職者選択研修
6月14日	一関市	小田嶋 尚人 スリングセラピー 第6回 Basic Course 講習会
6月19日～21日	郡山市	高橋 洋 、 熊谷 剛 第43回日本作業療法学会
7月5日	秋田市	鈴木 務 第1回サポートトレーナー研修会
7月11日	秋田市	古関 佳人 秋田県言語聴覚士協会 基礎講座
	秋田市	熊谷 剛 平成21年度秋田県作業療法士会現職者共通講座
7月12日	鹿角市	高橋 貞広 2009年度理学療法週間公開事業
7月25日	湯沢市	高橋 貞広 、 高橋 茂実 、 鈴木 務 理学療法士会県南ブロック研修会
8月2日	仙台市	高橋 洋 、 古関 佳人 日本離床研究会研修会
8月29日	盛岡市	鈴木 務 日本AKA医学会第12回東北北海道ブロックAKA博田法紹介Course
		小田嶋 尚人

9月 5日	秋田市	秋田県理学療法士会小児理学療法ネットワーク 高橋 貞広
9月12日	弘前市	弘前大学医学部保健学科臨床実習指導者会議 古関 佳人
9月13日	秋田市	秋田県言語聴覚士協会定例会 鈴木 務
9月26日～27日	花巻市	第1回日本PNF協会全国セミナー 小田嶋 尚人
10月 3日～ 4日	秋田市	秋田県理学療法士会健康スポーツ支援部研修会 鈴木 務
		平鹿病院 2009年平鹿病院緩和ケア研修会
	青森市	熊谷 剛
10月 9日～10日	青森市	東北作業療法学会
	山形市	熊谷 剛
	10日	第36回肩関節学会
	秋田市	鈴木 務
10月17日	秋田市	第20回秋田県緩和ケア研究会 鈴木 務
	青森市	青森県立保健大臨床実習指導者会議
10月18日		高橋 洋 、 古関 佳人
	仙台市	第7回東北摂食嚥下リハ研究会
10月23日		高橋 洋 、 高橋 茂実
	秋田市	秋田大学医学部保健学科臨床実習指導者会議
10月30日		小田嶋 尚人
	東京都	平成21年度全国自治体病院協議会リハビリテーション部会研修 会
平成22年		
1月16日		高橋 洋 、 古関 佳人
	盛岡市	第4回川久保セミナー 摂食嚥下セミナー
3月 6日～ 7日		小田嶋 尚人
	秋田市	秋田県理学療法士学会

3. 臨床実習受け入れ

理学療法学科

秋田大学

臨床実習	2名	担当：高橋 茂実
	4月 6日～	5月30日 8週間
	6月 8日～	8月 1日 8週間

弘前大学

臨床実習Ⅳ 1名 担当：小田嶋 尚人
6月 8日～ 7月 25日 7週間

青森県立保健大学

初期総合臨床実習 1名 担当：小田嶋 尚人
1月 12日～2月 19日 4週間

総合臨床実習 1名 担当：鈴木 務
4月 6日～5月 22日 7週間

作業療法学科

国際医療福祉大学

総合実習 1名 担当：熊谷 剛
6月 8日～7月 17日 6週間

秋田大学

総合臨床実習 1名 担当：高橋 洋
8月 25日～10月 3日 6週間

IV. 人事

平成21年4月1日 古関 佳人 (言語聴覚士) 採用

V. 総括

今年度から新たに当院で言語聴覚士：古関佳人君が採用され、言語聴覚療法が開始された。言語聴覚療法開始にあたり機器・備品の整備も行った。言語聴覚室の設置に当たって病院増改築工事と合わせて水治療室と車椅子トイレに整備していくこととし、当面作業療法室の一部を区切って使用することとした。言語聴覚療法の開始によりコミュニケーション機能障害のある患者様だけでなく、嚥下障害・摂食障害のある患者様に対して専門的な評価・治療を提供することが出来るようになった。

理学療法部門では昨年度、高橋技師長の退職に伴い理学療法士4人体制で診療を行った。作業療法部門では体制に変化は無かった。

3月11日からの病院機能評価の受審にあたって、12月に院内ラウンドが行われ、また1月にはアドバイザーのご指導を受け万全の態勢で受審に望むことが出来た。リハ科では主にマニュアルの見直し等をはかった。

見直しをはかった部署マニュアルは、

- ①リハビリテーション科業務指診
- ②リスク管理マニュアル
- ③リハビリテーション科事故防止マニュアル
- ④院内感染対策マニュアル
- ⑤診療報酬の取り扱いに関するマニュアル
- ⑥リハビリテーション手順
- ⑦臨床実習指導マニュアル

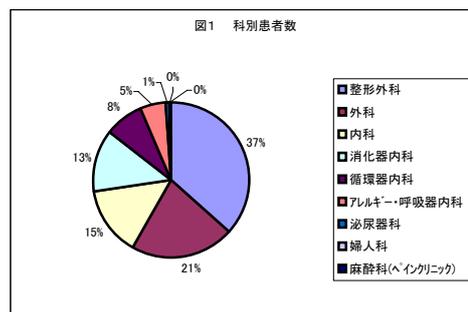
⑧事故・急変時の対応マニュアル

であった。

他には、部署内の整理整頓、感染管理を徹底して行う程度の対応を行った。

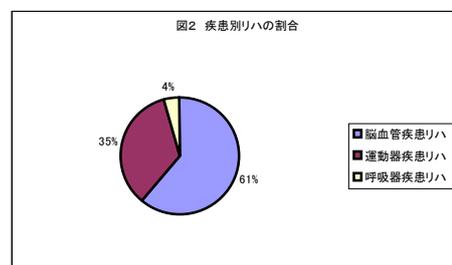
院外活動として、今年度も「第91回全国高等学校野球選手権大会秋田大会」へのトレーナー活動に参加した。昨年度から継続してサポート活動を行っている。また小学校児童の学校での活動への支援として2回学校訪問を行った。

夏以降新型インフルエンザに襲われた。新型インフルエンザに関して家族で感染した職員はいたがスタッフで感染した方はいなかった。感染拡大防止のため感染予防の徹底を図った。



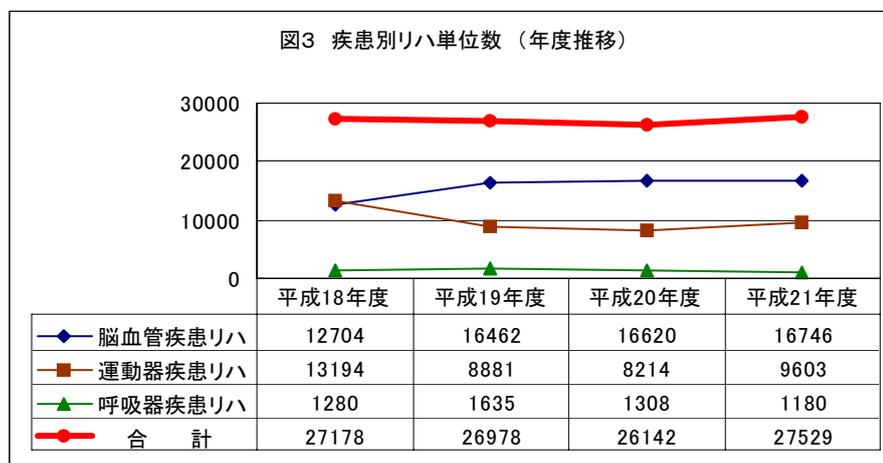
リハビリテーション科の診療実績については図の通りである。

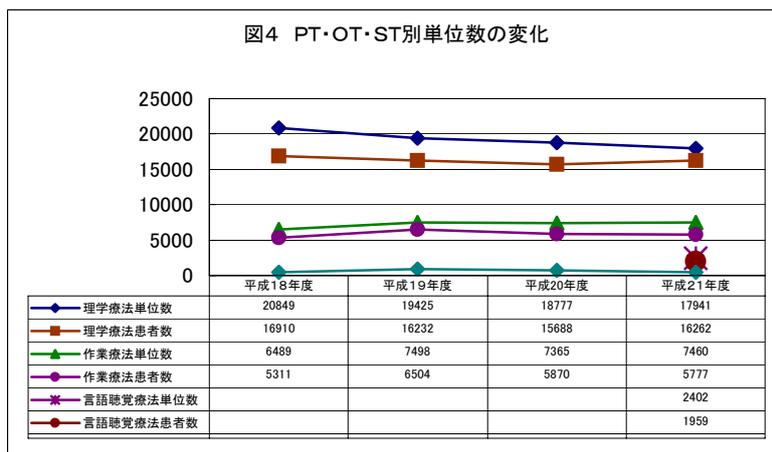
平成21年度1年間の科別割合は(図1)、内科系41%・整形外科37%・外科21%であり内科系の患者数が最も多くの割合を占めていた。



それに伴い疾患別リハの単位数をみると(図2)、脳血管疾患リハが全体の61%を占めており、運動器リハが35%となっていた。経年変化では(図3)脳血管疾患リハは微増傾向にあり、運動器疾患リハも

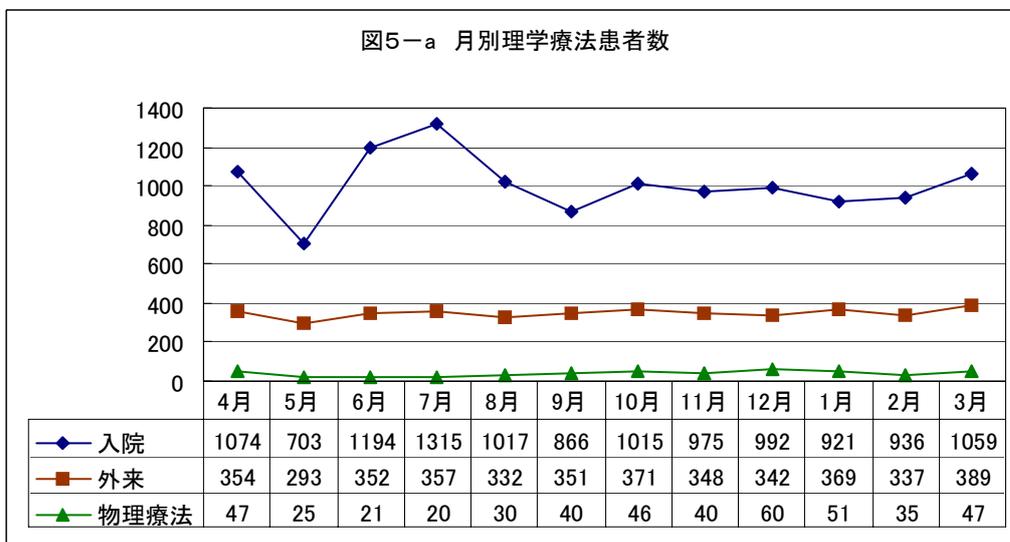
スタッフが増加したにもかかわらず若干持ち直した感じがする。呼吸器疾患リハは減少傾向にあるが、全体を合計すると平成18年の診療報酬改定以来(現在の診療報酬大薊になってから)単位数が最高に達する結果になった。

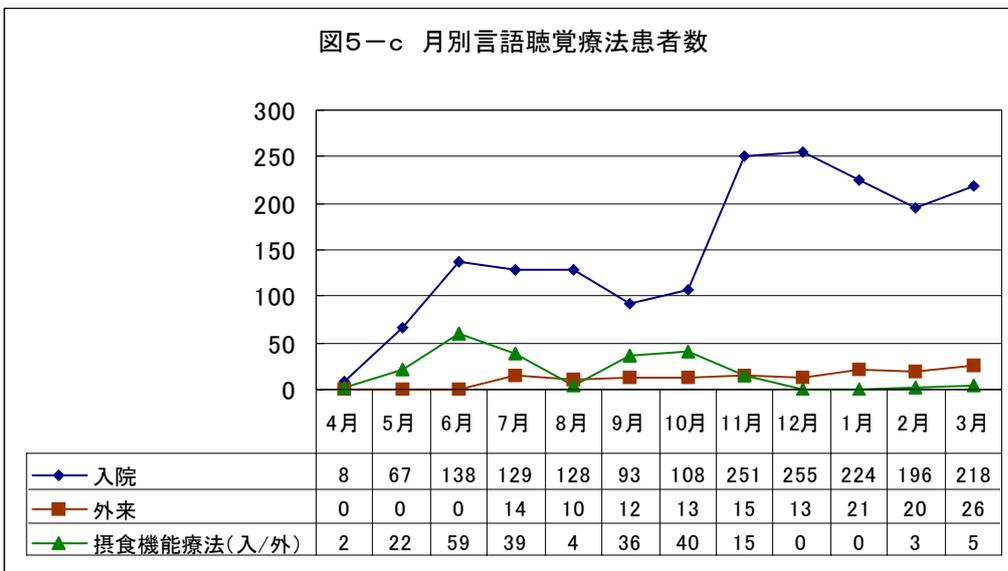
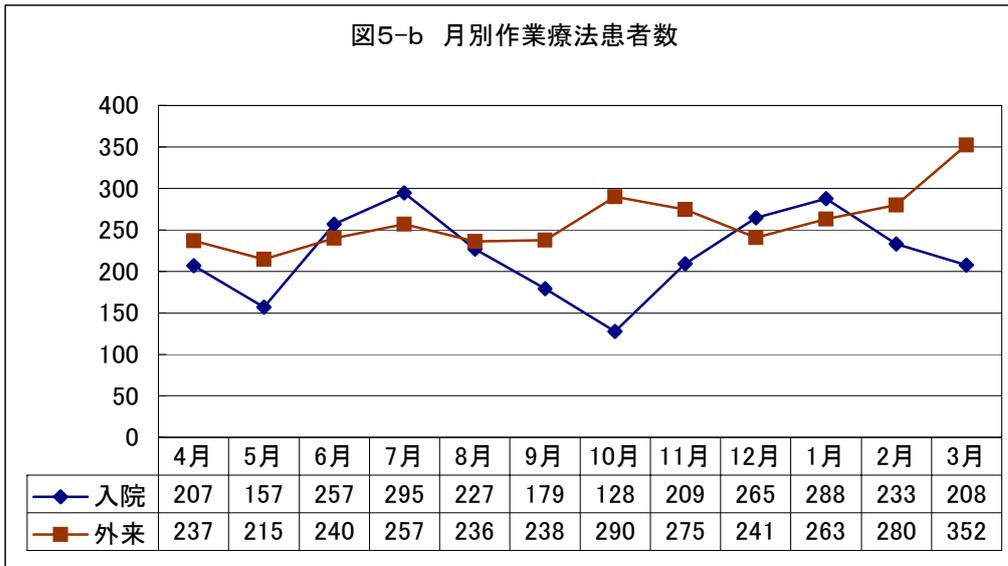




理学療法、作業療法、言語聴覚療法でみると（図4）、理学療法単位数は減少傾向にある。患者数が比較的横這いなのに対して単位数が減少傾向にあるのは、1週間あたりの算定単位数上限があるため頭打ち状態になっているものと考えられる。作業療法は患者数が減少しているにもかかわらず単位数が増加している。これは以前よりは必要な患者様に対して必要な治療時間を費やすことが出来るようになった証である。言語聴覚療法では、施設基準の関係で8月以降に脳血管疾患リハの算定が出来るようになったため年間通しての平均をみると少なめである。

各々の月別患者数は図5-a～図5-cの通りである。





全体を通じて、人員の増減に伴って全体の件数は変化しているが今まで継続してきている業務に加えて言語聴覚療法を開始した新たな展開を始める1年となった。

<文責 小田嶋尚人>

救急センター

<救急センターの理念>

当院は救急告示医療機関である。

病院の基本理念：地域の人々に信頼される病院を目指します。

安心できる良質な医療の提供

心ふれあう人間味豊かな対応

に鑑みて、全職員（非常勤職員も含めて）の協力の下に、24時間体制で良質な救急医療を実践する。

<スタッフ>

救急センター責任者 吉岡 浩

専任看護師 和賀美由紀

<救急患者取扱状況> H20年4月1日～H21年3月31日分

1. 取扱患者数 12,946人

2. 来院時間と来院方法

患者数

区分	標榜時間内	標榜時間外	深夜（再掲）	計
救急車	243人	463人	121人	706人
その他	0人	12,240人	1,000人	12,240人
計	243人	12,703人	1,121人	12,946人

3. 患者取扱診療科

診療科目	患者数	診療科目	患者数	診療科目	患者数
内科	4,769人	脳外科	0人	精神科	0人
小児科	6,480人	循環器科	0人	その他	114人
整形外科	810人	産婦人科	173人		
外科	595人	眼科	5人	計	12,946人

4. 患者の症状など

区分	疾病程度（患者数（人））				受付後の扱い（患者数（人））			
	軽症	中等症	重傷	死亡	帰宅	入院	転送	その他
交通事故	49	3	1	0	49	4	0	0
急病	11,322	471	294	35	11,294	765	33	35
その他	714	12	40	0	714	52	0	0
計	12,085	486	335	35	12,057	821	33	35

<H21年度総括>

救急医療機能をチームで迅速かつ効果的に行うために、さらに検討を重ね全体で質の向上をめざし努力していかねばと考えます。

<文責 和賀美由紀>

薬 剤 科

科長	石田 良樹
主任	佐々木洋子
主任	渡邊 圭子
主任	小宅 英樹
薬剤師	谷川 裕子
薬剤師	武石 知希
首席薬剤助手	小川由起子
薬剤助手	大山 丹子
薬剤助手	北小路由紀
薬剤助手	柿崎 幸
薬剤助手	高橋 紀子
薬剤助手	近江真梨子
薬剤助手	竹澤みきこ

今年度は病院機能評価受審にむけて業務内容の見直しと改善、マニュアルの再整備を中心に行った。またDPC導入による薬剤コスト削減のために注射用製剤を中心に大幅にジェネリック薬品への切り替えを実施した。

当院では看護師の業務軽減や効率的な薬品管理のために薬品倉庫での点滴セットのセントラル化を進めてきた。今回のマニュアルの見直しでは、セントラル化の効率性改善とともに医療安全の視点からの改定をいくつか行っている。具体的にはハイリスク薬剤の視覚化や払出方法の変更、化学療法のレジメン監査方法、麻薬管理方法の変更などである。また不正使用防止のため薬剤科全体を夜間施錠する事とした。

ジェネリック薬品の変更については、今年度新たに38品目をジェネリック薬品へ切り替えた。これにより約2000万円強のコスト削減効果が得られた事になる。切り替えに際しては原料メーカーまで遡って詳細な調査を実施し様々な条件をクリアしたものを選択している。これまでにジェネリック薬品切り替えによる大きなトラブルは発生していない。

病院増改築に関して、当科は直接的な影響は少なかったが、一部の病棟で運搬用リフトが使用できなくなることを受けて、人手による配送体制への切り替えを行った。

冬季には、新型インフルエンザの世界的流行を受けて、市民へのワクチン接種が実施された。当初十分なワクチン量が確保できず、在庫確保と接種予定の調整に苦慮する経験をした。この件については医師会、病院内担当者、医薬品卸等の関係各位の協力により、他地域に比較し非常にスムーズな接種が実施されたとの印象を持っている。

	平成21年度	平成20年度	平成19年度
院外処方箋枚数	89424枚	92243枚	97206枚
院内処方箋枚数	21377枚	21484枚	23118枚
院外処方箋発行率	80.7%	81.1%	80.8%
無菌製剤件数	8077件	9574件	7543件
薬剤管理指導件数	3017件	2842件	2019件

＜文責 石田良樹＞

診療放射線科

スタッフ

診療放射線技師技師長	藤原 理吉
総括室長	岡根 和義
室長	郡山 邦夫
室長	法花堂 学
主任	細谷 謙
副主任	齊藤 千尋 佐藤 裕基
看護師	小松田江利子
看護補助者	佐藤富美江
受付	三浦 真理

平成21年度目標と評価

組織目標と成果

- ①「機能評価受審に向けた整備をする」 評価：結果的に小項目は全て a、中項目は評価 4 となった。
- ②「医療被ばく低減施設認定を取得する」 評価：取得できていないため次年度へ持ち越す。
- ③「医療安全対策に向けた研修を実施する」 評価：対象者209名中 達成数MRI：139名 造影剤：115名と目標を達成した。特記事項として、シミュレーション2日後にCT室で、Drグリーンコールが発生した。落ち着いて対応でき、シミュレーションと改善（電話機へのコール先の設定や文言の記載）が十分に発揮された。

院内・院外の発表

日本放射線技術学会	第65回総会学術大会	4月19日	法花堂 学
CT内臓脂肪測定におけるヒストグラム形状を考慮した低線量化の検討			
秋田県放射線技師会	第69回秋田県放射線技師会学術大会	5月24日	佐藤 裕基
肺がん検診CTにおける低線量化に向けたパラメータの検討			
市立横手病院	第11回コメディカル研究発表会	10月2日	細谷 謙
知ってもらいたい 病室撮影の「2メートル」			
日本放射線技術学会 東北部会	第47回学術大会	10月10日	佐藤 裕基
肺がん検診CTにおける低線量化に向けたパラメータの検討			
秋田県放射線技師会 県南支部	第9回学術大会	11月7日	岡根 和義
注腸検査法の成果			
日本放射線技師会 東北地域学術大会		11月8日	藤原 理吉
検像システムの現状と今後について			
第48回 全国自治体病院学会		11月13日	齊藤 千尋
デジタルクレンジング法を用いたCTコロノグラフィの前処置方法の検討			
秋田県医療学術交流会	第17回秋田県医療学術交流会学術大会	11月29日	細谷 謙

会員交流の時間 知ってもらいたい 病室撮影の「2メートル」

平成21年度放射線科カンファランスと担当者

4月2日	低線量CT肺癌検診における撮影パラメータの検討	佐藤 裕基
5月7日	MRIを用いた腰椎神経根における至適撮影条件の検討	郡山 邦夫
6月4日	被ばく低減認定施設に向けての準備作業 ～施設認定自己評価表をメインに～	細谷 謙
7月2日	X線CTの歴史	岡根 和義
8月6日	改正薬事法と不具合報告について、 不具合報告の義務と方法について	藤原 理吉
9月10日	Digital Mammographyの信号検出評価 (Filterと管電圧による相違)	法花堂 学
10月2日	コメディカル研究発表会 知ってもらいたい、病室撮影の「2メートル」	細谷 謙
11月6日	デジタルクレンジングを用いたCT colonographyの前処置方法の検討	齊藤 千尋
12月10日	腱3D作成パラメータの検討	佐藤 裕基
1月14日	MRI空間直線性について	郡山 邦夫
2月4日	業務改善 ー主に技師-装置間の作業動線を再考ー	細谷 謙
3月4日	鎌田 實 著書より	岡根 和義

17年度を100とした時の推移

一般撮影	年度 (平成)	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	総撮影件数		100	106	92	92
出張撮影件数		100	119	108	113	108
乳房撮影件数		100	122	123	144	151
健診	胸部撮影人数	100	127	125	132	138
	胃透視検査人数	100	121	109	104	104
造影・透視検査	消化管	100	127	127	145	167
	肝・胆・膵	100	112	108	128	83
	泌尿器・産科領域	100	114	48	82	59
	整形領域	100	97	68	62	79
	心カテ・血管造影	100	116	47	71	109
CT人数		100	124	130	142	139
MRI人数		100	104	96	80	78

件数・人数の推移

	年度 (平成)		17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
	一般撮影	総撮影件数	外来	25,999	26,950	22,746	22,558
入院			11,416	12,765	11,579	11,938	8241
合計			37,415	39,715	34,325	34,496	30,234
総曝射回数		外来	42,493	43,398	35,203	34,939	38,733
		入院	14,830	16,290	14,435	15,083	11,852
		合計	57,323	59,688	49,638	50,022	50,585
出張撮影件数		5,411	6,415	5,856	6,104	5,834	
乳房撮影件数		1,494	1,826	1,844	2,155	2,253	
フィルム枚数		61,557	46,066	485	2,527	185	
健診	胸部撮影人数		4,183	5,326	5,232	5,515	5,753
	胃透視検査人数		888	1,078	969	923	926
造影・透視検査	消化管		345	438	439	501	575
	肝・胆・膵		155	173	168	199	128
	泌尿器・産科領域		345	394	167	282	204
	整形領域		336	326	228	208	266
	心カテ・血管造影		55	64	26	39	60
C T	人数	外来	3,319	4,179	4,457	4,828	5,154
		入院	1,325	1,576	1,578	1,750	1,286
		合計	4,644	5,755	6,035	6,578	6,440
フィルム枚数		27,748	31,522	1,361	1,231	1,337	
M R I	人数	外来	1,673	1,677	1,351	1,275	1,392
		入院	299	373	536	293	153
		合計	1,972	2,050	1,887	1,568	1,545
	フィルム枚数		10,480	10,330	1,270	1,260	1,296

<文責 藤原理吉>

看護科

平成21年度は新型インフルエンザの大流行、DPC 導入、2病棟の分娩室・LDR・産科病室の改修工事、病院機能評価V6受審（平成22年3月）とどれをとっても大変な一年でした。

新型インフルエンザについては、新採用職員を向え1ヶ月経過しない4月末に全国的に「新型インフルエンザ」が流行しマスクを手放せない状況でした。当院でも発熱外来を設置し、日々対応策を検討しながら対応いたしました。弱毒性といわれながらもすさまじい感染力だったと今でも記憶に残っております。同時に外来で季節性ワクチン接種・新型ワクチン接種に関しては全ての医療スタッフ・事務職員・清掃業者に至るまで感染防止の意識をもち対策に取り組みました。

6月には当院に感染管理認定看護師が誕生し、新型インフルエンザ対応は勿論ですが、感染管理対策、職員教育など重要な役割を果たしております。

電子カルテ稼働から3年余りとなる所ですが、新採用看護師、長期休暇（育児休暇）後の職員に医療情報管理室と看護科担当者が説明を行い、現場にスムーズに入ることができております。新たな取り組みとしては、転倒転落アセスメント、再度「看護必要度」の学習会を行い、11月から試験的に実施。評価時刻を14時までとし記録評価に取り組んでおります。3月の病院機能評価（V6）受審において全職員一丸となり取り組み、改めてチーム医療の重要性を痛感致しました。

平成21年度	入院総患者数	76,325人
	一日平均患者数	209.1人
	稼働率	87.5%
	平均在院日数	15.6日

看護科理念・方針

- 理念 1、人間愛に基づいた患者様中心の看護を提供します。
2、地域の人々と信頼関係を築ける看護を提供します。
- 方針 1、専門性を高め、質の高い看護の提供とやりの感じられる看護を目指します。
2、病院の健全経営に積極的に参加します。

1、平成21年度看護科目標と結果評価

1) 病院機能評価（V6）の受審

増改築工事と重なり大変でしたが、病院機能評価V6の受審に向けて（平成22年3月11日～13日実施）病院機能評価準備委員会を発足し、職員一人一人が同じ目的に向けて皆で頑張れたこと、職種を超えて一体となった取り組みができたこと、環境整備が徹底してできたこと、各部署でマニュアルの見直す機会となった事、「管理」することとは、どういうことなのか機能評価を通して理解できたこと・・・ectなどチーム医療をしていることを再確認できました。

2) 安全で安心できる看護を提供する

接遇研修、医療安全研修、感染対策研修へ参加することにより、関心を持ち現状の問題点を把握する事ができ意識向上につながりました。特に9月4日に医療安全管理主催で行った「医療安全シンポジウム」（場所：かまくら館）での各部署での取り組みの発表は非常に

意識向上につながった結果といえます。

患者満足度調査からは、職員の対応で患者様や家族の方に不愉快な思いをさせてしまった事例もありました。アンケート調査結果も踏まえて更に努力していきたいと思っております。

3) DPC 導入・運用に向けて効率的な業務遂行に努める

DPC に関する研修会への参加、資源の効率的運用、コスト意識をもつ、有効なベットコントロールなど目標設定し看護科全体で取り組むことができました。なかでも2病棟の分娩室・LDR・産科病室の改修工事に伴い、2病棟の入院患者の減少となり、他病棟が入院増となり人員の傾斜配置を行いました。また材料、不良在庫に関しては、病院全体で、材料委員会を開催し、不良在庫・不動在庫調査を実施し、各部署の材料委員が集まり検討し改善できたことも大きな成果と言えます。今後も継続していく必要があります。

平成21年度看護科職員総合数

(平成21年度末 205名)

保健師	2名
助産師	13名
看護師	153名 (嘱託・パート25名含)
准看護師	6名 (嘱託5名含)
看護補助者	36名 (嘱託35名含)

○看護要員関連

1) 看護要員

平成21年度採用看護師	6名
平成21年度正職員退職者	7名 (退職率5.1%)
平成21年度産休・育児休業	7名
長期病欠	4名
月平均の育児休暇	4.4名
平成21年度新規育休者	6名
育休取得日数合計	1,729日
育休一人平均取得日数	288日 (取得期間：最低3ヶ月～最長1年4ヶ月)
産休育休者は常時、5～6人	
平成21年度4月看護科正職員	平均年齢37.4歳

○院外活動

- ・救護班 平成21年6月6日 あさくら地区登山(南由利原高原) 佐々木康子
- 7月5日 市民登山の集い(栗駒山) 菅原奈緒子 佐藤友紀
- 8月16日 送り盆まつり(横手) 小田嶋ゆう子 下夕村優子
- 10月10日 あさくら地区登山(鳥海山) 小西千穂子
- 平成22年2月17日 ぼんでん(横手) 照井洋子 谷口順子
- ・まちの保健室 「ハッピータウンよねや」内にて血圧測定・健康相談 年3回参加
- ・いきいきサロン 地域に出向いて血圧測定・健康相談 年3回参加

○ インターシップ受け入れ

- ・ 7月22日 秋田県立平成高校3年生 5名
- ・ 7月22日 秋田県立平成高校2年生 10名
- ・ 8月4日 秋田県立横手清陵学院高校1年生 1名
- ・ 8月7日 秋田県立横手高校1年生 4名

○ ふれあい看護体験

- ・ 7月29日 横手市内の中学2年生 15名

看護科研修会の参加 院外教育研修 平成21年4月～平成22年3月

新人教育

開催日	参加人数	演題及び講師名
7月8日	2名	主体的看護実践と看護記録 ～各自が責任を持って看護記録記載ができるために～ 聖路加看護大学名誉教授 岩井郁子
10月14日	1名	救急処置の基礎と実際 秋田大学教育文化学部心理研究室教授 高田知恵子
12月11/12日	2名	平成21年度新人看護師研修（横手市）

ジェネラリスト教育

開催日	参加人数	演題及び講師名
5月28日	2名	「フットケア」とは！－正しい爪切り－ フットケアワーカー 後藤厚子
6月19日	1名	医療安全の考え方と看護テクニック 平鹿総合病院診療部長 佐藤正光
6月26日	4名	がん化学療法と看護の役割 秋田大学医学部附属病院副看護部がん化学療法看護認定看護師 進藤菜穂美
7月1日	4名	癒やし癒やされるスピリチュアルケアを学ぶ 住職 大下大圓
7月18日	2名	在宅看護の視点からみる退院調整 あおい訪問看護ステーション 代表取締役 小野久恵
8月10日	2名	タクティールケアーがん患者、認知症患者への緩和ケアー スウェーデン福祉研究所 木元明恵
8月20日	4名	ナースのための退院支援 ー院内チームと地域連携システムづくりー 日本福祉大学社会学部社会福祉学歌福祉大学 教授 篠田道子
8月25日	4名	看護研究のイロハ 岩手県立大学看護学部 准教授 福島裕子
8月26日	3名	皮膚、排泄ケア 秋田大学医学部保健学科 臨床看護学講座 准教授 村山志津子

9月8日	3名	看護師の子育て支援「仲間とつながり、ハッピーに生きよう」 北陸学院大学 人間総合学部 教授 金森俊明
10月9日	3名	グリーフケア～家族の悲しみを癒やす看護～ 宮城大学 看護学部老年看護学科 教授 宮林幸江
11月19日	2名	リンパ節廓清術を受けた患者への支援 後藤学園付属リンパ浮腫研究所 所長 佐藤佳代子

管理者研修

開催日	参加人数	演題及び講師名
5月23日	1名	いまどきの若者の育て方～学生や新人の成長を支援するために～ 講師 東北公益文化大学 教授 國眼眞理子 参加者 木村真貴子
7月31日	2名	鍛えよう！ロジカルシンキング 講師 自治医科大学准教授 茂木秀昭 参加者 高橋千鶴子 高本和子
9月29日	1名	目標管理に活かす Peet Reverw 講師 秋田社会保険病院 看護局長 認定看護管理者 田口牧子 参加者 藤井洋子
11月10日	4名	秋田県病院協会看護管理研究部会 第2回研修会（総師長・主任3名） 講師 兵庫県医療大学看護学部 准教授 青木菜穂子 参加者 木村カズ子 照井洋子 高橋佳子 和泉奈保子
1月26、27日	1名	平成21年度中堅看護職員パワーアップ研修（横手市） 参加者 下夕村優子

指導者育成教育

7月2日	1名	スピリチュアルケア実践へのステップアップ —アセスメントシートを使用した事例検討— 講師 住職 大下大圓 参加者 嶋田麻由子 佐藤秀子
7月11日	1名	いまどきの看護学生を育てる実習指導（秋田） 参加者 吉川ちあき 佐々木康子
8月7日	3名	看護職の健康リスクー業務上の危険について— 講師 秋田大学医学部保健学科 基礎看護学講座 教授 石井範子 参加者 高橋共子 高橋はるみ 畠田麗子
11月7日	3名	認知症フォーラム in AKITA（秋田市） 参加者 高橋千鶴子
12月11、12日	2名	平成21年度プリセプター養成研修（横手市） 参加者 須田鮎美 佐々木祐美
12月16、17日	2名	平成21年度新人教育担当研修（横手市） 参加者 高田真紀子 櫻谷麻美

学会・セミナー・その他

開催日	参加人数	研修会内容
4月18日	1名	秋田県訪問看護ステーション協議会総会
4月2・25日	1名	北海道医療大学認定看護師研修センター（北海道） 第4期生に対する継続教育（感染管理分野）
5月7日	1名	平成21年度認定看護師認定診査（認定試験）
5月8・9日	3名	第18回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会（仙台市）
5月9日	2名	第18回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会（仙台市）
5月21日	1名	2009年度感染管理セミナー（仙台市）
5月30・31日	1名	感染制御講習会（東京）1回目
5月23日	1名	2009年度手術器械リプロセッシング基礎講座
6月2日	1名	東北管内院内対策研修会（J A秋田県厚生連仙北組合病院）
6月25日	1名	平成21年度病院協会総会及び第1回研修会
6月4日	4名	平成21年度秋田県看護協会通常総会（秋田市）
7月4日	2名	リティカルパス勉強会ソフトウエア・サービス
7月4日	2名	看護学生を対象とした合同説明会
7月11日	1名	介護保険に制度に関する研修会（秋田市）
7月11・12日	1名	平成21年度透析療法従事者職員研修（埼玉県）
7月21日	2名	医療安全研修会アクシデント・インシデント分析法
7月25日	1名	平成21年度第1回秋田県訪問看護ステーション協議会研修会
7月27・28日	1名	平成21年度東北地区（結核予防技術講習会）（秋田市）
7月31日	1名	秋田県病院協会幹事会
7月29日～8月1日	1名	第47回ストーマリハビリテーション講習会（東京都）
8月8日	1名	BLSプロバイザーコース（秋田市）
8月9日	1名	BLSプロバイザーコース（秋田市）
8月20・21日	1名	第20回東北ストーマリハビリテーション講習会（運営委員）
8月22日	2名	第5回SSユーザー会・第3回SSユーザー看護部会（大阪）
8月27日	2名	感染管理セミナー（岩手）
8月29・30日	1名	第2回東北感染制御 ネットワークフォーラムベストクラクティス部会シンポジウム（仙台市）
9月4・5日	2名	第11回日本褥瘡学会学術集会（大阪）
9月28日	2名	平成21年度秋田県認定看護師連絡会議・研修会
9月12日	2名	平成21年度「看護に関する講演会」（秋田市）
9月12・13日	1名	助産実践能力強化研修（盛岡市）
9月24日	2名	感染管理セミナー（岩手）
10月10・11日	1名	助産実践能力強化研修（盛岡市）
10月29日	2名	感染管理セミナー（岩手）
10月3日	1名	平成21年度在宅での看取りのケアセミナー（秋田市）
11月3日	1名	興生労働省サーバランス説明会
11月4日	3名	平成21年度三職能合同研修会
11月6日	3名	新型インフルエンザ感染予防対応研修会（横手市）
11月7・8日	1名	感染制御講習会（東京）
11月8日	8名	第6回東北地方会 固定チームナーシング
11月11日	1名	感染対策研修会（秋田市）
11月12・13日	3名	第48回全国自治体病院学会（川崎市）
11月14日	4名	第36回秋田県看護学会（秋田）

11月14日	1名	新型インフルエンザ感染対策セミナー（角館町）
11月15日	4名	第26回秋田県消化器内視鏡技師研究会（秋田市）
11月17日	1名	新型インフルエンザ講演会（秋田市）
11月26日	2名	感染管理セミナー（盛岡市）
11月28日	1名	第53回秋田県院内感染対策協議会研修会
12月6日	1名	助産実践能力強化研修（盛岡市）
12月6日	1名	第28回東北消化器内視鏡技師会研究会（仙台市）
12月12日	4名	2009年度手術室・中材・感染管理セミナー（仙台市）
2月14日～16日	1名	感染制御講習会（東京）
12月17日	1名	医療の安全対策研修会（秋田市）
12月25日	1名	平成21年度結核対策全県研修会（秋田市）
1月16日	1名	秋田県訪問看護ステーション協議会研修会（秋田市）
2月14・28日	1名	第32回OMA講習会（秋田市）

学会発表

5月9日	第18回日本創傷・オストミー・失禁ケア研究会（仙台市）	
	「ストーマ周囲皮下膿瘍腔と離開創部が交通した症例に対し陰圧療法を活用した経験」	佐藤美夏子
10月17日	第63回日本消化器内視鏡技師学会（京都）	
	「当院における洗浄履歴管理の試み」—画像Ⅲ ファイリングを使用して—	加藤真由美
11月13日	第48回全国自治体病院学会（神奈川県川崎市）	
	「患児の転落に対する意識調査からの気づき」	須田鮎美 熊澤あゆみ

研修会・その他発表

9月4日	進学学習への講師依頼	
	「働くことの意義、職業観について」（市立南中学校・対象2年生）	櫻谷麻美
11月28日	第53回秋田県院内感染対策協議会研修会	
	「自施設における新型インフルエンザ対策について」	小川 伸
11月29日	第17回秋田県医療学術交流会学術大会	
	会員交流 流行期のインフルエンザ院内感染防止の取り組み	小川 伸

講師派遣 平成21年度

開催日	内容	派遣場所	職員
6月～22年3月	院内褥瘡廻診と指導	市立大森病院	佐藤美夏子
7月7日	正しい体位交換と褥瘡の予防	特別養護老人ホーム雄水苑	佐藤美夏子
8月～9月（4回）	褥瘡回診の手順と進み方	横手興生病院	佐藤美夏子
9月25日	褥瘡患者のケアおよび町立羽後病院（職員指導）	町立羽後病院	佐藤美夏子
7月18日	褥瘡予防と手当て、基本的なスキンケア	横手保健センター	佐藤美夏子
7月29日	疥癬の対応について	市立大森病院	小川 伸

8月1日	第1回糖尿病治療・看護・療養指導を考える	平鹿総合病院	和賀美由紀
8月20・21日	東北ストーマリハビリテーション講習会（運営委員）		
		東北大学医学部保健学科	佐藤美夏子
12月5日	第2回糖尿病治療・看護・療養指導を考える	平鹿総合病院	和賀美由紀
平成22年			
2月6日	第3回糖尿病治療・看護・療養指導を考える	平鹿総合病院	和賀美由紀 照井洋子

平成21年度看護補助者研修

	内容	担当	
5月	体位交換の方法とポジショニング	WOC認定看護師	佐藤美夏子
6月	PPE標準予防対策演習（実演）	感染管理認定看護師	小川 伸
7月	看護チームの一員としてのあり方&メンバーとしての責任		
		総看護師長	木村カズ子
9月	消毒に出す範囲の器具（一次洗浄）	手術室師長	高本和子
11月	GWテーマ		看護科教育委員会
	①「横手病院の一員として意識した時はどんな時？」		
	②「他職種と協調し安全、安楽の配慮について自己の経験から得たもの」		
平成22年			
1月	①機能評価受審に向けて②新病棟に向けて	総看護師長	木村カズ子
2月	①機能評価受審に向けて②新病棟に向けて	総看護師長	木村カズ子
3月	①機能評価受審に向けて②新病棟に向けて	総看護師長	木村カズ子

<文責 木村カズ子>

2 病棟

<病床数>

59床（重症加算病床 3床含）

<担当科>

産婦人科 内科（主に消化器内科）

<看護方式>

固定チームナーシング

<年間の入退院状況>

- ・ 延べ患者数 15,593名
- ・ 入院患者数 12,792名
- ・ 退院患者数 902名
- ・ 病床利用率 80.6%
- ・ 平均在院日数 13.7日
- ・ 年間分娩数 137件（帝王切開 11件）

<病棟の概要>

- ・ 産科は、11月よりLDR2室を含めて全室個室で、食事も特別メニューとなり、快適に産前・産後を送っていただいています。産前・産後の指導で、母乳を推進しており、完全母乳の褥婦さんが増加しています。婦人科は、化学療法・手術中心の患者様が増加しています。6月には、助産科の実習生の指導にあたりました。
- ・ 内科は消化器科の患者様が増加しました。患者様が高齢となり、認知症をかかえての治療や、入退院を繰り返す患者様の増加・核家族化などで、各部門との協力や、事故のないように入院生活を送っていただくように看護ケアをしました。

<病棟目標>

患者さんが安全かつ安心して治療が受けられ、早期に社会復帰できるようにチームで支援していく。

- 1、高齢者の消化器疾患患者への精神的支援をする
- 2、産婦人科病棟改修工事後のサービスの向上

<目標の反省>

- 1、アンケートにて、排尿に関する不安が多くみられました。治療の際は、患者様に説明し、不安の除去に努めていきたいと思えます。
- 2、部門と連携し、食事その他のサービス開始しています。患者に満足していただくようこれからも努めていきたいと思えます。

<構成スタッフ> H21年4月1日現在

師長：高橋千鶴子

主任：照井洋子（助産師）

助産師：藤沢 親子 佐藤 悦子 池田 弘恵 吉川ちあき 高橋 智美

齋藤紗希子 芦澤 沙綾 鈴木 智都 田中 由江

看護師：赤川恵理子 高田真紀子 佐々木史子 松本 優子 安藤 宏子

森本 和子 金子由美子 小林 貴子 山田 沙織 高橋亜由美

高橋かおり 黒沢奈保子 遠藤ちずる 柴田 瞳 吉岡 麻子

高橋麻理子

看護補助：土田 輝子 柴田美津子 長澤 唱子

<文責 高橋千鶴子>

3 A病棟

定床数：68床（亜急性病床 10床を含む）

担当科：小児科 整形外科 内科

【看護スタッフ】

H21年4月1日現在

師 長：木村真貴子

主 任：高橋 共子

看 護 師：町本 典子	山石 陽子	高橋加美子	桐原 峰子	草薨美保子
小野寺摂子	嶋田麻由子	奥山かずえ	武田フミエ	阿部 萌子
藤谷 栄	高橋 美樹	泉谷真理子	松川かおり	熊澤あゆみ
佐藤加代子	須田 鮎美	高橋 朋子	佐藤瑠依子	伊藤美代子
佐藤 晃子				

看護補助者：佐藤多重子 池田 律子 織田美和子

病棟事務：島田万里子 伊藤 尚子

退 職 者：伊藤美代子（3月退職）

【看護方式】 固定チームナーシング

【年間の入退院状況】

- ・延べ患者数 19,840名
- ・稼働率 79.9%
- ・平均在院日数 14.0日

【病棟の概要】

- ・整形外科は4月から富岡医師を迎え常勤医師2名となった。それに伴い入院患者数、手術件数が増加した。予定手術は椎体疾患、骨接合術、人工関節が多く術後管理も術式別に多様化し、さらなる細心の注意が求められた。今年度も高齢化に伴ってか70歳以降の手術件数が多かった。
- ・小児科は常勤医師1名で朝早くから回診を行い外来、病棟業務をこなしている。疾患的には喘息、嘔吐、下痢など季節的なものが多かった。

【病棟目標】

- ・ZERO目標 針刺し事故 0
コスト漏れ 0
転倒・転落 0 を目指す

【目標の反省】

- ・針刺し事故は1件であった。針捨てBOXは持参していたが廃棄時の事故であった。針捨て際は無理にはずさなくともシリンジのまま廃棄しても良い。
- ・コスト漏れは毎月集計してカンファレンスしていた。コスト漏れ件数、金額ともに減少して

きており意識改革されてきている。

- ・転倒・転落件数は整形33件、小児4件であった。離床センサーの活用は有効だった。小児科の転倒転落は看護研究で作成した独自のパンフレットを活用し前年度の半数に減少した。今後も家族指導に努めていきたい。

【1年間のまとめ】

今年度の整形外科は予定手術、臨時手術にかかわらず、比較的予定通りの入院期間で退院された患者様が多かった。「もっと早くに手術をしてもらえばよかった」「こんなに楽になるとは思っていなかった」などの感謝の言葉を沢山いただきスタッフ一同うれしいかぎりである。ただ高齢化に伴い認知症状のある患者様や一人暮らしの患者様は退院後の生活のフォローが重要でコメディカルカンファレンスの充実が必至である。小児科は患児の家族背景の複雑化がみられ対応の難しさを考えさせられた1年であった。短期間の入院の中で発達段階に応じた看護と指導が必要である。そのための統一されたマニュアルの見直しが今後の課題である。

＜文責 木村真貴子＞

3 B病棟

〈 病床数 〉

60床 (重症加算室 5床)

〈 担当科 〉

外科、泌尿器科、消化器内科、一般内科の混合病棟

〈 看護方式 〉

固定チームナーシング

〈 年間延べ入院患者数、在院日数、稼働率 〉

年間延べ患者数 18,989

在院日数 13.1日

稼働率 86.7%

〈 病棟の概要 〉

外科、泌尿器科の手術件数は昨年度とほぼ同件数ながら、対象患者の年齢が高く、独り暮らし、家族間の複雑な背景など問題となることもあり、手術前から要介助の方、認知症状のある方、術後せん妄症状など手術前後に関わる看護度が高まったと感じられる現状です。在宅ケアに向けては、ケアマネージャや施設相談員との連携は更に重要となってきています。緩和ケアは、緩和ケアチームが中心となり、総回診、カンファレンスでの情報交換で個別性のある精神面でもより良い関わりが持てるよう努力しています。化学療法では、薬剤の取り扱いなど薬局との連携を密にし、薬剤漏えい事故には常に注意喚起して対応しています。褥瘡回診、NST回診での情報、指導も有効に活用した看護に取り組んでいます。

H21年度外科手術件数 392件 泌尿器科件数 123件

〈 H21年度 看護目標 〉

安全な看護を提供し、DPCの運用を効率的に遂行する。

追加目標 「SSIの減少」

〈 目標の反省 〉

感染管理対策に取り組むために、年度初めに「サーベランスとは何か」の学習から行い、病棟の現状、問題点の把握、出来るところからの改善、研修会への参加などで意識を高めていくことにしました。創感染を予防し、パス・治療計画書通り退院できるよう改善策を立て実施、経過をみています。手術の場合、当日の除毛、入浴などの清潔手順、術後の低体温予防、処置時のエプロン・マスク・手袋・手指消毒などに取り組んでいます。しかし、サーベランス結果報告では、創感染のデーターが低値ではなく、上半期を終えた時点で漠然としていた目標を「SSIの減少」と焦点を絞り、SSI対策マニュアルを作成していく方針としました。1年で達成、成果を挙げることは難しく、次年度も医師と協力して引き続き取り組むことと

なりました。

針刺し事故は0件で努力の結果が表れたと思います。

病院機能評価受審では病棟マニュアルの見直し、改善、スタッフへの周知徹底をはかり病棟スタッフ全員参加で対応できました。日々難儀しましたがやりがいがあったと思います。

患者様より多くの感謝の言葉もいただきましたが指摘事項もあり、反省し改善努力していきます。

〈 構成スタッフ 〉 H21年4月1日現在

師 長：木下 文子

主 任：下夕村優子

看 護 師：小松 則子 柿崎 美幸 寫田 麗子 小田嶋明子

山田百合子 末次エリカ 佐藤 秀子 斉藤みどり

高橋 優子 佐々木 薫 渡邊あかね 高橋 美里

小西千穂子 鈴木 美香 高橋 華澄 煙山由紀子

高橋 亮子 高橋 大樹 小棚木美香 浅倉けい子

佐藤 愛 佐々木美智子 佐々木祐美 佐藤 佳織

藤井 千晶 加賀谷優紀 小田嶋恵美 計 29名

看 護 補 助：鈴木 時枝 高村 真理 澁谷 一美 計 3名

<文責 木下文子>

4 病棟

【病床数】

63床（重症加算室 5床 亜急性期病床 5床含む）

【担当科】

呼吸器科 循環器科 脳神経内科 内科

【看護方式】

固定チームナーシング

【構成スタッフ】

H21年4月1日現在

師 長：藤井 洋子

主 任：小田嶋恵美子 高橋 佳子

看 護 師：	菊谷ゆかり	高橋 正子	高橋はるみ	矢野多智子	佐藤由美子
	佐藤さとみ	高橋 恵子	鈴木真紀子	稲川 雅美	今野谷紗織
	櫻谷 麻美	佐藤千夏子	高橋 歌澄	鈴木 利恵	鳥山十亜良
	渡部 香織	高橋まゆみ	高橋 智佳	横井 道子	武藤 夏子
	佐々木文子	小田嶋 梢	照井 里美	佐藤 直子	24名

病棟事務：小川由美子

看護補助者：高橋 容子 高橋美江子 高橋美代子 下夕村早苗 藤原 周子
山石久美子 木津川恵美

退職者：木津川恵美（H22. 3）

【年間延べ入院退院患者数 在院日数 稼働率】

年間延べ患者数 21,903人

平均在院日数 22.8日

病床稼働率 95.3%

【平成21年度 病棟目標】

チーム医療において、効率的な業務遂行ができる

- (1) 心カテ検査パスの作成と運用
- (2) ジェネレーター交換入院のパス作成と運用
- (3) ブロンコ検査入院のパス作成と運用
- (4) 脳梗塞重症別パス作成と運用

【目標の反省】

各々3チームに目標を分担し、医師と共に協力しあってパス作成・修正しながら

(1) (2) (3) についてはほぼ完成し実際に使用し、業務の効率化につながった。

(4)については、症例はあったが状態が変化しやすく、また年齢によってもかなり病状に相違もあるため、実際の使用には至らなかった。

【平成21年度 病棟の概要】

当病棟の入院患者平均年齢は年々少しずつ上昇し、もはや90歳代の患者さんは珍しくなくなっている。秋田県の超高齢化は当病棟をみると解りやすい。

また、平成21年度のトピックスといえば、やはり病院機能評価ver.6の受審であった。前半はまだ余裕で構えていたものの、初秋頃からは焦燥感に駆られ評価項目の詳細を毎日自宅に持ち帰っては、そのまま、また持参してくる日々が続いた。そんな中で受けた機能評価2日目の病棟訪問では、1番目ということもあり予想的中、2時間半近くの長い時間にわたり、多くの質問攻めに四苦八苦しなから返答したことが記憶に新しい。終わってみると何だか「ほらきた」と内心、質問を楽しんでいたような気にもなるのは、スタッフ全員強い緊張感から開放された安堵感からくるものかもしれない。

結果として看護科の評価は非常に良かったが、それも医師の協力と連携のもとで機能評価受審という共通の目標があったためであり、病棟全体が一つにまとまった1年間であったと思う。

<文責 藤井洋子>

外来部門

《H21 年度外来患者総数》 160803 人 《一日平均外来患者数》 656.3 人

《外来の概要》

外来・病棟一元化として機能しているため、外来の人数不足へは各病棟の応援があり業務が遂行されている。応援体制により接遇面が懸念されるが朝の全体ミーティングを行うことにより周知徹底を心がけている。

外来での化学療法・輸血療法・インターフェロンなど高度医療を行うようになってきた。また、内視鏡室においては消化器医師増員に伴い内視鏡的粘膜切除術・胃瘻造設など増えてきている。検診者の増加に伴い内視鏡検査の希望者が多くなったことにより5月から職員検診者対象に7月の毎週土曜日に上部内視鏡を行うようになった。

麻酔科医の常勤により、10月よりペインクリニック外来が始まった。

眼科外来は、週2回から週3回の診察が開始された。

《平成21年度外来目標》

各外来の連携を図り、患者様に安心・安全な看護を提供する

- ・朝のミーティングにて情報交換をする
- ・医療安全研修へ参加協力する
- ・接遇研修を年2回例会において開催する
- ・身だしなみチェックを年2回行う

《目標の評価》

毎朝のミーティングにおいて各外来との連携を取り合い情報を知ることが出来、スムーズに患者に関わることが出来た。

医療安全研修にはほぼ全員参加し、医療安全に対して意識してマニュアルを遵守し作業するように心がけたが、同じようなヒヤリハットがでていたのでさらに注意喚起していきたい。

外来スタッフの講師による接遇研修を行ったり、院内研修に参加したり自己意識を高めるように心がけた。意識して接することで患者からのクレームが聞かれなくなってきたと思う。

《まとめ》

消化器内科医師の増員に伴い内視鏡検査件数の増加、整形外科 Dr が4月から2名になり診察を2診察での診察開始、麻酔科医師常勤になるとともに6月からペインクリニックの開設、眼科外来は週2回から3回に増えた。DPC導入により外来検査の増加、化学療法・輸血療法・自己血採血など、これまで入院で行われていた治療が外来で施行されるなど看護師を必要とする業務がおおくなったが、病棟からの応援をもらい事故もなく経過できた。

また、世界的に新型インフルエンザのパンデミックが秋田県においても例に漏れず大流行し、当院でも多くの患者が受診され対応が大変だった。

手術室、中央材料室、洗濯室

1、スタッフ（H21年4月1日現在）

師 長 高本 和子
主 任 佐藤 昌悦
看護師 佐藤 鋼子 岩村 久子 赤沼ゆかり 小田嶋ひとみ
永須 直美 谷口 順子 大日向 希 丹 久美
補 助 (中央材料室) 糯田 優子 新森いく子 佐藤久美子
(洗濯室) 針金 久子

移 動 小西千穂子（10月3Bより）
大日向 希（3月31日まで。4月1日 市立大森病院へ移動）

2、手術ベッド数；4台

3、看護方式；科別チーム制

4、手術件数

外 科	425件（-12）	
整形外科	320件（+164）	
婦人科	133件（-10）	
泌尿器科	126件（-8）	
消化器内科	3件（+3）	
合 計	1007件（+110）	全身麻酔件数632件（+110） 緊急手術 104件

5、手術室目標

＜安全で安心できる看護を提供する＞

- 1) SSIサーベイランスの実施・評価・業務改善。
- 2) 手指消毒後の細菌検査（年2回）
- 3) 研修会の実施
- 4) 手術室A室の改修工事期間 安全に業務する。

6、一年間のまとめ

H21年5月 麻酔科医師 常勤体制
H21年10月 手術室A室BCR改修工事完成
H22年3月 病院機能評価（Ver.6）受審

5月より長年の願いであった麻酔科医師の常勤体制となり、専門医師を中心に麻酔および手術機能の業務体制が順次整備された一年でした。

医療安全への取り組みとしてタイムアウトの導入や周術期感染対策を重点に SSI サーベイランスも開始し医師の協力を得ながら多いに躍進出来ました。このことが年度末に迎えた病院機能評価受審に実を結ぶ結果となりました。

中央材料部に於いても、滅菌の保証の観点から業務改善を重ね、体制を整えることが出来ました。

最新鋭の手術用器具も数多く導入される中、手術件数も1,000件を超え、緊急手術にも迅速に対応し、医療安全と感染対策が強化された一年でした。

<文責 高本和子>

人工透析室

<構成スタッフ> (外来・病棟一元化により 3B病棟より出向)

看護主任	和泉奈保子				
副主任	小田嶋ゆう子	中村勇美子			
看護師	佐々木美紀子	小田嶋千枝子	伊藤優子	佐々木智美	

<特徴>

透析療法は生涯継続される療法であり、血液透析・腹膜透析ともに自己管理が必要である。患者の健康観・人生観・患者背景に及ぶ情報収集を行い、身体的・精神的・社会的な視点でのアセスメントを行う。

患者自身が、透析を取り入れた新しい生活スタイルを確立できるよう援助を行うのが、透析看護目標である。

* 勤務体制は 月・水・金 3クール（夜間透析施行）
火・木・土 2クールで行っている。

<目標>

- * 安全な透析を提供できる

 1. マニュアルの見直しと修正
 2. 感染事故防止
 3. 看護計画の見直しと内容の充実
 4. 研修会、講習会への参加（年間5回）

<反省>

1. それぞれ担当を決め、見直し項目を割り出し、見直し項目の検討をした。機能評価・スタッフの移動・業務内容の変更もあり、マニュアルに関しては 今の業務内容等にあったマニュアルになった。
2. 主に「針刺し事故防止」標準予防策に従い、針刺し事故「0%」を目指した。
3. 看護計画の項目の検討をした。今回看護研究にした患者参画型の看護計画を目指し、内容に関しては 検討結果を修正し、内容を細かいものにすることができた。透析患者様の入院時の病棟への申し送り内容も入力項目を決め、電子カルテ入力とした。
4. 院内の研修会、講習会への各自参加は勤務に合わせした。透析室内での勉強会は、後期患者の増加、機能評価に向けての準備等のため開催することができなかった。

<1年間のまとめ>

現在当院の透析患者数は47名、ベッド数10床で、常時90%~100%で稼働しています。H22年5月からはベッド数15床となり、透析機器も15台新しくバージョンUPし、安全な透析と効率的な業務を支援する「透析アシスタント」を使用する予定です。

スタッフの移動もあり、スタッフ不足と共に新しいスタッフ指導も必要となるため、

大変厳しい現状です。今年度は後半に入り「ヒヤリはっと」が続き、スタッフ間でのカンファレンスを頻回に行い、2度と同じ間違いをしないように心がけました。現在はMEの協力もあり大きな事故もなく稼働しています。

H21年度の「延べ患者数 6840名」「新規導入 6名」「緊急・依頼 13名」でした。現在の日本の透析患者数は28万人と言われていています。決して患者数は減少しておらず、年々増加傾向にあります。当院でも患者数は増加しています。

新規導入患者様・維持透析患者様それぞれよりよい看護を提供できるよう、今後も「より安全な透析」を目指しスタッフ一同協力し、新透析室に向け頑張っていきたいと思えます。

<文責 和泉奈保子>

訪問看護センター

<平成21年度4月1日現在のスタッフ>

看護師 主任 高橋 礼子
看護師 副主任 佐々木康子
看護師 副主任 菅原奈緒子
看護師 佐藤 友紀
事務 三浦 君子

<移動>

8月 看護師 小林 貴子 (2病棟より)
8月 看護師 菅原奈緒子 (2病棟へ)

<機能・概要>

訪問看護の看護師は、要介護者等の心身の特性を踏まえて、全体的な日常生活動作の維持、回復を図ると共に、生活の質の確保を重視した在宅療養が維持できるよう支援している。

実施にあたっては、関係市町村、地域の保健・医療・福祉サービスとの密接な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

現在、訪問看護の対象者は、終末期患者、中心静脈栄養、胃ろう、腸ろう、尿道カテーテル挿入、気管カニューレ挿入、人工呼吸器装着、在宅酸素等、医療依存度の高い方が増えている。それに伴い在宅での看取りも増えつつある。

<特記事項>

- ・今年の5月より、秋田県立衛生看護学院、看護科の実習生5名を受け入れ実習指導にあっている。
- ・今年で4回目となる介護保険サービス提供事業所の情報公表に関しては大きな問題点はなく、情報公表調査もスムーズに受けることができた。

<平成21年度訪問看護件数>

- ・訪問看護総件数 1773件
- ・訪問診察総件数 583件
- ・臨時訪問件数 121件
- ・訪問看護利用総人数 95名
- ・新規対象者数 29名
- ・死亡者数 31名 (自宅9名、病院22名)

H21年度 訪問地区別利用者数

訪問地区	利用者数
横手市	83
平鹿町	8
大雄	2
山内	1
美郷町	0
増田町	0
十文字	1
合計	95

H21年度 介護認定内訳

要支援	0
要介護1	0
要介護2	2
要介護3	3
要介護4	19
要介護5	64
医療保険	10
合計	95

H21年度 年齢・性別利用者数

年齢	利用者数	男	女
1～29	1	0	1
30～49	2	2	0
50～54	0	0	0
55～59	1	1	0
60～64	0	0	0
65～69	2	0	0
70～74	5	4	1
75～79	10	7	3
80～84	19	11	8
85～89	17	4	13
90～94	0	0	0
95～99	13	0	13
100	3	0	3
合計	95	34	61

H21年度 疾患別利用者数

疾患別	人数
脳血管疾患（脳梗塞・脳出血）	21
心疾患（心不全等）	2
悪性疾患	8
特定疾患・難病（パーキンソン病等）	5
精神疾患（老人性痴呆等）	0
筋骨格疾患（骨折・関節症・骨粗鬆症等）	5
脳性麻痺	3
脳症（低酸素・インフルエンザ）	0
先天性疾患	0
呼吸不全	0
その他	51
合計	95

H21年度 利用者の医療処置状況（重複あり）

医療処置	人数
膀胱留置カテーテル	41
胃ろう	51
褥瘡	5
中心静脈栄養カテーテル	16
在宅酸素	3
気管カニューレ	3
ネーゼル	1
人工肛門	1
人工呼吸器	1
P T B D	0
腸ろう	2
処置なし	17
膀胱ろう	1
食道ろう	1
ペースメーカー	2

M E 室

【体制】

< 室 長 > 吉岡 浩
 < スタッフ > 川越 弦 柏谷 肇

【業務内容】

医療機器安全管理室 教育・啓蒙・委員会活動
 医療機器中央管理 院内機器管理（各病棟・外来・手術室・透析室・新生児室など）各種血液浄化および胸・腹水処理 心臓カテーテル検査 ペースメーカー管理
 在宅医療における医療機器管理

【各施行件数】

	症例数	備考
CHDF	7	総施行回数69回
PMX	5	総施行回数 9回
LCAP	2	総施行回数11回
人工呼吸	35	
NI PPV	2	
腹水処理	15	総施行回数46
心臓カテーテル検査	37	
体外ペーシング	1	
フィルター留置	1	
ペースメーカー植込み	15	新規 8件 交換 7件
ペースメーカー外来	153	

【機器の異動】

①『新規導入・更新機器』

新規・更新	メーカー	モデル	設置部署	備考
人工呼吸器	IMI	VELA (ST)	ME室	新規
フローアナライザー	IMI	PF-300	ME室	新規 (点検機器)
麻酔器	GE	AESPIRE200	手術室A	更新
ヘッドサイトモニター	日本光電	BSM-6501	手術室A	更新
マルチガスユニット	日本光電	AG-920R	手術室A	更新
静脈麻酔用 TCIシリンジポンプ	テルモ	TE-371	手術室	2台 新規
内視鏡手術用 カメラユニット	VISERA pro	OTV-S7 pro	手術室	更新
内視鏡手術用 光源装置	VISERA pro	CLV-S40 pro	手術室	更新
ヘッドサイトモニター	日本光電	BSM-6701	ME室	更新
送信機	日本光電	ZS-940P	各病棟	自動血圧計の更新 7台
セントラルモニター	日本光電	WEP-5218	3B病棟	更新
セントラルモニター	日本光電	WEP-5208	3A病棟	更新

輸液ポンプ	テルモ	TE-161	ME室	5台 更新
シリンジポンプ	テルモ	TE-331	ME室	5台 更新
疼痛管理用 シリンジポンプ	テルモ	TE-361	ME室	2台 更新
パルスオキシメータ	GE	タフサット	各病棟	5台 新規・更新含む

②『廃棄機器』

廃棄	メーカー	モデル	設置部署	備考
心電計	日本光電	ECG-8300	放射線科	
輸液ポンプ	アトム	P-600	ME室	
セントラルモニター	日本光電	CNS-8200	3B病棟	
送信機	日本光電	ZB-811P	ME室	4 F 病棟
シリンジポンプ	アトム	1235N	ME室	5台
送信機	日本光電	ZB-810P	ME室	3 B・4 F 病棟の2台
麻酔器	アコマ	KMA-1300	手術室	

【故障・修理・点検依頼など】

	点検・修理依頼	院内修理	メーカー修理
輸液・シリンジポンプ	5	5	-
電子血圧計	14	5	9
パルスオキシメータ	16	5	11
送信機	3	2	1
透析室機器	10	7	3
その他、手術室機器など	6	-	6

(※ 日常点検及び定期点検を除く)

【院内報の発行】

7/6	更新&新規導入機器の紹介
10/5	諸連絡・報告・お願い・諸注意
1/20	同上
2/9	同上
3/31	電氣的安全に基づく医療機器の正しい使用法

【学会・研修会への参加】

4/25	県南 CE セミナー ME 川越・ME 柏谷
6/21	秋田県臨床工学技士会主催「ペースメーカー勉強会」 ME 柏谷
7/24～25	東北厚生局医療安全共同行動「医療安全研修」 ME 川越
9/26	日本ライフライン主催「ペースメーカー研修」 ME 柏谷
10/9～10	IMI 主催「人工呼吸器 VELA・AVEA メンテナンス研修」 ME 川越
10/9	テルモ主催「輸液ポンプ TE-161メンテナンズ研修」 ME 柏谷
11/20	医療安全研修「ER 診療の落とし穴」 ME 川越
12/6	日本臨床工学技士会主催「透析液清浄化セミナー」 ME 川越
2/24～25	3学会合同「呼吸療法認定士・資格更新のための講習会」 ME 川越
3/7	秋田県臨床工学技士会主催「人工呼吸器安全対策セミナー」 ME 柏谷

【資格取得】

3 / 8	日本臨床工学技士会 JACET 学術機構（アカデミー） 「ペースメーカー専門臨床工学技士認定試験」 ME 柏谷
4 / 20	合格発表 ME 柏谷
5 / 17	透析療法合同専門委員会「透析技術認定士試験」 ME 川越
7 / 1	合格発表 ME 川越

【院内研修の実施】

4 / 3	新採用者オリエンテーション（新採用職員）
4 / 20	輸液ポンプ講習会（新採用職員）
6 / 18～26	セントラルモニターWEP-5208およびWEP-5218（3 A・3 B病棟スタッフ）
6 / 23～26	麻酔器 AESPIRE-200（手術室スタッフ）
6 / 29	血液浄化装置安全使用のための研修（手術室スタッフ）
6 / 25～30	ベッドサイドモニターBSM-6501（手術室スタッフ）
6 / 29～30	静脈麻酔専用シリンジポンプ TE-371（手術室スタッフ）
7 / 3	人工呼吸器研修会「初級編」（新採用者、未経験者）
7 / 31	「電気メス」VIO-300（手術室スタッフ）
9 / 1～16	微量用シリンジポンプ TE-361（各病棟スタッフ、研修医）
10 / 16	輸液・シリンジポンプ安全使用のための講習（医療職スタッフ）
10 / 13～19	重症用ベッドサイドモニターBSM-6701（各病棟スタッフ）
1 / 13・22	在宅用人工呼吸器使用説明会（4 F スタッフ）
1 / 25・2 / 18	AED 操作講習（医療職種以外）

【総括】

今年度は病院機能評価の諸準備と院内増改築のおかげで「盆と正月が一緒に来た」心境であった。透析室は増築棟へ移動し、増床しつつ周辺機器も全て更新される。現在、透析室での業務は体制上「機器の管理」程度に止まっているが、いずれ人的資源が確保された後には治療にも貢献していきたい。その他業務全般に関して言えることだが「まだまだ課題は山積」である。

今年度「特筆」すべきことは、ME 柏谷が2009年3月に行われた「ペースメーカー専門臨床工学技士」認定試験に合格したことである。公私共に多忙な折、「合格率17%」という超難関試験を突破することができたのは彼の努力の賜物であり、当院にとっても誇れるべき存在である。なおME 川越は今更（？）ながら透析技術認定士を取得してみた（苦笑）。

今後も更にスキルアップを目指し、スペシャリストとして質の向上に努めたい。

<文責 川越 弦>

臨床検査科

スタッフ

佐藤恵美子 (技師長)
平塚多喜雄 (室長)
小丹まゆみ (室長)
佐々木絹子 (室長)
工藤真希子 (主任)
長瀬 智子 (主任)
佐々木美奈子 (主任)
大嶋 聡子 (副主任)
高橋 隆子 (総括検査助手)
加賀谷美智子 (検査技師)
和賀 幸子 (検査技師)
田中 清美 (検査技師)
谷川真依子 (検査技師)
松井富美子 (業務員)

目標1) 正確かつ迅速な結果報告でチーム医療に貢献する。

2) 業務マニュアルの点検修正および業務環境の整備を機能評価に臨む。

3) 検査の効率化とコスト削減に努め DPC 対策を行う。

病院機能評価受審の年であり、また、病院が DPC 対象となったことで、上記目標を立てスタッフ全員が団結し頑張った年である。

機能評価に於いては、・臨床検査の体制が確立している・臨床検査機能が適切に発揮されている・機能の質改善に取り組んでいる。中項目は(4)、全ての小項目はaの自己評価であった。受審時には、コントロールサーベイに於ける評価点も高く、精度管理も良くなされておりよく取り組んでいると評価の言葉を頂いた。分析器や試薬変更などがあった場合は、担当者が、必ずマニュアルを更新することが習慣化しておりこれは機能評価の副産である。

出来高と DPC の相違点を学びコスト意識がより高まった。業務の効率化、合理化へ意見交換や試行など、皆で協力して改善に努めた。

この姿勢は継続し更なる効果を実感したい。

<文責 佐藤恵美子>

多項目自動血球分析装置 コールターLH785・LH500を導入して

平成21年度9月より、多項目自動血球分析装置コールターLH785・LH500が導入された。LH785は前機に比較し検体処理能力に優れ（100検体/時間）、網赤血球測定モード搭載により網赤血球自動測定が可能になった。さらに、スライドメーカー・スライドステイナーを接続したことにより血液塗沫標本の自動作製もできるようになり、作業能率の向上と担当者の血液暴露の危険性低下につながった。

LH500は夜間・休日当番用及びバックアップ機として導入したが、検体吸引量が少なくすむため、新生児検体をはじめ微量検体の測定や再検時にも使用し、LH785と組み合わせて使用することにより、より効率良く検体処理が行えるようになった。

両機種とも解析能力の向上により、低値領域のデータの信頼性、また形態学的異常検体の検出能力がアップし、より制度の高い検査結果を提供できるようになった。

今回の導入により、正確かつ迅速な結果報告は可能になったと考えるが、今後も改善点を見直し、より質の高い検査業務ができる様努めていきたい。

<文責 工藤真希子>

年間検査実績(件)

病理細胞診

生検	1,907	術材	464	細胞診	804	婦人科細胞診	3,646
----	-------	----	-----	-----	-----	--------	-------

生理検査

総合計	24,262	簡易聴力検査	6,089	腹部エコー（検診）	1,368
心電図	10,506	スパイログラフイー	1,887	甲状腺エコー	28
ホルター心電図	295	眼底カメラ	1,406	頸動脈エコー	207
マスターダブル	211	脳波	90	心エコー	1,665
マスタートリプル	9	MCV	172	指尖容積脈波	3
トレッドミル	12	新生児聴力検査	128	血圧脈波	186

検体検査

総合計	733,783	生化学	502,819	赤沈	3,771
尿一般	26,043	血糖	23,953	血ガス	2,282
尿沈渣	9,288	HbA1c	12,823	免疫関連	8,472
便潜血	4,178	血液一般	64,443	輸血関連	4,041
インフルエンザ	5,395	凝固線溶	8,413	乳幼児	2,125
一般細菌	2,235	感染症	14,383	外注	16,861
結核菌関連	925	腫瘍マーカー	8,401	外注率	2.3%

<文責 佐藤恵美子>

食 養 科

平成21年度、この1年は機能評価受審（平成22年3月11日～13日）に向け邁進した年だったと思います。前回の受審時よりもさらに厳しくバージョンアップされたVer. 6.0での審査ということで、今思うと不安・緊張・焦燥といった（諸々な心の）葛藤のなかでの毎日だったような気がします。

前回は「温冷配膳車」の導入を検討して欲しいとの指摘を受けておりましたが、ハード面で難しいものがあり解決できておりませんでしたし、建物といえどもともと構造の点でさまざまな問題（厨房内の室温湿度の問題・排水設備の不備・本来ウエット式の床をドライ仕様している現状等）を抱えている上に、増改築工事と重なり害虫混入防止対策にも頭を悩ませました。また、壁面の破損・床タイルの腐食・相次ぐ厨房機器の故障、このように老朽化が進んでいる状態での受審は、正直とても辛いものがありました。それでも、食養科職員が一丸となって取り組み、何とか無事終える事ができました。

また、平成21年度は、取り組み重点目標のひとつである「出前健康講座」に力を注いだ年だったと思います。この1年間で管理栄養士は4回の実績を残す事ができました。

この取り組みをとおし、微力ながら地域住民の健康の維持・増進に貢献することが出来たのではないかと（ほんの少し）自負し、この講座による指導効果に期待したいと思います。

食養科スタッフ

技師長	原田 優子
主任	川越 真美
主席調理技能士	天羽 勝義
主任	小松 信宏
嘱託事務員	幕沢美紀・藤原由香
嘱託調理員	松井世津子・佐藤美枝・石川勝美・高橋広美・赤川千恵 百合川智賀子・大坂美津代・佐藤殉子・高橋麗・高橋陽香 千葉恵理子・細川陽子・武藤聡子（旧姓石橋）
パート食器洗浄員	柴田文子・田中澄子・小山訪子

院内活動

平成21年9月4日

医療安全シンポジウム 「食中毒予防の取り組み」 原田 優子

院外活動

平成21年4月4日

市民講座 「骨粗鬆症の予防と対策」

パネルディスカッション（かまくら館にて） パネラー 原田 優子

*出前健康講座（いきいきサロン）実績

平成21年6月23日 中里集落センターにて 原田 優子

平成21年 8月20日 水上平和会館にて 川越 真美
 平成21年 11月13日 安本町内会館にて 原田 優子
 平成22年 1月 8日 中杉沢会館にて 川越 真美

教育実習受け入れ状況

平成21年 7月27日～7月31日 西野 利尚 (秋田栄養短期大学)
 杓沢 順加 (盛岡大学短期大学部)

平成21年度食数及び給食材料費

区分	食 数				1人1日当たり単価			
	常食	軟食	特別食	合計	常食	軟食	特別食	平均単価
4月	4,061	4,137	4,132	12,330	738	647	752	712
5月	4,355	3,734	3,439	11,528	728	657	814	731
6月	4,863	3,900	4,338	13,101	648	619	670	647
7月	4,523	4,783	5,159	14,465	800	578	566	643
8月	4,379	3,660	4,744	12,783	715	692	698	702
9月	4,337	3,510	4,150	11,997	709	664	716	698
10月	5,491	3,121	4,264	12,876	636	654	713	666
11月	5,132	3,319	4,632	13,083	665	587	669	646
12月	4,539	4,178	4,645	13,362	712	629	714	687
1月	4,838	4,562	4,821	14,221	753	636	568	653
2月	5,563	3,990	4,366	13,919	611	667	660	643
3月	5,290	4,258	4,634	14,182	711	617	675	671
合計	57,371	47,152	53,324	157,847	8,426	7,647	8,215	8,099
平均	4,781	3,929	4,444	13,154	702	637	685	675

平成21年度 栄養指導 (外来、入院、集団) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外 来												
肥満症					1	1		1				
糖尿病	4	1	5	3	7	3	4	7	5	3	4	4
脂質異常症	1		1	1	2	1	2	1	1	1	3	
慢性腎不全	3	1	1								1	1
入 院												
手術後食	7	1	2	8	6	2		3	5	1	3	6
糖尿病	6	6	2	1	1	1	1	3	3	3	2	9
心疾患							2		1		1	2
慢性腎不全		1	1		1				1			2
肥満												
後期高齢者	1			1			1					3
集 団												
糖尿病	4	5	6			3			2			
合計人数	26	15	18	14	18	11	10	15	18	8	14	27

< 文責 原田優子 >

健康管理センター

スタッフ

所 長	船岡 正人	(兼務)
所長補佐	佐藤 正弘	(兼務)
保健師	鈴木久美子	
保健師	佐藤恵美子	
保健師	松浦 喜美	
看護師	加藤 亜樹	
副主幹	高橋 功	
事務員	菊地 智子	
事務員	藤倉 美穂	
事務員	奥山沙耶香	
事務補助	佐藤 隆子	(平成21年5月から7月まで)
事務補助	藤井 瑞秀	(平成21年5月から7月まで)
事務補助	川原 聖子	(平成21年5月から7月まで)
事務補助	菊地真季子	(平成21年5月から7月まで)

概 要

主要な健診項目の対前年度比では、受診者数は10,361名で昨年度と比較して168名、1.65%の増、請求額は135,925千円で昨年度と比較して4,932千円、3.77%の増となりました。各種オプションを含む各種健診の延べ受診者は11,032名となり、昨年度に引き続き1万人を突破しました。市役所等の職員健診では引き続き火曜日から木曜日の早朝健診や月曜日の午後に乳癌・婦人科検診、そして土曜日の午前に胃内視鏡検診を実施することで日中の一般健診への影響を少なくするなど、院内関係部署の方々のご理解ご協力のもとこの実績が達成されたものでありますので、改めて深く感謝申し上げます。

平成21年度から基本健診に加えて追加検査を選択出来る項目として、新たに肺CT、各種腫瘍マーカー、ヘリコバクター・ピロリ抗体1gG検査が加えられ、受診者の方々が選択できる検査項目の充実が図られました。そして平成20年度から始まりました特定健康診査・特定保健指導への対応や二次検診への対応など、保健師が担う役割の重要性がますます増しております。

また、二次検診の予約窓口を引き続き担当することで受診者の継続フォローもさらに充実してきており、保険診療部門へも貢献していけるよう、引き続き努めて参りたいと考えます。

今後とも当院の基本理念「地域の人々に信頼される病院を目指します。」に基づき、「地域医療・保健に貢献します。」の基本方針の実現に努めるとともに健全な病院経営に資するよう頑張っていきます。

21年度目標

1. 疾病の早期発見が可能な健診の提供
2. 医療事故防止に努める
3. 増改築後の健診体制の充実

主な項目の過去5年間の受診者数と請求額

健診種別	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
けんぽ一般・付加健診	1,566	1,960	2,013	1,842	2,465
日帰り人間ドック	880	783	910	957	939
宿泊人間ドック	181	186	172	184	185
脳ドック	127	157	119	134	128
市役所関係職員健診	1,293	2,222	2,298	2,477	1,900
事業所健診	803	801	797	718	759
子宮がん検診	2,632	1,602	1,579	1,950	1,889
乳がん検診	677	949	1,243	1,500	1,634
B型肝炎検査	451	451	443	431	462
小計(件数)	8,610	9,111	9,574	10,193	10,361
増減率(%)	4.01	5.82	5.08	6.47	1.65
二次検診(自動車健保)	32	43	34	56	—
合計(件数)	8,642	9,160	9,613	10,255	10,361
請求額(千円)	114,158	116,912	124,037	130,993	135,925
増減率(%)	10.07	2.41	6.09	5.61	3.77

参考資料

特定健康診査	受診者	136名	請求額	1,164,553円
特定健康指導	受診者	5名	請求額	36,120円
内蔵脂肪CT	受診者	66名	請求額	198,000円
肺CT	受診者	22名	請求額	264,000円
腫瘍マーカー	受診者	372名	請求額	1,190,400円
ピロリ抗体	受診者	70名	請求額	70,000円

平成21年度(2009年度)健康管理センター報告書

健診種別	受診者数	請求金額	検査料金	消費税
協会けんぽ一般健診	2,370	42,714,361	40,680,344	2,034,017
付加健診	95	870,770	829,305	41,465
子宮ガン検診	138	289,800	276,000	13,800
子宮ガン(オプション)	488	1,024,800	976,000	48,800
乳ガン(オプション)	435	1,894,245	1,804,043	90,202
肝炎ウイルス検査	54	107,136	102,034	5,102
日帰り人間ドック	939	31,012,471	29,535,687	1,476,784
宿泊人間ドック	185	11,479,954	10,933,290	546,664
脳ドック	88	3,519,795	3,352,186	167,609
脳ドック(オプション)	40	825,000	785,714	39,286
市役所関係職員健診	1,900	19,057,196	18,149,710	907,486
事業所健診	759	10,345,059	9,852,438	492,621
婦人科検診	538	2,371,493	2,258,565	112,928
婦人科検診(オプション)	725	2,012,200	1,916,381	95,819
乳ガン視触診・マンモグラフィー	1,199	5,286,003	5,034,288	251,715
B型肝炎ワクチンほか	1,079	3,114,848	2,966,522	148,326
合計	11,032	135,925,131	129,452,507	6,472,624

<文責 柴田昌洋>

事務局

平成21年度は、2年続いた苦しい経営状況を今年こそは改善しなければならないと、職員全員が努力してきた一年でした。

4月からはDPC対象病院となり、手術の増などによって医業収益が増え、病院事業に対する交付税の算入額が増えたこともあって収益を確保することができました。一方で、ジェネリック薬品の導入を積極的に進めるとともに、経費の節減などによって費用の伸びを抑えた結果、平成21年度は黒字決算となりました。

これによって、実施初年度にあたる「病院事業改革プラン」は、計画をほぼ達成することができたものと考えております。

「市民のための優しい病院づくり」を目指して進めている増改築事業は、平成21年2月から増築工事を始めました。工事は順調に進み、平成22年4月16日に引渡しを受けて、5月6日から運用を始めております。平成21年度は、事務室やデイルームなどから元の駐車場に建物が少しずつ高くなっていく建築工事の様子を見ることができました。また、手術室の改修工事（バイオクリーン化）と産科病棟の改修工事（LDRと個室の整備）を行い、手術室は平成21年10月5日から、産科病棟は11月16日から稼動しました。

工事期間中は、患者さんや来院する方に出来るだけご迷惑やご不便をかけないよう配慮しましたが、工事に伴う騒音や振動などでは一時的にご迷惑をおかけしたときがあり、大変心苦しく思っております。

平成22年3月には、病院機能評価（Ver. 6.0）の訪問審査を受けました。第1回目の準備委員会が平成20年12月5日でしたので約1年4ヶ月間の準備期間でしたが、平成21年度は1年間その準備に充てられたということになります。始めは、職員全体のものになっていないのではないかという声もありましたが、次第に病院全体のものとして浸透し、求められる役割や機能がどのようなものであるかを考え、業務を改善するための視点を与えてもらったように思います。そして、いざとなればきっちりとまとまる横手病院の底力を見たように思いました。

平成21年度も、患者さん中心に安心・安全な医療の提供に努め、地域の人々に信頼される病院を目指して努力してまいりました。今後も引き続き、経営の健全化に努め、地域の人々の信頼に応えるべく努力してまいります。

<文責 佐藤正弘>

総務課

企画係

スタッフ 栗田公平、柿崎正行、阿部千鶴子

業務内容

- ・ 病院事業の基本計画の策定及び推進に関すること。
- ・ 病院の事務事業の改善及び目標管理に関すること。
- ・ 病院機能評価の取得に関すること。
- ・ 病院事業の経営改善の調査に関すること。
- ・ 病院広告及び広報に関すること。
- ・ 病院ホームページに関すること。
- ・ 皆様の声（投書箱）集計。
- ・ 外来・入院患者様アンケート調査及び集計。

平成21年度「皆様の声」集計結果

【入手方法】

投稿など	電話	電子メール	職員へ口頭で	その他	合計
40	—	4	2	2	48

【内容】

	苦情	要望	感謝	その他
診療科	5		8	
看護科	8	7	10	
事務局	8	8	5	2
リハビリテーション科			2	
食養科	1	2	1	
健康管理センター	1			
その他	5		2	
合計	28	17	28	2

<文責 佐藤俊幸>

総務係

総務係

スタッフ 佐藤潤、菊池優、吉田綾子、佐藤清美、後藤美佐子、中田千絵、佐藤ひろみ、
三浦和也、津川明子

業務内容 人事・給与支払等管理業務

旅費・経費等各種支払業務、会計処理、予算・決算処理、起債管理業務
文書收受・発送・保管業務
電話交換業務
公用車・患者搬送車の運転、維持管理業務
選挙事務（院内入院患者の不在者投票）
互助会会計事務

医局秘書担当

スタッフ 谷口明美

業務内容 医局関連庶務業務全般

医師スケジュールの管理業務【学会・出張関係各手配、年休管理など】
医局図書室、医師当直室、産泊室の管理業務
医局費、旅行積立金収支報告処理業務
医師給与に関する書類の作成業務
医局行事のセッティング業務

事務当直

スタッフ 佐々木悟、茂木伸悦、小田島定男、照井利明

業務内容 夜間の救急患者の受付、電話取次ぎ、早朝の診察券受付等業務

夜間警備

スタッフ 照井祐一、福田藤太郎、堀江努、鈴木重樹、佐藤賢

業務内容 夜間の来院者等の確認、院内巡回による戸締り・火気確認等業務

<文責 佐藤 潤>

管財係

管財係スタッフ

係長（薬品担当） 阿部光子

物品担当 菅原祐司、照井真澄、伊藤有希子

施設担当 伊藤建一、高橋正男、渡辺ひとみ

ボイラー室 森谷茂、杉田健一、堀江敦司、山中慎太郎、千葉禎彦、佐藤幸夫

駐車場 珍田健、黒沢秀利、佐々木政雄、谷口英明、高橋幸志、

田口雅浩、高橋諒、

※ 藤倉忠彦、佐藤悠樹（病院増改築のため仮設の出入口に配置）

* 係長（薬品担当）

業務内容

- ・ 管財係統括
- ・ 医療機器の購入に関すること

- ・ 医薬品・試薬・血液購入の経理、価格交渉、在庫管理
- ・ 酸素使用状況調査
- ・ 職員被服の見積・発注
- ・ 未払金入力処理、貯蔵品入力処理
- ・ 医薬品・診療材料関係使用状況調査
- ・ 棚卸資産調査、統計に関すること
- ・ 院内掲示に関すること
- ・ 行政財産使用許可業務
- ・ その他管財係に関すること
- ・ 病院増改築に関すること

○ 医療機器契約業務（経常分）

契約件数 多項目自動血球分析装置他43件
 契約総額 ￥120,003,674.-

○ 医療機器契約業務（増改築分）

契約件数 LDR用分娩ベッド他19件
 契約総額 ￥39,020,751.-

○ 医薬品見積状況

試薬 H21.3.26
 薬品 H21.9.24 1466品目

平成21年度医療機器購入実績

番号	品名	科・課名
	【経常分】	
1	上部消化管汎用ビデオスコープ（新規）	（医局）消化器内科
2	高周波手術装置（新規）	（医局）消化器内科
3	自動注腸装置（新規）	（医局）放射線科
4	高周波手術装置（新規）	（医局）外科
5	フレーム・ルーペセット（新規）	（医局）整形外科
6	無散瞳・散瞳一体型眼底カメラ（新規）	（医局）眼科
7	ハンフリー自動視野計データ（新規）	（医局）眼科
8	トイツイネットワークセントラルステーションモニタシステム（新規）	（医局）産婦人科
9	マエダプロテクターラック（更新）	診療放射線科
10	全自動分割分包機（更新）	薬剤科
11	昇降式マット付きプラットホーム（新規）	リハビリテーション科

12	オージオメーター（新規）	リハビリテーション科
13	筋力計（新規）	リハビリテーション科
14	多項目自動血球分析装置（更新）	臨床検査科
15	ホルター心電図解析装置（更新）	生理検査室
16	内視鏡手術装置ユニット（更新）	手術室
17	輸液ポンプ（更新）	ME室
18	小型シリンジポンプ（更新）	ME室
19	シリンジポンプ（更新）	ME室
20	全身麻酔器（更新）	手術室
21	麻酔用モニタ（更新）	手術室
22	医用テレメータ	3 B病棟
23	医用テレメータ	3 A病棟
24	自動血圧計内蔵型送信機	ME室
25	人工呼吸器点検機器	ME室
26	人工呼吸器・Velaスタンダード	ME室
27	ベッドサイドモニタ	ME室
28	食器戸棚	食養科
29	食器戸棚	食養科
30	体圧分散マットレス	褥瘡対策委員会
31	体圧分散用備品	褥瘡対策委員会
32	細菌結果参照画面増設	細菌検査室
33	再来受付機システム一式	医事課
34	医療情報システム関連機器	医療情報管理室
35	イリザロフ創外固定器	手術室
36	高周波熱凝固装置	ペインクリニック
37	テルモTCIポンプ	手術室
38	表在用リニアプローブ	手術室
39	薬用冷蔵ショーケース	3 B病棟
40	アトム酸素モニタ	新生児室
41	ストレッチャー	4病棟
42	免疫血液学用遠心機	臨床検査科
43	アトム酸素モニタ	3 A病棟
44	ガイネケアモータードライブユニット	手術室
	【増改築分】	
101	インファントウォーマー	LDR室
102	分娩ベッド	LDR室
103	分娩監視装置	LDR室
104	吸引分娩器	LDR室

105	LDR室内処置灯	LDR室
114	監視カメラ	2病棟
115	注射薬払出カート	薬剤科
116	診療材料搬送カート	手術室
117	アトム検診台	産婦人科
118	交流室用テーブル・イス	産婦人科
119	増築棟電子カルテシステム端末等機器	増築棟
120	電話交換設備増設	増築棟

薬品購入実績

	21年度	20年度
内服	207,411,309	218,527,419
注射	458,162,699	464,958,766
外用	44,718,461	40,374,376
血液	30,148,937	31,963,182
試薬	64,285,789	65,161,237
合計	804,727,195	820,984,980

(消費税含まない)

ボイラー経費実績

	21年度	20年度
重油	21,166,557	32,721,108
水(市水)	712,643	730,664
薬品	1,432,662	1,434,933
電気	6,154,315	6,370,738
合計	29,466,177	41,257,443

(消費税含む)

医療消耗品購入実績

	21年度	20年度
特定保険医療材料	163,784,525	130,049,546
一般医療材料	172,783,330	157,327,225
合計	336,567,855	287,376,771

(消費税含む)

<文責 阿部光子>

* ボイラー室

業務内容

- ・ボイラー室の保守管理
- ・空調機械保守管理
- ・冷暖用ファンコイル保守管理
- ・蛍光灯交換及び管理

- ・ 冷房・暖房運転
 - ・ 自家発電機の管理
 - ・ 重油取り扱い及び管理
 - ・ 医療ガス情報監視、点検及び酸素ポンベ交換
- 宿直時のトラブル及びナースステーションからの要請

警報関係 9件
 施設関係 25件
 蛍光灯関係 76件
 ナース関係 31件

まとめ

21年度の気温の変化を前年度と比較しますと、月平均最高温度は6月に高めになり夏場の冷房が心配されましたが、7月から低めに推移して予想を下回り夏場の熱帯夜は5日（前年度は11日）でした。12月から温度が下がり降雪量も多くなりました。

しかし、例年では考えられない1月や2月に雨が降るなどの異常気象を感じさせる1年だったと思います。

経費をみてみますと、昨年度は原油の高騰で使用量減にもかかわらず増となりました。21年度は価格が下がり使用量は約9,000㍑減で約1,200万円の減になりました。市水、電気もそれぞれ減になり薬品は冷房運転時間の増加やボイラー及び配管保護の重視により増となりました。全体で12,408,337円の減になった主な理由は気温の変化と中圧ヘッターの圧力変更(減圧)、空調機、温水の有効利用、手術室との連絡を密にした結果と思います。

夜間のトラブル及び要請は全体で件数減になりました。喜ばしいことと思います。警報関係は医療ガスの警報が増えました。今後対応を検討したいと思います。

ボイラーを取り巻く二酸化炭素の削減、冷房、暖房の設定温度の調整などで地球温暖化対策、環境保全が年々重要視され取り組みに対する効果が叫ばれるようになりました。当院でも20年度18000㍑、21年度は9000㍑と年々重油の使用量の削減に努力してまいりました。22年度は増築棟も完成し作業範囲の拡大と経費の増加が予想されますが院内の状況を抑把握し空調やファンコイルの有効な温度管理、電気や水の無駄のチェック、水の再利用効率を高めるよう心がけ更なる使用量の減少、経費の節減に努力して参ります。

22年度は次の目標で取り組みたいと思います。

1. 地球温暖化対策継続による排ガスの削減（重油使用の減）と院内のバランスの取れた温度管理に努める。
1. 安全第一に効率の良い運転の追求と各設備、配管の保護に努め長期可能に努力する。
1. 点検を重視しトラブルの早期発見に努め修理業者の依頼減少と経費節減に努める。

<文責 森谷 茂>

*物品担当

スタッフ

菅原 祐司

照井 真澄

伊藤有希子

資材管理（物品管理）にあたっては平成10年度より SPD システムを導入し、今日まで物品の一元管理に向けた取り組みを実施してきました。現在も過剰・不良在庫の削減、購入コストの削減はもとより、院内スタッフのニーズを反映し、より良い医療を提供することを目標に日々努力しているところです。

主な取り組み内容は、週6回の払出し（一部外来を除く）適正在庫の見直し等による物品の安定供給、定数管理すべき材料の適正化、使用頻度の低い材料については臨時請求されるといった、商品の重点別管理を行う理想的な物品管理法を徹底し、きめ細やかな物品の管理体制を実施してきました。（臨時請求の物品については誤発注、確認に要するロスタイムを軽減すべく物品請求シールの活用を拡大）

H21

	医療消耗	特 材	一 般
4月	33,200,573	16,935,780	16,264,793
5月	25,167,275	14,271,604	10,895,671
6月	25,875,352	11,978,769	13,896,583
7月	31,507,774	13,914,861	17,592,913
8月	24,228,760	11,085,085	13,143,675
9月	21,366,308	8,971,362	12,394,946
上期	161,346,042	77,157,461	84,188,581
10月	25,629,044	11,331,298	14,297,746
11月	30,767,221	14,997,362	15,769,859
12月	29,829,029	13,440,493	16,388,536
1月	27,991,028	13,273,904	14,717,124
2月	24,472,966	11,849,912	12,623,054
3月	36,531,475	21,734,095	14,797,380
下期	175,220,763	86,627,064	88,593,699
合計	336,566,805	163,784,525	172,782,280

<文責 菅原祐司>

医事課

平成20年度に診療報酬の引き下げがあり、医療収益確保に厳しい状況下でDPC対象病院実施に向けて準備を行い、平成21年4月からDPC請求を開始しました。

DPC請求を行うにあたり、DPCコーディングにおける基本ルールを定め、各部門での役割と運用について示し、DPC請求に向け一丸となって取り組んでおります。

今後厳しい経営環境のなか医事課では、さらに医師・看護師・診療情報管理士との連携で円滑なDPC業務運営を中心となって推進し、高い意識を持って取り組む努力をしてみたいと思います。

○ 平成21年4月1日現在のスタッフ

高橋 幸一	浮嶋 優子	石山 博幸	照井 圭子	百合川深里
村田 芳江	石塚 紫	伊藤 雅子	田澤 妙子	谷川香奈子
伊藤 雅子	佐々木有紀子	伊藤 春香	佐々木和喜子	照井希世子
菅原真由美	藤田ゆかり	伊藤喜美子	高橋真知子	藤原 明子

○ 医事課の業務内容

※ 窓口業務 ※ 医療費請求業務 ※ 医療相談業務

医事係

《入院事務担当》

- ・救急医療情報（空床状況救急報告）送信 ・病床利用情報入力 ・保険請求業務
- ・DPC調査票内容検討 ・入院請求書発行、配付、送付 ・査定、返戻内容の検証
- ・未集金状況確認と対策 ・労災、公務災害処理 ・新生児出産届出
- ・産科医療補償制度処理 ・諸証明の受付管理
- ・入院申込書、病衣使用同意書、個室使用同意書の保管

《外来事務担当》

- ・受付業務 ・カルテ管理(紙) ・保険請求業務 ・交通事故、労災、公務災害の処理
- ・生保給付券の処理 ・医療要否意見書の処理 ・諸証明の受付処理 ・検診契約
- ・病院日報、月報の作成 ・各種申請届出 ・院内調整

会計係

- ・窓口現金徴収 ・未払い金の徴収 ・現金収入内訳票の作成 ・日計表の作成
- ・納入通知書の作成、消し込み ・調定業務 ・決算資料の作成

医療相談室

- ・医療相談 ・福祉機関との連携 ・介護保険主治医意見書の処理

<文責 浮嶋優子>

医療安全管理室

概要

医療安全管理室は、医療事故防止活動を通して「医療の質を保証すること・質の向上を目指すこと」を目的とし組織横断的に安全管理体制を構築する事を目的としている。

平成20年4月より、医療安全管理室に専任の医療安全管理担当者を配置し、病院全体の医療安全の業務に従事し、医療安全に関する企画・立案および評価、委員会の円滑な運営の支援、また、職員への医療安全に関する教育研修、情報収集と分析、再発防止策や、発生予防等に務める。

構成員

医療安全管理室は、医療安全管理室長のもとに次にあげる者をもって構成する。

- | | |
|---------------------------|-------|
| 1) 医療安全管理室長 | 丹羽 誠 |
| 2) 医療安全管理室担当者（専任リスクマネジャー） | 佐々木佳子 |
| 3) 医薬品安全管理者 | 石田 良樹 |
| 4) 医療機器安全管理担当者 | 川越 弦 |
| 5) 転倒転落作業部会長 | 小松 則子 |
| 6) 看護科作業部会長 | 佐藤セツ子 |
| 7) 医療安全管理室事務 | 阿部千鶴子 |
| 8) 院内感染対策担当者 | 小川 伸 |

業務

- 1、院内報告制度の整備ひやりハット報告書の検討集計・分析
- 2、医療安全の委員会に関する活動リスクマネジャー委員会・感染対策委員会・救急運営委員会etc.
- 3、医療安全の為の部署間の調整・対策等の提案 ひやりハット通信の作成・回覧
- 4、医療安全の為の指針やマニュアルの作成
 - 1) 医療安全に関する指針・規程の見直し
 - 2) 医療安全マニュアルの作成
- 5、医療安全に関する研修・教育

開催日	内容	対象
5月15日	RCA分析（根本原因分析）について	リスクマネジャー委員・各部署長・主任・その他興味のある方
6月1日	危険薬剤について	看護科・臨床研修医・薬剤科
6月5日	安心なCVC留置のご提案	臨床研修医・師長・主任
7月3日	人工呼吸器勉強会「初級編」 人工呼吸器を装着しよう ～人工呼吸の概要 準備・装着まで～	臨床研修医・新人看護師・初心者・興味のある方
7月17日	転倒事故を減らすために	臨床研修医・看護師・リハビリ
8月7日	CT検査におけるリスクマネジメント MRI検査の事故防止について	臨床研修医・看護師・診療放射線科

8月25日	院内暴力対策研修会 護身術講習会	全職員
9月	持注ポンプの使用法	持注ポンプ利用者
9月4日	医療安全シンポジウム 医療安全への取り組み	全職員
9月28日	皮下埋め込み型ポートの管理	看護科
10月	心電図モニターの使用法	病棟看護師
10月16日	自動輸液ポンプ MRI検査の事故防止について(8/7と同じ)	看護科
11月6日	造影CT検査における看護師業務のリスク マネージメント 注射・輸液の安全使用について	看護科
11月27日	血管内留置カテーテル留置における固 定方法について	感染リンクナース 褥瘡リンクナース リスクマネージャー委員
12月4日	閉鎖式輸液カテーテルの取り扱い	医師・看護科・薬剤科・ME・ その他
1月15・19日	院内保安全管理 組織で取り組む院内暴力	全職員
1月27・28日	マキシマルバリアプリコーションに関 して	感染リンクナース 褥瘡リンクナース リスクマネージャー委員
1月29日	チェックリストの付け方と観察のポイ ント	病棟看護師・透析室
2月2日	マキシマルバリアプリコーション使用 方法について	研修医・興味のある方
2月12日	輸液ラインのリスクマネージメント	研修医・看護科

6、医療安全に関する院外からの情報収集と対策 医療安全情報の掲載

7、医療安全に関する院内評価業務

投薬確認の監査薬品保管に関する監査

救急カートの整備状況監査

平成21年度の主な事項

1、医療安全シンポジウムの開催

市立横手病院の職員が、安全で安心できる医療を提供するために、それぞれの部署での医療安全に対する取り組みを発表し、情報の共有化を図り、医療の質の向上を目的としてシンポジウムを開催した。

各部門・部署（19題）の医療安全への取り組みへの発表を行った。職員266名（67%）の方々の参加を得た。全ての部門が共有できる問題であり、それぞれの部門の問題点を発表し理解してもらうための機会になったと考えられる。また、他部門の業務の理解にもつながったと思う。

2、医療安全のための院内監査の実施

患者確認のためのリストバンド装着状況、点滴注射施行時のバーコードリーダ使用による実施確認、指示確認状況の確認状況、各部署による医薬品の管理状況等の監査を定期的

に実施した。

院内監査を行うことにより、部署での安全対策の実施状況が明確になり、安全対策の効果が上がった。特に点滴注射の実施確認状況を監査することにより、バーコードリーダーの使用が定着し、患者間違い防止に効果があった。

3、医療安全マニュアルの閲覧画面の改善

医療安全マニュアルを、すべての職員が閲覧できるように、院内ネットワーク上に掲載した。閲覧画面には、医療安全マニュアルのほか、ひやりはつと報告画面、研修会資料、医療安全情報等を表示した。

4、マキシマルバリアプリコーションの導入

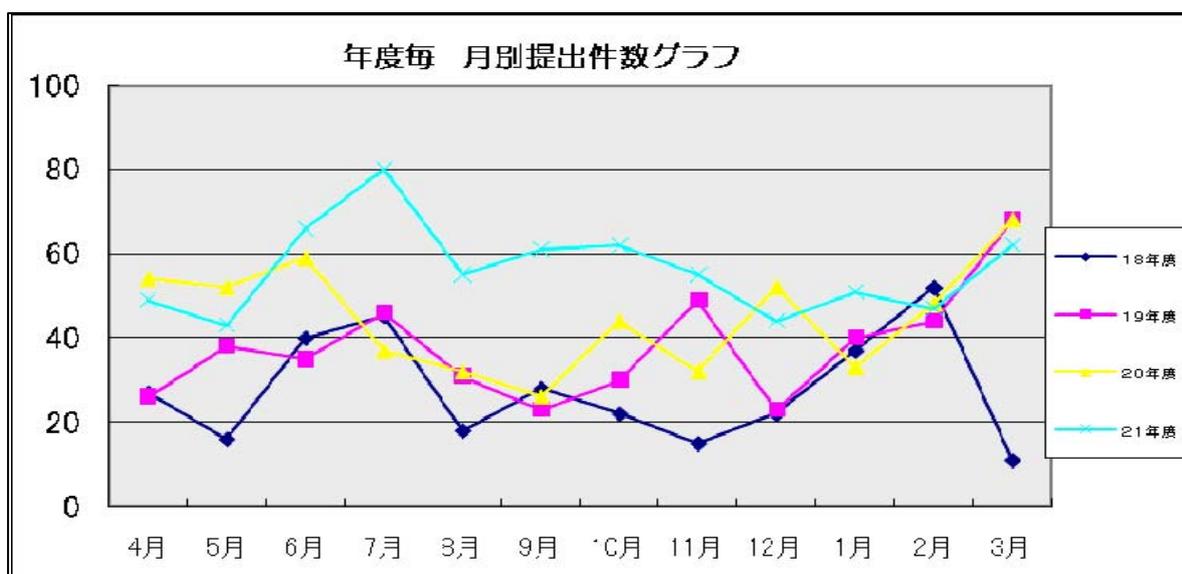
5、閉鎖式輸液セットの導入

6、血管内留置針の固定方法の統一

ひやりハット集計

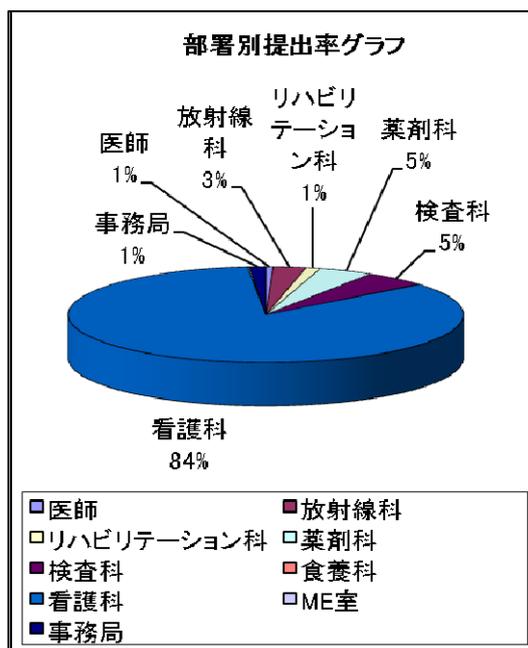
<月別件数>

月	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
4月		1	22	28	27	27	26	54	49
5月		23	30	30	41	16	38	52	43
6月		15	25	45	35	40	35	59	66
7月	4	21	44	28	25	45	46	37	80
8月	28	22	38	28	22	18	31	32	55
9月	24	29	40	10	17	28	23	26	61
10月	32	33	19	35	24	22	30	44	62
11月	19	30	31	40	19	15	49	32	55
12月	15	42	33	40	25	22	23	52	44
1月	24	26	17	27	36	37	40	33	51
2月	17	21	20	37	41	52	44	48	47
3月	8	31	39	25	30	11	68	68	62
合計	171	294	358	373	342	333	453	537	675



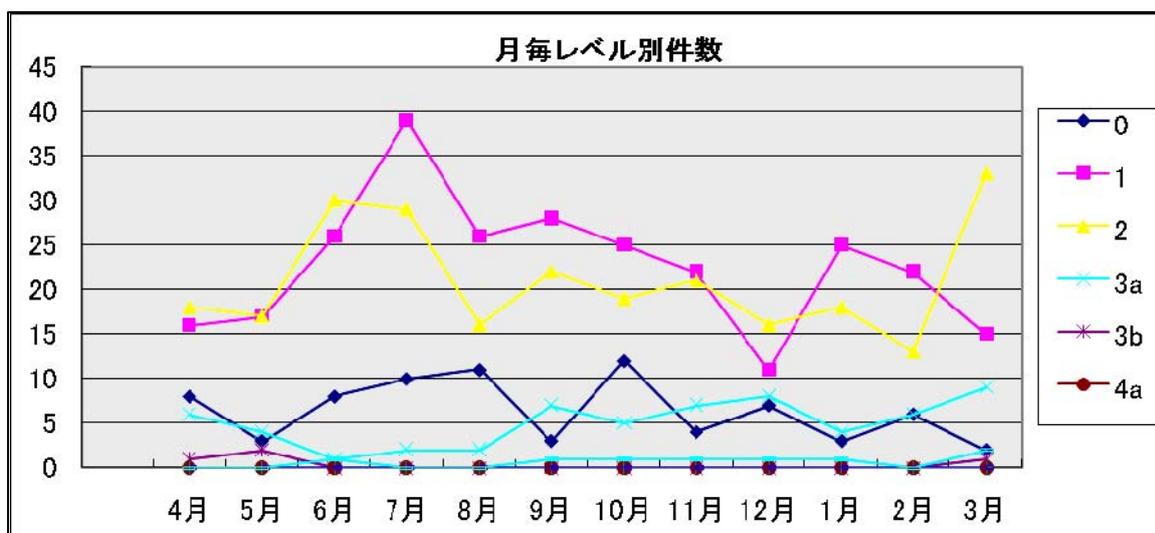
< 部署別提出率 >

部署名	提出数	提出率	人数	人数に対する%
医師	4	0.6%	38	11%
放射線科	18	2.7%	7	257%
リハビリテーション科	8	1.2%	7	114%
薬剤科	30	4.4%	14	214%
検査科	35	5.2%	13	269%
食養科	1	0.1%	22	5%
看護科	569	84.3%	204	279%
ME室	1	0.1%	2	50%
事務局	9	1.3%	85	11%
総提出数	675	100.0%	392	



< 月毎レベル別件数 >

レベル	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
0	8	3	8	10	11	3	12	4	7	3	6	2	77	6.4
1	16	17	26	39	26	28	25	22	11	25	22	15	272	22.7
2	18	17	30	29	16	22	19	21	16	18	13	33	252	21.0
3a	6	4	1	2	2	7	5	7	8	4	6	9	61	5.1
3b	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4	0.3
4a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
不明	0	0	1	0	0	1	1	1	1	1	0	2	8	0.7



< 文責 佐々木佳子 >

医療情報管理室

21年度は院内医療情報システムの整備とシステムの安全かつ合理的な運用を目的とした活動を行った。

開始から2年目になる電子カルテの運用については、病院機能評価と合わせ診療録の規定、手順の見直しを行い、質改善と適切な管理に努めた。

また、院内システム機器関連では、再来受付更新導入、DPC分析ソフトgirasoinの導入、分娩監視システム導入、増改築準備等の整備を行った。

今後は診療の質評価指標の作成に向け、情報の把握・分析をさらに進め、情報が適切に活用されるよう取り組んでいきたい。

<スタッフ>

藤盛 修成	加藤 健	佐藤セツ子	照井 洋子	高橋 共子
浮嶋 優子	柿崎 正行	照井 圭子	渡辺 瑞穂	木村 宏樹
田中 大輔	伊藤 誉幸	岩野 陽悦	千葉 崇仁	島田万里子
小川由美子	佐藤ゆかり	伊藤 尚子	佐藤 裕香	

<文責 浮嶋優子>

地域医療連携室

今年度は、診察2145件、検査816件、合計2961件のご紹介をいただいた。昨年度と比較し、155件の増加となった。ここ数年減少傾向であったが、3年ぶりの増加となった。診療科別にみると、整形外科で約70件、放射線科で約50件の増加となった。今後も、皆様に選ばれる病院を目指して地域医療に貢献できるよう努めたい。また、10月27日には病診連携セミナーを開催し、23施設の先生方のご参加をいただいた。消化器内科藤盛修成医師より「病診連携システムのご紹介」、麻酔科寺田宏達医師より「急性疼痛管理」と題してセミナーが開催された。

年々参加者が増え、年1回の貴重な情報交換の場として有意義なものとなっている。地域医療連携を円滑に進める上でも今後も続けていきたい。

スタッフ

室長	吉岡	浩
副室長	藤盛	修成
医事課課長補佐	浮嶋	優子
医事課	高橋	美幸

業務内容

- ・ 医療機関からの紹介患者の受け入れ
- ・ 医療機関からの検査予約の受け入れ（電話・FAX）
- ・ 紹介患者の経過報告
- ・ 医師異動や外来担当変更時、変更内容について医療機関へ連絡
- ・ 紹介元医療機関と病院側との諸連絡の取次ぎ
- ・ 紹介患者実績や検査利用状況などと統計資料を月1回作成
- ・ 病診連携だより「かじか」発行
- ・ 医療機関訪問
8月上旬と12月下旬の年2回、36医療機関訪問
（丹羽副院長、吉岡副院長、藤盛副院長、浮嶋課長補佐、高橋）
- ・ 病診連携セミナー・・・10月27日（会場：横手セントラルホテル）
セミナー・・・院外23人、院内51人 計74人参加
懇親会・・・院外20人、院内35人 計55人参加

平成21年度 市立横手病院紹介率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
①初診患者数	1595	1481	1401	1381	1674	1369	1673	1957	1533	1376	1341	1418	18199
②救急搬送数	59	67	49	54	66	56	63	58	53	58	62	61	706
③紹介患者数		140	160	220	168	163	142	130	128	132	138	175	1845
紹介率 (%)	13	14	14.9	19.8	14	16	12.3	9.6	11.8	13.8	14.9	16.6	14

紹介率 = (②+③) / ① × 100%

(①・・・時間外、休日、深夜受診の6歳未満の小児患者を除く)

平成21年度平均紹介率 = 14 %

平成21年度 病診連携室紹介内訳

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
診 察	156	176	190	227	192	163	176	150	155	161	169	230	2145
C T	26	24	31	43	32	33	14	41	17	23	25	23	332
M R I	38	27	27	55	32	44	37	29	31	31	33	43	427
M C V	3	3	4	5	2	3	4	5	2	8	2	3	44
E E G	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
トレッドミル	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ホルター心電図	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
U C G	1	0	1	1	1	1	2	1	1	1	1	0	11
計	224	231	253	332	259	244	233	226	206	224	230	299	2961

平成21年度 病診連携室紹介内訳 (診療科別)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内 科	19	13	13	18	12	9	14	13	18	8	15	13	165
消化器科	48	56	90	89	70	62	68	54	50	56	55	72	770
循環器科	8	11	10	10	10	9	11	10	13	6	11	15	124
呼吸器科	9	9	6	4	8	3	4	7	8	13	16	8	95
外 科	12	13	10	16	9	9	10	6	6	14	5	15	125
整形外科	19	26	29	31	33	21	26	15	19	36	25	35	315
婦人科	10	22	12	23	19	14	17	19	10	6	10	19	181
小児科	25	23	17	26	17	27	20	20	23	21	25	47	291
泌尿器科	9	6	5	10	9	8	8	8	5	7	7	7	89
眼 科	1	0	2	0	3	2	3	2	1	0	2	1	17
心療内科	0	1	1	4	1	1	1	0	0	0	0	0	9
麻酔科				3	4	2	0	2	4	3	1	1	20
放射線科	64	51	58	98	64	77	51	70	49	54	58	66	760
計	224	231	253	332	259	244	233	226	206	224	230	299	2961

平成 21 年度 病診連携室紹介内訳（地域別）

紹介件数

	診察	検査	計
横手市	1,590	792	2,382
湯沢市・雄勝郡	237	0	237
大仙市・仙北郡	100	23	123
県内	102	0	102
県外	116	1	117
計	2,145	816	2,961

依頼検査

	CT	MR I	MC V	EEG	UCG	ホルター心電図	計
横手市	330	405	44	1	11	1	792
湯沢市・雄勝郡	0	0	0	0	0	0	0
大仙市・仙北郡	1	22	0	0	0	0	23
県内	0	0	0	0	0	0	0
県外	1	0	0	0	0	0	1
計	332	427	44	1	11	1	816

<文責 高橋美幸>

委員会活動

リスクマネージャー委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的としている。リスクマネージャー委員会は、医療事故防止を図るための実質的な委員会として、ひやりはっと報告書の評価・分析を行い、具体的対策の検討・実施・評価を行う。

委員会の構成員

委員長	丹羽 誠			
委員	吉岡 浩	和泉千香子		
	佐藤セツ子	木村恵美子	赤川恵理子	田中 由江
	小野寺摂子	嶋田麻由子	鳶田 麗子	小松 則子
	高橋 正子	矢野多智子	小田島千津子	佐藤 昌悦
	小田嶋ゆう子	佐々木佳子		
	石田 良樹	法華堂 学	高橋 貞広	川越 弦
	平塚多喜雄	天羽 勝義	照井 圭子	吉田 綾子

委員会開催日

平成21年	4月14日	5月12日	6月9日	7月14日
	8月11日	9月8日	10月13日	11月10日
	12月8日			
平成22年	1月12日	2月9日	3月9日	

主な協議事項

- 1、健康管理センターの患者情報の連動
抗凝固剤の休薬期間の院内統一
- 2、輸血事故防止マニュアルの見直し
- 3、血液ガス分析検査時のバーコードリーダーの使用
- 4、特殊検査の注意喚起
- 5、血管外漏出に注意が必要な薬剤
- 6、血液型検査と輸血施行時の検査手順
- 7、人工呼吸器使用時の指示書兼チェックリスト

<文責 佐々木佳子>

医療事故防止委員会

概要

院内における医療の安全管理体制の確立を図り、適切かつ安全な医療の提供に資することを目的とする。

大な医療事故が発生した場合、情報の共有と当面の対応を協議して、病院ならびに患者側・病院職員両者へのダメージコントロールを迅速に行い、社会的損失を最小限に抑えるよう対策を講じる。また、医療事故の分析および再発防止の検討について行い、医療訴訟の対応・紛争解決への対応を行う。

構成員

委員長	診療科	丹羽 誠
	診療科	長山正四郎
	診療科	吉岡 浩
	診療科	藤盛 修成
	診療科	※ 主治医
	看護科	木村 カズ子
	事務局	佐藤 正弘
	医事課	高橋 幸一
	医療安全管理室	佐々木 佳子

委員会開催日

平成21年 11月17日 1月22日

主な協議内容

- 1、事故発生への対応に対する検証と原因の分析。
- 2、患者・家族への対応方針の検討と決定。
- 3、患者・家族への説明のための情報収集と情報の確認。

<文責 佐々木佳子>

院内感染予防対策委員会

I. はじめに

人類は20世紀以降、1918, 1957, 1968にインフルエンザの大流行を経験している。2009年4月、メキシコから41年ぶりに新型インフルエンザの発生が確認され、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」とした。この後も、急速に世界中に伝播し、5月16日に神戸で国内発の感染例が報告された。

6月12日に世界的大流行とされるフェーズ6が宣言された。国内では、H5N1を想定した嚴重な感染対策を継続したために感染対策に混乱を生じた。

インフルエンザワクチン接種、呼吸器衛生/咳エチケット・飛沫感染予防策の実施により、地域の感染者は減少し始め、横手地域でも2009年3月～4月に新たな発生は、みられなくなった。平成21年度は、新型インフルエンザ対策が中心となった1年であったが、病院増改築、機能評価 ver. 6受審と重なり、院内感染対策委員会の組織的活動が重要とされた1年であった。

II. 組織

1. 目的

市立横手病院における院内感染の積極的な防止、並びに病院から排出される医療廃棄物の適正処理に関して、必要な事項を調査審議するため、院内感染対策の最高決定機関として委員会を設置している。

市立横手病院 ICT が実践活動を担い、看護科の組織として市立横手病院リンクナース委員会が設置されている。

2. 院内感染対策委員会メンバー

・院内感染対策委員長

齋藤紀先 医師（呼吸器・アレルギー科科長）（ICD）

・院内感染対策委員会メンバー

長山正四郎、丹羽誠、船岡正人、和泉千賀子、齋藤紀先、小川和孝、佐藤正弘、伊藤建一、石田良樹、木村カズ子、佐藤セツ子、高本カズ子、照井洋子、下夕村優子、高橋共子、小田嶋恵美子、佐々木佳子、石橋由紀子、佐々木絹子、小川伸

3. 院内感染対策委員会開催実績と参加率

院内感染対策委員会の構成メンバーは20名、毎月末に定期開催され、平成21年度の開催実績は12回である。構成メンバーの年間平均参加率は92%であった。

III. マニュアル

平成21年度3月末の時点で以下のマニュアルが整備され、全部署の端末から院内グループウェアを使用しての閲覧を可能とした。これにより各部署でのマニュアルの差し替えがなくなり、リアルタイムでの改定が可能となった。マニュアルはすべてPDF形式とした。

1. マニュアルの種類

- ①標準予防策マニュアル
- ②感染経路別予防策マニュアル
- ③インフルエンザ感染対策マニュアル
- ④ノロウイルス感染対策マニュアル
- ⑤結核感染対策マニュアル
- ⑥疥癬感染対策マニュアル
- ⑦アウトブレイク対応マニュアル
- ⑧MRSA 感染対策マニュアル

- ⑨小児ウイルス感染対策マニュアル ⑩血液・体液曝露事故対応マニュアル ⑪血管内カテーテル感染予防マニュアル ⑫抗菌薬適正使用マニュアル
⑬検体採取マニュアル ⑭2009年アンチバイオグラム ⑮感染管理手順書（感染管理ベストプラクティス） ⑯洗浄・消毒・滅菌マニュアル

IV. 感染管理教育

院内の感染管理を充実させるため、教育活動を重点的に行った。研修会終了後は、すべてアンケートを行い、研修会に対する評価を行った。

No.	実施日	研修会名・内容	対象	参加人数
1	4/3	感染管理・職業感染について	新規採用者	13名
2	4/6	手指衛生研修会	総務課	13名
3	4/20	採血注射手技における感染防止技術	新人	3名
4	4/20	手指衛生研修会	医事課	22名
5	5/18.21	標準予防策と手指衛生	看護科	139名
6	5/29	インフルエンザと呼吸器衛生・咳エチケット	委託業者	18名
7	6/11から 全7回開催	標準予防策演習	看護科	164名
8	7/7	手術時手洗い研修	臨床研修医 1年目	4名
9	7/13.16	針刺し・切創事故による職業感染管理	看護科	139名
10	8/31.9/7	今さら聞けない院内感染対策の基本知識	全職員	225名
11	10/6	SSIサーベイランス結果報告会	消化器外科医師・ 3Bスタッフ・手術 室スタッフ	32名
12	10/30 11/2 11/10	インフルエンザとノロウイルスの感染防止技術	全職員	241名
13	11/27	血管内カテーテル関連感染の管理	褥瘡・感染リンク ナース、看護科リ スクマネージャー	37名
14	2/19	疥癬の感染防止技術	看護科	139名

V. サーベイランス

平成21年度から、サーベイランスを積極的に導入し、根拠ある感染対策の実践を目標に取り組んだ。厚生労働省院内感染サーベイランス事業（JANIS）に、消化器外科サーベイランスで参加を開始した。

秋田大学が中心となった開始した、地域モニタリングシステム（Akita-ReNICS）へも参加を表明し、地域の耐性菌管理の連携のため、準備を進めている段階である。

1. 実践しているサーベイランスの種類

- ①SSIサーベイランス（手術部位関連感染、消化器外科サーベイランス） ②BSIサーベイランス（中心静脈カテーテル関連血流感染サーベイランス） ③尿道留置カテーテル使用比サーベイランス ④手指衛生サーベイランス ⑤耐性菌サーベイランス ⑥針刺し・切創/体液・粘膜曝露事故サーベイランス ⑦インフルエンザサーベイランス

2. サーベイランスの一例

図1：市立横手病院インフルエンザ様疾患、年齢別外来受診者

期間：平成21年8月から平成22年3月 n=2047

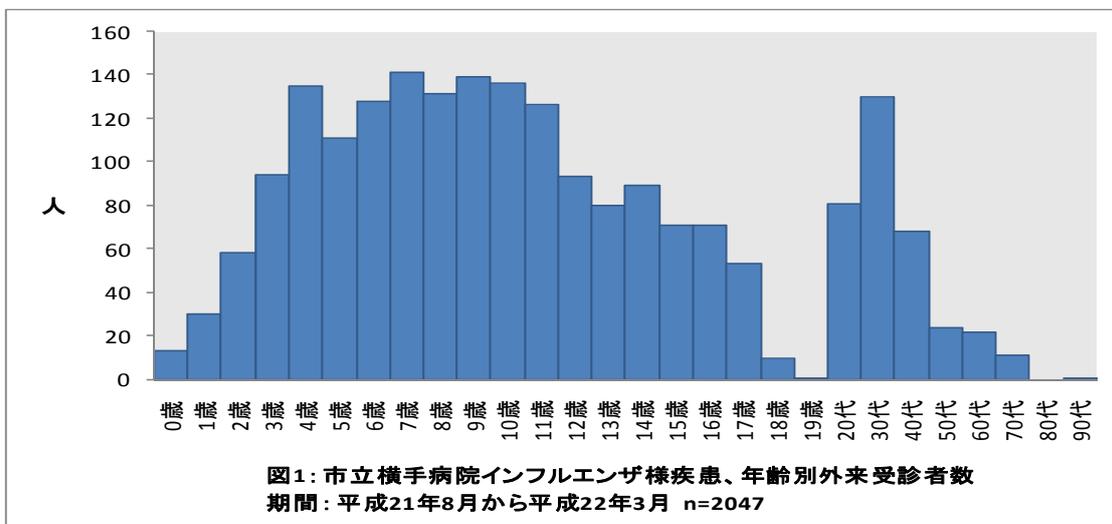
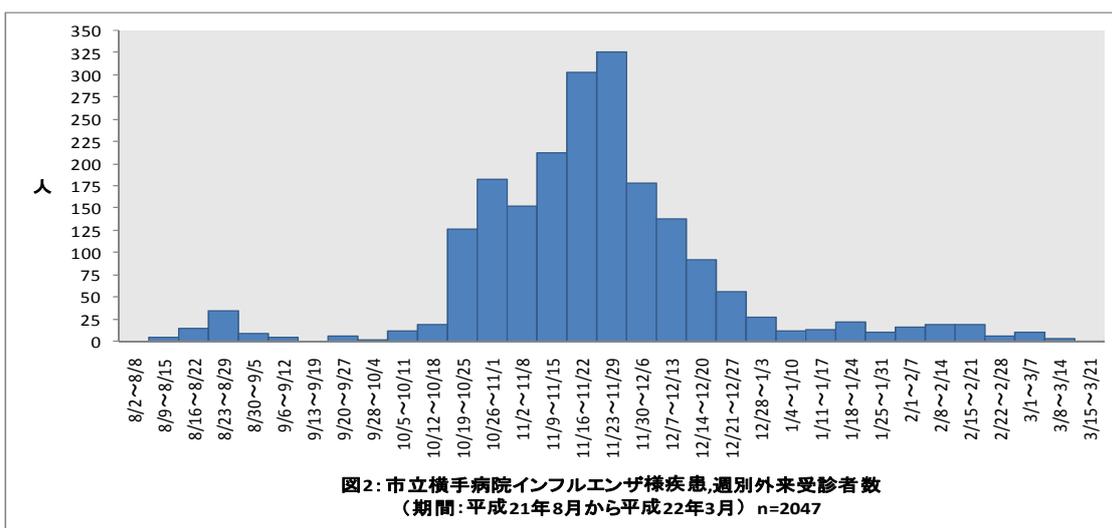


図2：市立横手病院インフルエンザ様疾患、週別外来受診者数

期間：平成21年8月から平成21年3月 n=2047



平成21年度シーズン、市立横手病院をインフルエンザ様疾患で受診した患者さんは、2047名に上った。0～5歳の受診者が全体の22%、6～12歳の受診者が全体の44%であった。平成21年度のインフルエンザ様疾患の特徴は、やはり若年層を中心とした感染であったと理解できる。

週別の受診者をみると、11月23日～11月29日の週、325名をピークに除々に下降している。毎年、面会患者から入院患者へのインフルエンザ持ち込み事例がみられるが、平成21年度シーズンは、0件であった。

VI. この他に

平成21年2月より、中心静脈カテーテル感染予防のため、カテーテル挿入時のマキシマルバリアプリケーションを導入した。

<文責 小川 伸>

倫理委員会

目的) 当院における臨床倫理に関する課題について検討し、臨床研究の実施について倫理的妥当性を審議する（なお、薬物治験については治験委員会が担当する）。

委員) 委員長 丹羽 誠（診療科副院長） 副委員長 藤盛修成（診療科副院長）
委員 小田嶋尚人（リハビリテーション科技師長） 渡邊圭子（薬剤科主任）
木村カズ子（看護科総看護師長） 佐藤正弘（事務局局長）
三橋由美子（外部委員：見識を有する者）

開催日) 第一回 平成21年10月15日
第二回 平成22年2月2日

主な事項)

- ① 今回の病院機能評価 Ver. 6 で求められている「臨床倫理に関する課題についての検討」を行う組織として、設置要綱を改めた。個々の倫理的課題、倫理的ジレンマについて、現場からの相談に乗る「医療倫理コンサルテーション」システムを設置した。
- ② 当院の臨床倫理の課題について、
 - ・ 研究結果・診療結果の発表について個人情報保護関連でのチェック体制ができていない。これについては指針を明確にすることで対処する。
 - ・ 輸血拒否について、すでに判例があり方向性は明らかであるが、個々の事例ではコンサルテーションをして頂く。
 - ・ 個々の臨床倫理上の問題は常にあり、医師一人で決めないこと、チームで対応することを、医局、看護科、全職員が共有するように繰り返し周知する。困難な場合、倫理委員会で検討・助言するコンサルテーションシステムを稼働させていく。
- ③ 臨床研究について
2題の臨床研究の申請があり、倫理規範に沿ったものとして承認した。

<文責 丹羽 誠>

栄養管理委員会

栄養管理委員会は、給食関係諸部との連絡を緊密にし、栄養管理業務の円滑な運営と給食の充実・改善・向上を図ることを目的としています。

協議事項

- ①栄養業務の運営に関する事項栄養業務の向上に関する事項
- ②各職域間の円滑な運営に関する事項
- ③施設・設備の改善に関する事項その他栄養サービスに関する事項委員会の構成員は以下に示したとおりであり、平成21年度の主な議題を示しました。

役 職	氏 名	役 職	氏 名
院 長	長山正四郎	薬剤師	小宅 英樹
副院長	船岡 正人	食養科技師長	原田 優子
食養科長	粕谷 孝光	主 任	川越 真美
事務局長	佐藤 正弘	主席調理技能士	天羽 勝義
医事課長	高橋 幸一	主任調理師	小松 信宏
総師長	木村カズ子	嘱託調理師	松井世津子
2病棟師長	高橋千鶴子		
3 A病棟師長	木村真貴子		
3 B病棟師長	木下 文子		
4病棟師長	藤井 洋子		

平成21年度委員会開催日および主な議題

平成21年 4月28日

- * 「平成21年度年間計画表」についての説明
- * 医師検食簿の記入の徹底について
- * 患者に「箸」を提供することについての協議

平成20年 7月28日

- * 「嗜好調査」等のアンケートの取り方について
- * 「食種別栄養価一覧表」がパソコン内で見られるようになった。

平成20年10月27日

- * 新たにシンクと保温食器が導入された。
- * 大規模災害時の備蓄品の確保についての「協定書」作成中医療監視の結果について

平成22年 1月26日

- * 「半固形化流動食」の採用について
- * 乾物倉庫の棚をスチール製に変えることについて

<文責 原田優子>

NST委員会

目的

個々の患者の栄養状態を評価し、最もふさわしい栄養管理を提言することで、個々の患者の治療、回復、退院及び社会復帰に寄与し、もって当院の医療の質の向上を目的とする。

構成員

Supervisor	長山正四郎			
Chairman	粕谷 孝光			
Director	船岡 正人			
Core Stuff	江畑公仁男	古関 佳人	木村カズ子	佐々木康子
	小田嶋千枝子	金子由美子	吉田紗希子	武田フミエ
	奥山かずえ	渡邊あかね	小棚木美香	櫻谷 麻美
	藤井 洋子	横井 道子	原田 優子	川越 真美
	小宅 英樹	佐々木美奈子	菊地 優	百合川深里

役割

1. 適切な栄養評価
2. 栄養管理法の提言
3. 栄養管理に伴う合併症の予防・早期発見・治療
4. 患者の早期退院・早期社会復帰に努める
5. 栄養管理法に関するコンサルテーション
6. 栄養管理法の啓蒙

活動内容

1. 全入院患者に対して栄養評価を行い個人ファイルとして保存する。この中から問題症例を抽出し、個々の症例に最適な栄養療法を立案・提言する。
2. 抽出した症例に対してNST Core Stuffによる症例検討会及び回診を行い、栄養管理の判定・評価を継続的に行う。
3. 検討会、栄養評価、回診の内容に関しては記録し、保存する。
4. 前記各号に掲げた活動は主治医、NSTメンバーからのコンサルテーションにより開始されることがある。更に、このコンサルテーションは24時間体制で行うものとする。
5. 栄養療法に関する情報の収集・提供、各種勉強会や研修会などの開催。
6. その他、栄養療法に関する事柄

委員会開催日時（ミーティング、NST回診）

毎週月曜日15：00から

勉強会

平成22年1月19日

『半固形化経腸栄養剤について』 主催 大塚製薬

<文責 百合川深里>

褥瘡対策委員会

本委員会は、院内の褥瘡対策を討議・検討し、その効率的な推進を図るため、平成14年度より設置された。院内における褥瘡予防体制確立のための活動や、褥瘡発生事例の対策に関する調査や審議を行っている。

【構成員氏名】

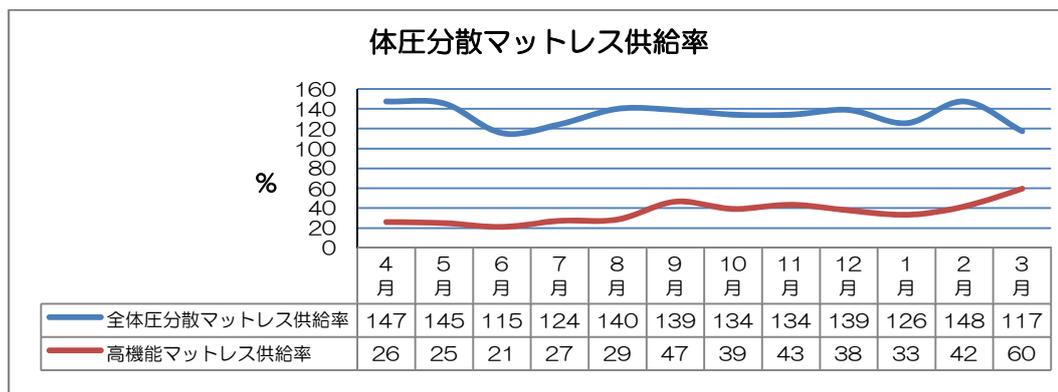
委員長	医師	吉岡 浩
副委員長	医師	船岡 正人
褥瘡管理者	皮膚・排泄ケア認定看護師	佐藤美夏子
委員	病棟師長	木下 文子
	病棟看護師	高橋 佳子、安藤 宏子
		地主 愛、煙山由紀子
	訪問看護師	佐藤 友紀
	手術室看護師	岩村 久子
	透析室看護師	佐々木智美
	薬剤師	渡邊 圭子
	管理栄養士	川越 真美
	臨床検査技師	工藤真希子
	理学療法士	高橋 茂実
	医事課	百合川深里
	総務課	阿部 光子
事務局	管材係	菅原 祐司

【主な活動内容】

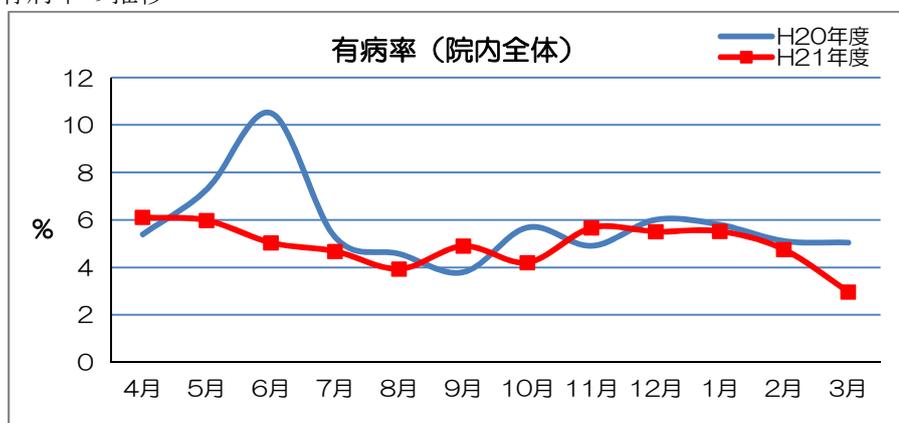
- 1) 褥瘡対策委員会開催
平成21年：4/8、5/13、6/8、7/11、8/5、9/2、10/7、11/4、12/2
平成22年：1/6、2/3、3/3
- 2) 褥瘡回診ならびにハイリスク患者カンファレンスの実施（1週間に1回）
- 3) 体圧分散寝具等の整備
- 4) 委員会だよりの発行（平成21年度は第7号から第18号を発行）
- 5) 学習会の実施
「新規採用者研修：褥瘡対策の概要について」担当：佐藤美夏子
「理学療法士から学ぶ体位変換技術 身体の使い方について」担当：高橋茂実

【動向】

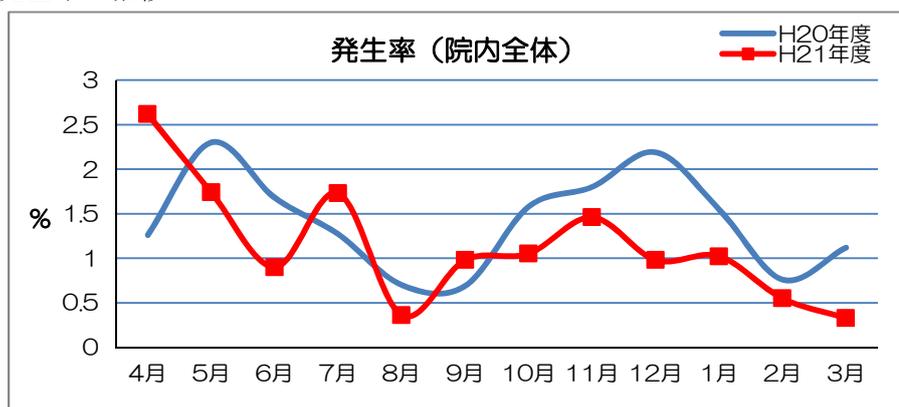
1) 体圧分散寝具の供給率



2) 褥瘡有病率の推移



3) 褥瘡発生率の推移



危険因子レベルに応じた使用や汎用タイプマットレスの利用により供給に問題はなかったが、高機能マットレスの供給率がまだ低値であるため、今後も質改善に取り組む予定である。平成20年度の発生率平均値は1.4%、平成21年度の発生率平均値は1.1%と減少傾向にあった。今後は発生率1.0%以下が維持されるよう、更なる取り組みをしていきたい。

＜文責 菅原祐司＞

緩和ケアチーム委員会

【設置目的及び経緯】

当院では平成8年からターミナルケア勉強会『虹の会』が有志により行われていたが、当院に
来られた患者・家族全ての方に当然のこととして高い水準の緩和ケアが提供できるようになるこ
とを目的として緩和ケア研究会が平成13年に設立された。さらに緩和ケアの保証について病院と
しての責任を明らかにするため平成14年10月に公的委員会として緩和ケア委員会が認められた。
その後名称を緩和ケアチーム委員会に変更し現在に至る。

【事業検討事項及び事業】

- 1) 症状緩和の方法論の勉強・実践・普及
- 2) 患者・家族のQOL向上のためのあらゆるアプローチ
上記のために①勉強会及びケースカンファレンス②緩和ケアチーム(PCT)回診③院内勉強会④
緩和ケアマニュアルの整備等を行う。

【21年度構成員】

委員長： 丹羽 誠

副委員長：高橋共子

委員： 石田芳樹・佐藤秀子・高橋康子・末次エリカ・菅原奈保子・池田弘恵・松本優子・
高橋歌澄・佐々木文子・原田優子・鈴木 努・石山博幸

事務局： 菊池 優

【委員会開催】

毎月第3火曜日に開催

【特記事項】

- ① 緩和ケア回診：毎週月曜日・・・全病棟オピオイド使用患者及び依頼患者対象
- ② 勉強会の開催：5月14日 せん妄 横手興生病院榊田理恵先生 参加者54名
7月16日 口腔ケア勉強会
- ③ 院外勉強会への参加：厚労省指針に基づく緩和ケア研修会への参加
3月19日 横手市医師会主催・在宅緩和ケア勉強会への参加
9月11日 県南緩和医療研究会への参加
秋田県緩和ケア実施研修への参加(外旭川病院ホスピス・仙北組合総合病院)
3月18日 市医師会主催：在宅緩和ケア医療研修会への参加
- ④ 緩和ケアコンサルテーション依頼の入力方法とルールの確立
- ⑤ 「つらさと支障の寒暖計」活用開始・検温表への入力方法のルールの確立
緩和ケアマニュアルの整備

<文責 高橋共子>

救急センター運営委員会

救急センター運営委員会は、当病院における救急センター運営を討議、検討し、その効率的な推進を図る事を目標に、設置された。(平成14年12月)

本委員会は、救急部門の体制の整備、救急部門の適切な運営の検討を行う。また、当病院の救急部門の地域における役割の明確化、院内救急時の対応マニュアル、救急患者統計についても検討を行っている。

救急センター運営委員

委員長	吉岡	浩	
副委員長	藤盛	修成	
委員	小松	明	工藤真希子
	法花堂	学	渡邊圭子
	木村真貴子		川越弦
	佐々木佳子		和賀美由紀
事務局	木村	宏樹	

本年度の活動状況

平成21年4月23日	機能評価について検討
平成21年6月12日	機能評価について検討
平成21年9月14日	機能評価について検討
平成21年10月20日	救急救命講習会に20名参加
平成21年11月13日	機能評価について検討
平成21年12月21日	機能評価について検討
平成22年1月19日	心肺停止症例について検討
平成22年1月25日	AED・BLS学習会に113名参加
平成22年2月10日	受け入れ不能事例について検討
平成22年2月18日	AED・BLS学習会に75名参加

<文責 木村宏樹>

手術室運営委員会

概 要

- * 手術室を円滑・安全に運営する為に業務内容を見直し改善方法を討議する。
- * 外科系医師・麻酔科医師・手術室スタッフのチーム医療を整える。

構成氏名

委 員 長	江畑公仁男	手術室室長 副院長 整形外科科長
委 員	寺田 宏達	麻酔科科長
	吉岡 浩	副院長 外科科長 ME室室長
	畑澤 淳一	産婦人科科長
	神埼 正俊	泌尿器科科長
	木村カズ子	総看護師長
事 務 局	高本 和子	手術室師長
	佐藤 昌悦	手術室主任
	川越 弦	ME室主任

委員会開催年月日及び検討事項

5月13日

- * 麻酔科医師より麻酔依頼のルールについて
- * 医療安全上 全身麻酔は2列を原則とする
- * 麻酔科依頼の症例は「術前・術後訪問」を全症例実施する
- * 抗凝固剤の休薬について

6月16日

- * 手術室A室BCR改修工事に関して図面で説明（施設：伊藤氏）
- * 医師側の要望 ① 前室～BCRの開閉扉のスイッチ（インターロック）
② 術野カメラの設置
- * 麻酔科医師より提言事項の検討
① 歩行入室
② 入退室時 手術室にベットを搬入し患者移動
③ フロートロンの適正使用

8月5日

- * 手術件数報告
- * 今後の手術スケジュール運営に関して検討
- * 麻酔科医師より提言
「基本方針：全身麻酔2列＋自科麻酔1例とし曜日毎に各科優先枠を割り当てる」
⇒ 将来的には望ましい形

- *長山院長・総師長より：手術室のスタッフ増員に関して
- *手術・麻酔業務について決定事項

9月30日

- *手術室BCRオリエンテーション
- *手術室A室（BCR）使用基準について
- *10月以降の手術予約入力に関して
- *丹羽副院長より：安全な手術・麻酔管理と効率の良いスケジュール管理の必要性について

11月28日

- * 病院機能評価受審に向けた業務改善の協力依頼
 - ① タイムアウトの導入
 - ② 体位確認・器械カウント
 - ③ SSI対策：手術3時間後の手袋交換と抗生剤追加投与
 - ④ 「安全確認項目」チェック用紙の導入
- * 「手術申し込みマニュアル」の確認

H22年1月15日

- *麻酔科医師より「全身麻酔の説明と同意書」導入
- *同意書の保管は手術同意書と同様にPC上の「取り込みファイル」

2月22日

- *病院機能評価受審に向けて確認事項

<文責 高本和子>

糖尿病委員会

委員会活動概要

委員会は急増する糖尿病への病院全体で取り組む啓蒙活動推進役として委員会運営委員会概要糖尿病教室、地域糖尿病対策ネットワーク作り等の活動をしている。

設立概要

昭和56年糖尿病専門外来（糖尿病クリニック）が内科に設置されたのをきっかけに同疾患に関しての重要性が認識され、平成10年当時の総婦長照井優子氏よびかけにより疾病予防対策の第一歩として糖尿病教室の定期的開催を目指し、同年11月に準備委員会を招集。平成12年度4月より、横手病院糖尿病委員会が発足した。発足時糖尿病外来へ日赤病院からの派遣医師、村田、後藤両医師が診察後に教室で講義された。現在は、平成19年度糖尿病専門医 下斗米医師以降の後任が得られず、平成20年からコメディカル層の委員会参加を厚くし、委員会運営者全員で教室運営にあたっている。

かまぐらの会

かまぐらの会は糖尿病患者会。現委員会を母体とする組織である。平成12年委員会が発足後、日本糖尿病協会秋田県支部（本部を日赤に置く）のバックアップで発足。

メンバーは当横手病院通院中の患者さまを中心に委員会スタッフが登録し、協賛で秋田県での糖尿病啓蒙活動に取り組んでいる。現在常任理事を2名登録し会の運営に参加している。

構成メンバー

委員長 長山院長
副委員長 照井 洋子 和賀美由紀
食養科 原田 優子 川越 真美
薬剤科 佐々木洋子
リハビリ科 小田嶋尚人
健康管理センター 保健師 鈴木久美子
看護科 小田嶋明子 高橋智美 熊澤あゆみ 町本典子 黒沢真知子
総務課 栗田公平

活動報告

委員会開催 月1回 本年度12回開催
糖尿病教室 月1回 本年度12回開催
講義担当者 薬剤師 健診センター保健師 管理栄養士 理学療法士糖尿病関係
サンプルアンケート調査 穿刺針サンプルに関して
糖尿病教室ホームページ更新
糖尿病週間行事 第1回 「ウォーキングで健康づくり」開催
参加者30名一般市民、当院スタッフ
病院周辺の史跡を散策しながらウォーキングを楽しむ。

講師：リハビリ科 小田嶋 尚人氏
史跡案内： 総務課 栗田 公平氏
日本糖尿病協会 秋田県支部 理事会派遣 6月 照井 和賀出席
みつわへの投稿 11月 照井
第3回 秋田県糖尿病看護ネットワーク（平鹿総合病院会議室）2/20
研修会参加 同理事 照井 洋子
十文字・高橋医院 糖尿病看護試行錯誤の会運営 理事 和賀美由紀

H22度事業予定

糖尿病教室 月2回 教室開催
糖尿病週間行事 第2回 「ウォーキングで健康づくり」開催
秋田県糖尿病看護ネットワーク参加

<文責 照井洋子>

輸血療法委員会

委員長（産婦人科）	畑澤 淳一
診療科(外科)	吉岡 浩
診療科（消化器内科）	船岡 正人
診療科（整形外科）	江畑公仁男
診療科（泌尿器科）	神崎 正俊
薬剤科	石田 良樹
臨床検査科	佐藤恵美子
臨床検査科	加賀谷美智子（H21.12より佐々木美奈子に交代）
看護科	木下 文子
看護科(手術室)	佐藤 鋼子
総務課	阿部 光子
医事課	百合川深里

輸血療法委員会設置の目的

当院における輸血関連業務の安全性の確保および適正使用のための輸血療法委員会が設置されている。

委員会開催状況

平成21年4月15日

平成20年度の血液製剤使用状況から今後アルブミン製剤の適正使用について検討を進めることを確認。同意書の漏れを防止するため電子カルテ上で警告を出すようにシステム改善を提案。今年度の目標として病院機能評価に向けてマニュアルの改訂を実施する事とした。

平成21年6月17日

当院の他の同意書文面との整合性を図るため、輸血関連同意書についても「拡大医療行為に関する同意」項目を追加する。

平成21年8月21日

オーダーリング画面上、血型の二重確認が済んだものと、1回しか検査していないものを識別可能とするよう変更。輸血後感染症マーカー検査実施のため、科別コメントの運用法等について検討。

平成21年10月21日

血液型判定ミスのインシデントレポートを受け対策を検討。①検査技師のトレーニング、②検査科において依頼された検査を確実に実施できる体制構築、について実施を決定。

平成21年12月14日

輸血関連勉強会（講師 秋田県赤十字血液センター 面川進先生） 参加者 77名

平成21年12月16日

畑沢委員長が輸血業務責任医師を任命。

輸血前後の感染症検査について具体的運用方法について再検討し、準備が整い次第実施する事とする。輸血管理料算定のためのアルブミン使用量抑制のために20%製剤への切り替えを検討。

平成21年度 診療科別血液製剤使用状況

診療科	製剤名	使用本数
外科	Ir-RCC-LR-1	44
	Ir-RCC-LR-2	150
	Ir-PC-10	3
	Ir-PC-15	0
	Ir-PC-20	1
	FFP-5	6
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	123
	自己血	11
産婦人科	Ir-RCC-LR-1	6
	Ir-RCC-LR-2	14
	Ir-PC-10	1
	Ir-PC-15	1
	Ir-PC-20	1
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	0
	FFP-LR-2	15
	自己血	49
整形外科	Ir-RCC-LR-1	16
	Ir-RCC-LR-2	51
	自己血	62
内科	Ir-RCC-LR-1	220
	Ir-RCC-LR-2	463
	Ir-PC-10	44
	Ir-PC-15	37
	Ir-PC-20	14
	FFP-5	0
	FFP-LR-1	2
	FFP-LR-2	122
泌尿器科	Ir-RCC-LR-1	10
	Ir-RCC-LR-2	54
	Ir-PC-10	0
	Ir-PC-20	0
	FFP-5	4
	FFP-LR-1	1
	FFP-LR-2	21
	自己血	26

< 文責 石田良樹 >

臨床検査適正化委員会

概要

当院において臨床検査を適正かつ円滑に遂行するための検討を行うことを目的とし、平成12年度に設けられた委員会である。年数回開催するものとし、検討事項は以下の通りである。

1. 精度管理に関すること
2. 検査項目に関すること
3. 検査の実施状況に関すること
4. 外部委託に関すること
5. 研究検査に関すること
6. その他臨床検査全般の運用に関する事項

構成員

- 委員長 長山正四郎（院長）
委員 船岡 正人（副院長）
藤盛 修成（副院長）
畑澤 淳一（検査科科长）
加藤 健（外科科長）
高橋 幸一（医事課長）
木村カズ子（総看護師長）
佐藤恵美子（検査技師長）
長瀬 智子（内部精度管理責任者）

委員会開催日及び検討事項

平成21年10月8日（木）

1. H21年度日臨技コントロールサーベイ結果報告
2. 外注・院内検査に変更の報告
 - ①院内→外注へ TTT LAP E3 HPL
 - ②外注→院内へ 尿中Alb
3. 新規導入を検討した項目
 - ①SAA：基礎データ検討済み。DPC下のオーダーが煩雑の意見あり、導入を見送ることに決定。情勢次第で再検討する。
 - ②ZN：10月以降に基礎データ検討実施予定
 - ③リパーゼ：消化器科より院内測定の要望あり。基礎データ検討予定。年間実績からは、コスト的に厳しい。
 - ④EGFR遺伝子：呼吸器科より依頼あり、院長了解の上外注業者と契約済み。本委員会へは事後承諾となる。
4. DPCに伴う検査科収支について
医事課より説明予定であったが、担当者体調不良のため欠席につき次回へ。

研修会：平成21年5月15日（金）

「診療報酬における検体検査の保険点数」についてSRLより講師を招き開催。

<文責 長瀬智子>

図書委員会

〔目的〕

図書室は病院の理念及び方針に基づき、運営・診療・教育及び研究活動に必要な環境を整備し、その運用によって医療の維持、向上を図ることを目的としている。

〔スタッフ〕

委員長 平野 弘子（診療科）平成15年 9月～
副委員長 谷口 明美（総務課）平成14年 9月～
書記 中田 千絵（総務課）平成19年 4月～
委員 島田万里子（医療情報管理室）平成19年 4月～
委員 阿部千鶴子（総務課）平成20年 1月～

〔図書室概要〕

面積・・・34.8㎡

座席数・・・4席

設備・機器・・・コピー・Fax機（1台）、コンピュータ2台（1台インターネットに接続、1台院内LANに接続）、プリンター1台

書架・・・移動式書架

閲覧時間・24時間閲覧可能

所蔵資料・書籍（約830冊）、製本雑誌（約1850冊）、CD-ROM（4枚）
・和雑誌（56誌）、洋雑誌（19誌）、学会誌（3誌）

配架・・・単行書（NLMC分類順）

・和雑誌（あいうえお順）・洋雑誌（アルファベット順）
・移動図書（大分類・中分類・小分類順）

サービス・文献データベース；医学中央雑誌Web版

・相互貸借依頼先；秋田大学附属図書館医学部分館・上尾中央総合病院図書室
国立国会図書館・日本医師会（個人申込み）
・個人医学図書の購入・支払い・製本と取次ぎ

〔活動〕

・委員会開催日・・・4/28・6/29・10/23・12/21・3/23の5回

・図書購入予算の確定と管理

年度始めに各科に予算配分をし、各科月毎に購入収支簿を作成後、院内LANで月1回全職員に伝達。12月より伝達方法を院内メールに変更。

・購入図書の受入れと配架作業・・・月毎の受入れ図書のリスト作成と所定位置への配架。
院内LANで月1回新着図書の情報提供。12月より伝達方法を院内メールに変更。

・製本作業

・蔵書点検作業

[統計]

- ・図書室に常勤担当者不在のため図書貸出し数、利用者数は明確に出せない。
- ・相互貸借依頼数（文献複写依頼数）

秋田大学附属図書館医学部分館 40件

上尾中央総合病院図書室 4件 国立国会図書館 1件

日本医師会図書館 14件

<医中誌アクセス回数・ログイン回数・検索回数>

年 度	アクセス回数	ログイン回数	検索回数
平成17年	1271回	199回	
平成18年	3069回	186回	
平成19年	3778回	245回	625回
平成20年	4414回	271回	858回
平成21年	7628回	480回	1492回

患者図書サービス（巡回型）

[目的]

入院患者さん及び付添いの方々の不安やストレスを少しでも癒していただき、闘病生活の支えや回復への意欲につながることを目的としている。

[概要] 所蔵図書（約1140冊）、備品・・・ブックトラック、固定書架（図書室内）

[活動]

各病棟を委員2名で1台のブックトラックに約200冊の本を積み、第2、4水曜日13:30～15:00の間全病棟を巡回している。昨年度から各病棟ディルームに蔵書一覧ファイルを設置し、今年度からはFaxでの貸出しサービスも始めた。医療現場でのインフォームドコンセントの重要性が増す中、娯楽書主体の貸出しサービスから図書を通しての「医療情報の提供」を視野におき、患者さんの要望にこたえていきたい。

[統計]

<移動図書貸出し数>（平成21年4月～平成22年3月）

	移動図書貸出数	Fax貸出数	移動図書利用者数	Fax利用者数
2病棟	49冊	132冊	21人	39人
3A病棟	67冊	66冊	27人	21人
3B病棟	82冊	75冊	37人	23人
4病棟	24冊	90冊	16人	27人
計	222冊	363冊	101人	110人

総貸出数585冊、総利用者数211人、月平均貸出数48.75冊、月平均利用者数17.6人

<文責 谷口明美>

臨床研修管理委員会

概要

医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修を当院と協力病院及び協力施設で実施するために設置された委員会である。

当院の研修プログラムは内科系重視のAコース、外科系重視のBコースがあり、それぞれ募集定員2名となっている。研修プログラムの中の精神科研修では、横手興生病院・市立角館総合病院、地域保健・医療研修では、横手保健所、市立大森病院に協力をいただいている。また、本荘第一病院・秋田大学医学部附属病院、市立角館総合病院の研修プログラムの協力型臨床研修病院となっている。

構成員氏名

委員長	吉岡 浩（研修実施責任者）
委員	船岡正人（Aコースプログラム責任者）、藤盛修成、小松 明、畑澤淳一、根本敏史、和泉千香子、塩屋 斉、奥山 厚、齋藤紀先、武内郷子、粕谷孝光、加藤 健（Bコースプログラム責任者）、小田嶋傑、滝澤 淳、佐藤正弘、永井伸彦（横手保健所長）、杉田多喜男（横手興生病院長）、西成 忍（西成医院長、横手市医師会長）、小野 剛（市立大森病院長）、佐々木道基（市立角館総合病院精神科長）
オブザーバー	長山正四郎、丹羽 誠
事務局	佐藤 潤

委員会開催年月日及び案件

○管理委員会

平成21年6月15日

案件 基本研修プログラムの研修スケジュール変更について

平成22年3月2日

案件 平成22年度採用予定研修医について

平成22年度研修日程について

平成22年度臨床研修病院合同説明会日程について

平成21年度修了予定研修医の評価・認定について

平成22年度研修プログラムについて

○評価・プログラム委員会

平成21年5月20日

案件 省令の一部改正による変更点の確認について

変更に伴う研修プログラムの素案の作成について

平成21年6月4日

案件 臨床研修医2年次生の研修進捗状況について

平成22年度研修プログラムのスケジュールについて

平成21年9月28日

案件 平成21年度研修プログラムのスケジュール確認について

平成22年度採用臨床研修医マッチング登録順位について

平成21年11月5日

案件 臨床研修医2年次生の研修進捗状況について

平成22年度後期研修について

臨床研修協力施設の追加について

平成22年2月16日

案件 臨床研修医2年次生の研修評価について

平成22年度研修プログラムのスケジュールについて

○研修医会議（指導医と研修医との意見交換等）

平成21年4月2日、5月7日、6月4日、7月2日、8月6日、

9月10日、10月1日、11月5日、12月3日、

平成22年1月7日、2月4日、3月4日

○平成21年度 臨床研修医

2年次 Aコース 寺田考太 Bコース 本郷麻依子

1年次 Aコース 佐伯博範、高木遥子 Bコース 佐々木研、荻原真実

本荘第一病院からの研修医

松下美紗子、卞 榮満、渡辺 駿、木ノ原周平

秋田大学医学部附属病院からの研修医

千葉 充、衛藤 武、酒井利隆、木藤正彦

○マッチング日程

平成21年7月2日 参加登録開始

8月27日 参加登録締切

9月24日 希望順位登録受付開始

10月8日 希望順位登録中間公表前締切

10月9日 中間公表

10月22日 希望順位登録最終締切

10月29日 組み合わせ結果発表

○平成22年度採用臨床研修医

Aコース 定員2名 本郷修平（秋田大学）、斎藤大成（大分大学）

Bコース 定員2名 採用なし

○病院説明会参加状況

平成21年5月29日 秋田大学医学部合同説明会（秋田市 県協議会主催）

7月19日 民間主催の合同説明会（東京都 県協議会企画）

平成22年2月10日 秋田大学医学部合同説明会（秋田市 県協議会主催）

3月21日 東北ブロック合同説明会（仙台市 東北厚生局主催）

<文責 佐藤 潤>

治験委員会

構成員氏名

委員長 吉岡 浩
委員 船岡 正人
佐藤 政弘
石田 良樹
外部委員 三橋由美子
事務局 渡邊 圭子

本委員会は当院で実施される臨床試験について、その目的および手順ならびに倫理の面から当該臨床試験を実施することの妥当性を検討するために設置されている。新GCP基準における条件を満たすために外部委員1名を加えている。

委員会開催日及び検討事項

平成21年5月13日

- 案件1. 『ドキシル注20mg長期使用に関する特定使用成績調査（全例）』
- 案件2. 『アービタックス注射液100mgの未知の副作用、使用実態下での副作用の発生又は有効性に影響を与える要因を把握することを目的とする全症例対象調査』
- 案件3. 『アマーヂ錠2.5mg 使用成績調査』
- 案件4. 『イオメロン使用成績調査 ―肝臓ダイナミックCT造影時における安全性及び有効性に関する調査―』
- 案件5. 『イムシスト膀胱注用81mg 筋層非浸潤性膀胱癌に対するBCG（Connaught株）膀胱注入法 ―副作用としての抗菌剤投与の無作為比較試験―』

以上案件1. から4. までは承認されたが5. は承認されなかった。

〈文責 渡邊圭子〉

診療材料検討委員会

本委員会は診療材料に関する適正な購入・管理・業務の円滑な運営を図ることを目的として設置されました。診療材料の新規採用についての検討のみならず、院内で使用されている診療材料の合理化・効率化に向けた取り組みや、診療材料の統一化に向けた取り組みについても協議を行います。

新規に診療材料を使用する場合は必ずこの委員会で承認を受けることになっており、原則としてそれ以外の診療材料は使用することはできません。また、承認を受けていない材料を特定の患者に使用する場合には「診療材料限定使用申請書」を提出させ、委員長より使用の可否を判断することとしています。

構成員氏名

委員長	医師	粕谷 孝光		
	医師	根本 敏史		
	医師	畑澤 淳一		
	看護科総師長	木村カズ子		
	2 F病棟主任	照井 洋子	3 A病棟主任	高橋 共子
	3 B病棟主任	下夕村優子	4 F病棟主任	小田嶋恵美子
	4 F病棟主任	高橋 佳子		
	手術室主任	佐藤 昌悦	透析室主任	和泉奈保子
	外来主任	和賀美由紀	ME室主任	川越 弦
事務局	総務課長補佐	阿部 光子	管財係	菅原 祐司

委員会開催年月日及び主な検討事項

- H21年4月22日 医療用粘着テープ、絆創膏、創傷被覆材について検討。
- H21年6月10日 プラスチックグローブ他について検討。
- H21年8月7日 インサイト留置針、採血用プラスチックグローブについて検討。
- H21年11月13日 閉鎖式輸液セットについて検討。
- H21年12月16日 採尿バッグについて検討。

診療材料限定使用申請書

- H21年6月25日 ワンタッチウルトラソフトランセット、LFSクイックセンサー。
- H21年11月18日 カラヤヘッシブクリアー。

以上

<文責 菅原祐司>

病床運営委員会

概要

市立横手病院の病床運営・管理に関して問題点・対策を協議・検討し、全病院的な効率確保を目的に平成14年10月病床運営委員会が発足。

構成員氏名

委員長 長山正四郎
副委員長 吉岡 浩・藤盛 修成
委員 木村カズ子・佐藤セツ子・高橋千鶴子・木村真貴子
木下 文子・藤井 洋子・
事務局 佐藤 正弘・浮嶋 優子・石山 博幸

検討事項及び決定事項

- ① 病床の効率的な活用について
 - ・空床を減らす為の対応を検討（救急搬送の患者の入院割合が低いことから、一時的な入院対応も含め、医局で検討頂くことに。クリパスの見直しも考慮へ。）
 - ・満床時のベッド確保について。
- ② DPC導入に伴う運用状況の検討。
- ③ 既存棟改築工事中の病床利用について。
- ④ 増改築後の新病棟編成について。
- ⑤ その他、問題点の検討。

<文責 石山博幸>

医療情報管理委員会

【概要】

平成19年度の電子カルテシステム導入時に以前の情報管理委員会の再編を行い、院内医療情報システム全般に関する運用及び導入方針等について協議することとした。

電子カルテシステムに特化した問題については、「電子カルテ委員会」において協議されている。

【構成員】

委員長 藤盛 修成（副院長・医療情報管理室室長）

委員 小松 明（小児科科長）

木村カズ子（総看護師長）

佐藤セツ子（副総看護師長）

藤原 理吉（放射線科技師長）

佐藤恵美子（臨床検査科技師長）

佐藤 正弘（事務局長）

浮嶋 優子（医療情報管理室室長補佐）

木村 宏樹（医療情報管理室）

柿崎 正行（医療情報管理室）

【委員会開催日及び検討事項】

平成22年3月5日（金）

日本医療機能評価機構のVer. 6.0受審に向けて、情報部門で必要とされている「情報システムの活用方針が確立しており、計画的に対応が図られている」という項目に対応するため、医療情報管理室において策定した「市立横手病院医療情報システム運用計画」について、その内容について協議した。

<文責 柿崎正行>

電子カルテ委員会

(目的)

この規程は、電子カルテ及び診療情報の適切な管理について討議・検討し、診療の質の向上を図ることを目的とする。

(業務)

1. 委員会は次の各号における事項について審議する。
 - ・電子カルテ内の情報の真正性、見読性、保存性の確認に関すること。
 - ・オーダーリングシステムの内容の検討に関すること。
 - ・紙カルテ、フィルム、検査データの保存に関すること。
 - ・その他カルテについての重要事項に関すること。
2. 委員会は前項の審議結果を速やかに院長へ報告するものとする。

構成員氏名

委員長	藤盛 修成			
副委員長	加藤 健			
委員	和泉千香子	佐藤セツ子	藤井 洋子	照井 洋子
	赤川恵理子	高橋 共子	稲川 雅美	木村恵美子
	下夕村優子	小田嶋恵美子	草薙美保子	佐々木佳子
	小宅 英樹	渡辺 瑞穂	浮嶋 優子	柿崎 正行
	照井 圭子			

活動報告（検討内容）

平成21年4月17日

- ・看護入力画面表示について
- ・検温表の見方について
- ・NST入力画面について

平成21年9月25日

- ・CT・MRI検査予約票の変更について
- ・後期高齢者退院調整について
- ・検査オーダーの中止・変更について 他

平成21年12月9日

- ・持参薬について
- ・入院治療計画について
- ・看護計画について 他

平成22年2月15日

- ・電子カルテ入力について
- ・中心静脈カテーテル同意書について

<文責 木村宏樹>

D P C委員会

今年度よりD P C対象病院となり、厚労省へのデータ提出、来年度の機能評価係数の対策、データ分析を中心に活動を行った。

データ分析の結果を踏まえ、先発品からジェネリック薬品への移行、セット検査の見直し、各診療科との症例検討などを行い、次年度への対策を検討した。

今後も、他院とのベンチマークや更に詳細なデータ分析が必要になってくると思われるので委員会で取り組んでいきたい。

構成員

委員長	畑澤 淳一				
副委員長	藤盛 修成				
〃	加藤 健				
委員	塩屋 斉	佐藤セツ子	藤井 洋子	佐藤恵美子	
	小宅 英樹	郡山 邦夫	浮嶋 優子	柿崎 正行	
	照井 圭子	渡辺 瑞穂	長山正四郎		

活動報告

平成21年4月9日

- ・D P C請求運用について
- ・薬剤（後発品）の検討状況について
- ・D P C分析ソフト導入について

平成21年5月27日

- ・D P C分析ソフト業者プレゼンテーション及び選定委員会

平成21年10月29日

- ・D P C上半期集計について
- ・D P Cの今後の対応について
- ・D P Cにおいて今後検討すべき課題について
- ・新たな機能評価係数について
- ・コーディングについて

平成22年1月14日

- ・D P C分析ソフトについて

<文責 木村宏樹>

クリニカルパス委員会

構成員

委員長	藤盛 修成									
委員	畑澤 淳一	加藤 健	江畑久仁男	小松 明	塩屋 斉	奥山 厚	小田嶋 傑	斎藤 紀先	和泉千香子	神崎 正俊
	藤井 洋子	熊谷 剛	郡山 邦夫	小宅 英樹	赤川恵理子	高橋亜由美	佐藤加代子	泉谷真里子	下夕村優子	渡邊あかね
	菊谷ゆかり	今野谷沙織	永須 直美	藤沢 親子	加藤真由美	原田 優子	浮嶋 優子			

概要

平成21年度退院患者パス適用率

診療科	パス適用件数 (件)	退院患者数 (人)	パス適用率 (%)
内科	0	55	0
外科	384	797	48.2
整形外科	0	295	0
産婦人科	323	523	61.8
小児科	0	518	0
泌尿器科	67	240	27.9
アレルギー・呼吸器内科	4	286	1.4
消化器内科	538	1529	35.2
循環器内科	25	170	14.7
計	1341	4420	30.3

＜文責 浮嶋優子＞

業務改善委員会

構成員氏名

委員長	藤盛 修成			
委員	加藤 健	石田 良樹	藤原 理吉	小田嶋尚人
	木村カズ子	照井 洋子	高本 和子	佐藤恵美子
	原田 優子	佐々木佳子	佐藤 正弘	高橋 幸一
	浮嶋 優子			

概要

検討事項及び決定事項

今年度は病院機能評価受審に向け、機能評価準備委員と業務改善委員会との合同による院内ラウンドを行った。主に掲示物・整理整頓・廃棄物・感染予防・患者のプライバシー・薬剤の管理・マニュアル、ファイルの管理・清掃、臭気などのハード面のチェックを行い、指摘のあった事項については各部署へ指示し改善を行った。

また、前回の機能評価受審後の継続的取組みについての確認と、審査後新たに取り組んだ事例に関する報告、更に今後の活動として、患者様の意見について病院全体で検討を要する事例について取り組むこととした。

<文責 浮嶋優子>

地域交流推進委員会

平成21年度より、地域住民の健康に関する意識向上と良質な医療を地域住民に提供し、当院に対する理解向上を目的とした地域交流委員会を設立した。

対象は地域の公民館、いきいきサロン等で、主催者より講演依頼があった場合当院の職員が地域に出向き、健康や病気の治療・予防に関する内容の講演を行うものである。

始めに各部署から出された公演内容を整備し、地域住民の方たちが理解しやすい内容の講演メニューを作成。また、講演を行うに当たり、名称を「市立横手病院出前講座」とし、公民館・社会福祉協議会等を対象に公演内容を周知、講演の受入れと調整を行った。

以下は今年度の講演状況である。

構成員

委員長	吉岡 浩				
委員	船岡 正人	木村カズ子	石田 良樹	原田 優子	小田嶋尚人
	高橋 功	佐藤 正弘	浮嶋 優子		

講演状況

講師	いきいきサロン		公民館関係	
	開催回数	参加人数	開催回数	参加人数
医師			2回	73名
看護師	5回	84名		
薬剤師	4回	72名	4回	120名
理学療法士 作業療法士	5回	78名		
管理栄養士	4回	68名		

<文責 浮嶋優子>

病院機能評価準備委員会

【概要】

平成7年、当院は全国にも先駆けて病院機能評価のトライアルを受審。平成14年5月に正式な認定を目指し委員会を組織し、平成16年3月にver. 4.0を受審。平成17年2月、改善すべき事項の指摘を受け再受審し、その5月にver. 4.0認定。

平成22年の認定期限までに更新審査を受けることを決定し、平成20年12月よりver. 6.0認定更新に向けて準備を開始した。平成22年3月ver. 6.0受審。

医療の質の維持・改善を図ることを目的とし、更なる病院の発展を目指し取り組んでいる。

【構成員】

委員長	診療科（副院長）	丹羽 誠
副委員長	診療科（副院長）	藤盛 修成
委員	薬剤科（科長）	石田 良樹
	診療放射線科（技師長）	藤原 理吉
	医療安全管理室（主任）	佐々木佳子
	事務局（事務局長）	佐藤 正弘
	総務課（課長）	栗田 公平
	総務課（課長補佐）	阿部 光子
	医事課（課長補佐）	浮嶋 優子
書記	総務課企画係兼医療安全管理室	阿部千鶴子

【活動】

- 今年度の委員会開催 16回
- 病院機能評価受審スケジュール作成
- 評価項目別責任者、担当者の決定
- 自己評価の点検
- 各種書類の整備状況の確認
- 院内巡回点検の実施、改善点の提案
- 全職員向け説明会の開催
- その他病院機能評価受審に必要な事項
- 病院機能評価受審訪問受審支援における改善指摘事項の取りまとめ
- 病院機能評価受審について職員対象アンケート調査の実施

病院機能評価Ver. 6.0では、認定期間中の質の維持・改善を図る必要が指摘されているところから、それに向けた努力を評価する項目が導入された。また、病院の臨床研修機能に関する評価項目が追加され、その他、地球環境への配慮、チーム医療の推進と診療の質向上、情報システム管理機能、子育て支援など離職防止・復職支援策の評価、院内暴力についての組織的対応などの新たな視点からの評価項目が導入された。

病院機能評価受審後の職員のアンケート結果から、受審したことにより業務改善が行われるなど職員の意識向上が図られ、当院にとっては良い機会となった。

<文責 阿部千鶴子>

薬事委員会

◆概要

薬事委員会は院内の薬剤に関する適正な管理、薬剤業務の改善向上、安全性の確保並びに薬事業務の効率的な運営を図ることを目的とし下記内容等を検討している。

- ① 院内の薬品管理に関する事項の審議（新規採用医薬品・限定採用医薬品の審議、採用後の使用状況の確認、医薬品の適正使用、その他）
- ② 医療安全や経営面の観点から定期的に採用医薬品を見直す（同種同効品目の比較検討、削減）
- ③ 委員からの提案された事項についての審議
- ④ 副作用事例の収集・報告・伝達・対策

◆構成員

	委員	氏名
委員長	副院長	吉岡 浩
副委員長	副院長	藤盛 修成
	副院長	丹羽 誠
	副院長	船岡 正人
	副院長	江畑 公仁男
	診療部長	畑澤 淳一
	診療部長	小松 明
	産婦人科科長	滝沢 淳
	循環器科科長	根本 敏史
	循環器科科長	和泉 千香子
	消化器科科長	奥山 厚
	消化器科科長	小田嶋 傑
	泌尿器科	神崎 正俊
	放射線科科長	平野 弘子
	外科科長	加藤 健
	外科科長	粕谷 孝光
	呼吸器科・アレルギー科科長	齋藤 紀先
	内科科長	塩屋 斉
	消化器科科長	武内 郷子
	放射線科科長	泉 純一
	麻酔科科長	寺田 宏達
	整形外科科長	富岡 立
	薬剤科長	石田 良樹
	看護科主任	小田嶋 恵美子
	医事課長補佐	浮島 優子
	総務課長補佐	阿部 光子

※外科/若林委員（10/1～委員へ）、産婦人科/滝澤委員（12月に転勤される）

◆委員会開催日及び検討事項

	開催日	検討事項
第1回	5月20日	※ガストロピロール販売中止に対する対応の検討 ※同種同効品の見直し(Ca拮抗薬) ※夜間救急カート用約束処方の一部変更について ※医薬品の破損状況についての報告(H20年度分) ※後発品導入の進行状況の報告(25品目採用)
第2回	7月15日	※後発品導入の進行状況の報告(10品目採用) ※1年間購入実績のない医薬品の見直し(11品目中止) ※化学療法のレジメン管理(管理委員会を新たに設置する)
第3回	9月16日	※ジスロマックSR成人用採用後の夜間カート内配置の必要性和1増1減について ※同種同効品の見直し(抗アレルギー薬) ※マイリス静注用、同・腔坐剤販売中止に対する対応の検討 ※院内医薬品副作用報告・実施要綱の改定について ※後発品導入の進行状況の報告(1品目)
第4回	11月18日	※後発品導入の進行状況の報告(6品目) ※エスベリベン錠販売中止に対する対応の検討 ※病院機能評価に向けて(採用品目数の整理・削減)
第5回	1月20日	※採用品目削減の医局アンケート結果について(17品目中止) ※同種同効品の見直し(胃粘膜防御因子増強薬) ※フスタギン末販売中止に対する対応の検討 ※同種同効品の見直し(カルバペネム系薬①) ※オーダリングの薬剤入力について (製品容量単位での入力について未対応の品目を改善へ)
第6回	3月17日	※同種同効品の見直し(経口血糖降下薬) ※同種同効品の見直し(ベンゾジアゼピン系薬) ※同種同効品の見直し(三環系・四環系抗うつ剤) ※同種同効品の見直し(カルバペネム系薬②) ※来年度の診療報酬改定に伴う後発医薬品関連事項の検討 ※レセプト査定傾向の伝達について (今後は当委員会にて定期的に情報提供する事にする)

新規採用薬の情報・使用中止薬・委員会の決定事項については薬局報にて院内に情報提供を行った。院内の副作用事例については、委員会開催毎に症例を集計し院内の発生状況を報告・検討した。不動態在庫薬品や有効期限の近い薬品については、使用促進のため院内報で定期的にお知らせした。

◆平成21年度採用品目の動向

新規採用医薬品	19品目
限定→新規採用	5品目
限定採用医薬品	60品目（延べ数）
使用中止医薬品	72品目
ジェネリック医薬品への切替 （より安価な製品への切替も含む）	44品目

◆まとめ

当院も今年度からDPC対象病院となりました。医療の質を落とすことなく、医療費を削減する事が目的でもあり、病院経営上は包括される経費をいかに下げるかが重要となります。

医薬品についても包括対象となる割合が高い品目を考慮し、主に注射薬からジェネリック医薬品への切り替えを開始しました。近年は医療過誤防止への工夫・服用性の改善など先発品にはない付加価値を持ち、より利便性の向上したジェネリック医薬品も多くなってきました。医薬品としての品質の評価、経済的効果、安全面での評価を行うとともに、切り替え時には混乱を招かぬよう、誤投薬防止対策も含め、今後も院内の皆様への十分な情報伝達を行っていきたいと思います。

新薬が次々と発売される中、患者様の治療を優先させる必要もあり、限定採用医薬品が年々多くなっている傾向があります。安全管理、薬剤費の効率化、医薬品の適正使用などの面からも病院規模に見合った適正な採用品目数が求められます。今後は医薬品の採用方式についても少しずつ見直していく必要があるかもしれません。

〈文責 佐々木洋子〉

衛生委員会

【概要】

病院事業職員の健康保持及び増進を図るため、また安全衛生管理を推進するために、平成13年度から設置されている。

【構成員】

委員長	丹羽 誠
副委員長	藤原 理吉（診療放射線科）
委員	長山正四郎（産業医） 佐藤 正弘（事務局） 木村カズ子（看護科）
	高橋 功（健康管理センター）
委員（労働組合推薦）	
	小田島千津子（看護科） 高橋 洋（リハビリテーション科）
	高橋 礼子（看護科） 末次エリカ（看護科）
	鈴木 務（リハビリテーション科）
書記	菊池 優（総務課）

【開催日時】 毎月最終木曜17：00～17：30

【検討事項等】

- 4/30 職員健診及び職員採用時健診の実施について検討。
- 5/28 市職員健診の申込状況について報告。産休または育休中の職員の健診については、休暇中は実施せず復職後とする。メンタルヘルスチェックの実施及び新型インフルエンザへの対応を検討。
- 6/25 メンタルヘルスチェック及び職員健診の実施状況について報告。電離放射線健診及び敷地内禁煙の徹底について検討。
- 7/30 放射線業務従事者の被曝線量について報告。職員の喫煙状況把握のためアンケートを実施及び禁煙をテーマにした研修会の開催を検討。メンタルヘルスチェック、電離放射線健診、職員健診の実施状況について報告。
- 8/27 職員健診の結果について報告。メンタルヘルスチェックの活用方法等について検討。
- 9/24 喫煙に関するアンケートについて検討。結核疑い患者及び接触職員の報告とフォローについて検討。
- 10/29 喫煙に関するアンケート結果の報告。職員がインフルエンザに罹患した時の対応について検討。夜間業務従事者の健診実施について検討。
- 11/26 夜間業務従事者の健診対象は、過去2カ月で夜勤のあった職員とする。職員健診の二次検診について報告。電離放射線健診の2回目及びメンタルヘルスの結果把握等について検討。
- 12/24 職員健診の二次検診及び夜間業務従事者健診の実施状況について報告。結核患者発生の報告と接触職員のフォローについて検討。
- 1/28 放射線業務従事者の被曝線量について報告。流行性疾患抗体価検査の実施について検討。
- 2/25 職員採用時健診の検査項目及び新年度の委員会構成について検討。
- 3/25 ルクセルバッチ仕様及び名称変更の報告。職員採用時健診の検査項目について検討。結核患者へ接触した職員の検査結果の報告。

<文責 菊池 優>

患者サービス向上委員会

目的 : 選ばれる病院になるために職員一人一人が接遇マナーを身につけることができる。

目標 : ①接遇意識を高めることができる

②患者の満足を得るために全職員の対応サービスの向上が図れる。

検討内容 : ①接遇研修会の開催

②患者満足度調査の実施と評価 (外来・入院)

構成員 : 委員長 木村カズ子

委員 長山正四郎 丹羽誠 佐藤セツ子 細谷謙 照井圭子 佐藤正弘

委員会開催日

平成21年12月9日

① 外来患者様アンケートの実施について

② 退院患者様アンケート調査のコメント内容について

平成22年1月26日

① 外来患者様アンケート調査集計結果について検討

② 1月の業務連絡会議で職員に報告する

③ 患者様アンケート調査集計結果をファイルに閉じて各フロアにおく。

病院ホームページ、広報に掲載予定

○接遇研修 (全職員対象)

日時 : 平成21年12月7日 17:30~18:30

場所 : 4階会議室

講師 : 医療経営研究所 伝え方コンサルタント 佐藤健太氏

テーマ : 「コミュニケーション力向上講座」

ーより素敵な市立横手病院を目指してー 参加者 196名

<評価と今後の課題>

接遇研修からコミュニケーションの本質を学び、来院される患者さんにとっても働くスタッフ一人一人にとってもより素敵な病院を作り上げていく。それは私達職員が主役であること。より良い人間関係を築いていく上で絶対に欠かせない能力は「気づく力」。自分の事しか意識がいかなないと周りの事は見えなくなる。気づく力が高いと本当の意味で相手の事を思いやった対応をとることができるし、コミュニケーションにおける選択肢を増やす事が可能となる。去年はホスピタリティーとは“こころ”である。目配り・気配り・心配りが大事で患者様の期待値をあげ、更に上の対応を提供することが重要であること。患者さんの期待を上回るためには患者さんの事をもっと知ること、研修会に参加してそれぞれ個々に自分でできることは何かを学ぶことができた。患者満足度調査の結果、沢山の意見・要望をいただいた。貴重な意見を活かし、地域の皆様が安心して利用できる病院を目指していきたい。

<文責 木村カズ子>

教育委員会

概 要

当委員会は、院内の職員研修に関して病院全体で体系的、効果的に実施するために設置された委員会である。

構成員氏名

委員長	長山正四郎		
副委員長	藤盛 修成		
委員	木村カズ子	郡山 邦夫	
事務局	佐藤 正弘	栗田 公平	
書記	佐藤 潤		

委員会開催

平成21年7月22日 以下について検討した

- ・平成21年度職員研修計画について
- ・人材育成方針について
- ・教育委員会設置要綱について
- ・平成20年度職員研修実績について

<文責 佐藤 潤>

広報委員会

【概 要】

広報委員会は、当院の医療情報や活動状況について、病院広報誌・病院ホームページを通じて、地域の住民及び医療機関等に広く情報提供することを目的とする。

病院広報誌は、年4回の発行を目標に、患者さん、地域の皆様、秋田県内の各病院、病診連携室関連の施設などにむけて、当院の活動紹介や医療情報の提供、病気の予防策などを掲載している。

病院ホームページは、市立病院として横手・大森の両病院に統一性を持たせ、より見やすく、的確に情報収集がし易いホームページを目指し、平成22年3月24日にリニューアルした。今後は、更なるレベルアップを図り、最新の情報を提供していきたい。

【構成員】

委員 長	診 療 科	船岡 正人
副委員 長	総 務 課	栗田 公平
	医 事 課	石山 博幸
	病診連携室	高橋 美幸
	総 務 課	阿部千鶴子

【委員会開催】

平成21年4月24日	病院広報誌17号・18号発行について
平成21年10月1日	病院広報誌19号・20号発行について
平成21年11月19日	ホームページ作成について 要望・意見等があった場合の体制について ホームページに掲載内容の提案について
平成22年2月15日	ホームページ担当者の決定 これまでの更新・掲載内容の確認 病院機能評価確認事項
平成22年3月23日	ホームページリニューアルに向けての確認 来年度に向けての更新内容の確認 病院広報誌21号・22号発行について

【病院広報誌の発行】

平成21年5月	第17号発行
平成21年8月	第18号発行
平成21年11月	第19号発行
平成22年1月	第20号発行

<文責 阿部千鶴子>

個人情報保護推進委員会

【概要】

情報公開・個人情報保護に関し、国及び市の個人情報保護ポリシーに基づいた院内の運用方針、職員への啓蒙活動、研修開催を図り、円滑な実施に資することを目的とする。

【構成員】

- 委員長 佐藤 正弘（事務局長）
委員 長山正四郎（院長）
木村カズ子（総看護師長）
高橋 幸一（医事課長）
栗田 公平（総務課長）
柿崎 正行（医療情報管理室）

【委員会開催日及び検討事項】

平成21年6月9日（火）

- ・職員の携帯番号を聞き出そうとする不審な電話が相次いでおりその対策として「職員の個人情報は教えない」ことを再度全職員に徹底し、不審な電話への対応マニュアルを作成し、周知することとした。
- ・プライバシー保護の観点から、改修を実施する産科病室について、病室前に患者名の表示はしないことを当委員会の方針とすることを確認した。

【研修会の開催】

- ・全日病主催の「個人情報管理・担当責任者養成研修会 Advanced Course」受講者を講師に、全職員対象として事例を踏まえた個人情報保護の研修会を3回実施した。

<文責 柿崎正行>

診療記録開示審査委員会

概要

「横手市個人情報保護条例」の制定を受けて策定された「市立横手病院における診療情報提供実施要領」及び「診療記録開示事務処理要領」に基づき、院内に設置された。本人もしくは家族からの開示請求手続きによって開催される。

構成員氏名

	役 職	氏名
委 員 長	副 院 長	丹 羽 誠
	副 院 長	吉 岡 浩
	副 院 長	船 岡 正 人
	副 院 長	藤 盛 修 成
	副 院 長	江 畑 公仁男
	総看護師長	木 村 カズ子
	事 務 局 長	佐 藤 正 弘
	医 事 課 長	高 橋 幸 一

活動記録

平成21年度は、5件の開示請求があり、文書回覧による決裁により開示を行ったが、委員会の開催実績はなかった。

<文責 佐藤正弘>

年報編集委員会

委員会開催日及び主な案件

- 第1回 平成21年6月29日
前年度の反省及び今年度の方向性
今年度年報編集の原稿依頼
- 第2回 平成21年10月22日
提出済み原稿の確認
未提出原稿の督促と期日
- 第3回 平成21年12月14日
提出済み原稿の確認
未提出原稿の督促と期日
- 第4回 平成22年1月25日
提出済み原稿の確認、校正

所 属	氏 名
医 局	小 松 明
放 射 線 科	岡 根 和 義
リハビリテーション科	高 橋 茂 実
薬 剤 科	渡 邊 圭 子
看 護 科	赤 沼 ゆかり
看 護 科	鳶 田 麗 子
臨床検査科	小 丹 まゆみ
食 養 科	天 羽 勝 義
総 務 課	佐 藤 潤
医 事 課	百合川 深 里

医療ガス安全管理委員会

構成員

委員長 吉岡 浩（監督責任者）
副委員長 江畑公仁男
委員 寺田 宏達 佐々木洋子 照井 洋子 高橋 共子 下夕村優子
小田嶋恵美子 佐藤 昌悦 石橋由紀子 和泉奈保子 柏谷 肇
森谷 茂 阿部 光子（事務局）
伊藤 建一（実施責任者）

委員会開催日

平成21年6月3日

委員会での協議、活動報告

1. 今年度より病院増改築工事が本格的に始まったことから、医療ガスを停止する工事が伴う場合には、その都度工事中の安全対策や工事内容等について関係部署へ周知徹底を図ることを確認。医療事故が起きないように工事を進めることを確認。
 2. 酸素ボンベ使用後はバルブを閉めるなど安全管理が徹底されているか、無駄な消費によるコスト漏れはないか検証。
 3. 今年度は病院機能評価バージョン6を受審することから、医療ガスの安全管理に関する評価項目を再確認し、もう一度チェックや改善に取り組む。
- 当委員会では、工事中の安全管理や普段の医療ガスの使用に伴う安全管理、病院機能評価受審に向けた取り組みを行いました。また、医療ガスを安全に供給できる体制の維持は当然のことながら、職員一人一人がコスト意識をもち医療ガスの無駄な消費を無くし、請求漏れを防止することを再確認いたしました。
- 医療ガスは取り扱いを間違えると重大な事故にもなりかねません。患者様に安全に供給する体制を維持できるよう、知識の習得、使用方法の徹底を図りたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

医療廃棄物管理委員会

構成員

委員長 丹羽 誠（副院長・外科）管理責任者
副委員長 佐藤 正弘
委員 佐々木美奈子 石田 良樹 高本 和子 照井 洋子
高橋 共子 下夕村優子 小田島恵美子 石橋由紀子
小川 伸 藤原 理吉 佐々木佳子 伊藤 建一

委員会の業務

医療廃棄物処理状況の把握
医療廃棄物処理計画の作成
医療廃棄物処理マニュアルの作成
医療廃棄物処理マニュアル及び知識の普及啓発に努める

委員会開催日

平成22年3月23日

委員会協議・活動など

- ・今年度は病院機能評価を受審するため、適正処理、分別の徹底に取り組みました。そして病院機能評価バージョン6を受審。それにより高圧蒸気滅菌装置による感染性廃棄物の処理、アンプルの処理、保管場所の区分けについて指摘があり、認定に向けて早急に改善策を協議し改善に取り組みました。
- ・院内感染対策委員会と連携を強化し、院内感染防止の観点からも廃棄物の適正処理について力を入れ、医療廃棄物の処理費用並びに排出量の削減についても努めていきたいと考えております。

<文責 伊藤建一>

防火管理委員会

委員構成

自衛消防隊長 長山正四郎

自衛消防副隊長 丹羽 誠、吉岡 浩、藤盛修成

防火管理者 佐藤正弘

委員 木村カズ子、佐藤セツ子、高橋千鶴子、木村真貴子、木下文子、藤井洋子、高本和子、川越 弦、栗田公平、高橋幸一、藤原理吉、佐藤恵美子、原田優子、高橋信夫、高橋 洋、石田良樹、佐々木佳子、高橋 功、森谷 茂、伊藤建一

開催日

第1回 平成21年6月10日

第2回 平成21年10月8日

当委員会では、年2回の防災訓練を計画し実施した。火災の訓練を重ねました。

第1回目委員会

平成21年6月24日（水）に実施する防災訓練について

【概要】2病棟から火災が発生した想定で、避難訓練、応急救護訓練、本部での情報収集訓練などを実施することにする。避難誘導では入院患者を同一階の別の防火区画へ一時的に避難させる事を取り入れる。

また、病院の増改築工事中であることから、工事業者も避難、消火器の訓練に参加していただくこととする。

第2回目委員会

平成21年10月21日（水）に実施する防災訓練について

【概要】3B病棟の工事箇所から火災が発生した想定で、1回目同様に避難訓練、本部での情報収集訓練などを再度実施することにする。また工事業者も避難、消火器の訓練に参加していただくこととする。

- 当委員会では、火災の想定のもと今年度は避難訓練を2階実施しました。今年度より病院の増改築工事が本格的に始まっており、工事中の火災も想定し、工事業者も含めて訓練を重ねました。また今年度受審する病院機能評価バージョン6に向けてC評価の項目がないかチェックすることを確認し、改善に取り組みました。

災害を起こさないことはもちろんですが、いざというときには職員一人一人が自分の任務をしっかり務め、職員が一致団結して患者様の安全と医療の継続に全力を注げるよう努めてほしいと考えております。また、防災設備の使用法の習得や日頃の防災用品のチェックも重要ですので、それぞれが防災意識を高めていく必要があると思います。

<文責 伊藤建一>

看護科の委員会

教育委員会

【委員会目的】

専門職業人として、個々の資質や能力を伸ばし、主体的に学習し成長していくために継続的に支援することを目的とする。

【構成メンバー】

委員長 木村真貴子

副委員長 石橋由紀子

委員 佐藤 鋼子 中村勇美子 吉川ちあき 高田真紀子 藤谷 栄
阿部 萌子 斎藤みどり 高橋 美里 櫻谷 麻美 高橋 恵子

【平成21年度委員会目標】

1. 各種研修会を現場に反映できる
2. 新人をサポートし、職場環境に適応できるよう援助する

【活動内容】

<新人研修・新人教育>

- 基本技術と基礎知識（4月）
 - 「インスリン、麻薬の取り扱いについて」
 - 「輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いについて」
 - 「胃瘻について」
 - 「十二誘導心電図モニター装着と取り扱いについて」
 - 「輸血確認準備について」
- 心電図研修会・日本光電（6月）
- 新人評価 3回（7月、12月、3月）
- 糖尿病教室見学
- 次年度プリセプター研修（3月）

<継続教育>

- 卒後2年目看護研究班にて活動
- 卒後3年目（当院就職後含む） OP室見学及び挿管、抜管介助 対象者7名
- 卒後5～7年目（当院就職後含む） グループワーク
対象者5年目・10年目、14名・7名の参加 欠席者はレポート提出
「実際に当院で発生したヒヤリハット事例の検証」
- 伝達講習

8月 「フットケアとは！！正しい爪切り」

発表者 佐々木史子

- 「高齢者看護研修～認知症恒例患者に必要な援助技」 発表者 櫻谷 麻美
出席人数50名
- 1月 「働きながらの子育て」 発表者 高橋 正子
「最新の褥瘡情報について」 発表者 煙山由紀子
出席人数57名
- 研修会
- 12月 「フォーレ抜去後のケア」 佐藤美夏子
出席人数53名

【平成21年度の反省】

1. 昨年以上に伝達講習での皆の反応がよかった。発表者側も教育委員会サイドの意図をくみとり、当院ではどのように活用できるか等わかりやすい講習を行ってくれた。研修前の講習依頼もよかった。参加率も毎回 50～60 名の出席を確保し浸透されてきている。
2. 新人研修に力を入れているが、目標時期までにクリアできない技術が多かった。今後は中堅看護師の技術、知識向上にも力をいれ、後輩育成がバックアップできるようにしていきたい。

<文責 木村真貴子>

看護研究委員会

構成メンバー

委員長 木村 恵美子
副委員長 藤澤 親子
委員 赤沼ゆかり 高橋亜由美 鈴木 智都 高橋 美樹 高橋 朋子
佐々木美智子 鈴木 美香 佐藤さとみ 小田嶋 梢

H20年度委員会目標

- ＊ 各部署の研究班に所属し研究委員のレベルアップをはかる
—研究計画書に対して、アドバイスできるようになる—

H21年度研究発表

H21年 3月16日(火) 参加人数：45名 呼吸器内科 齋藤医師

【座長】 佐藤 昌悦 高橋 礼子

【演題】 第一席 簡易懸濁法導入に伴う看護の課題 発表者 4病棟 佐々木文子
第二席 内視鏡下粘膜剥離術を受ける患者の不安 発表者 2病棟 黒沢奈保子
第三席 看護師の経験年数から見た化学療法時の不安 発表者 3病棟 藤井 千晶
第四席 外来透析患者に患者参画型看護計画を用いた体重管理に及ぼす効果
発表者 透析室 伊藤 優子

【講評】

秋田県立衛生看護学院

副学院長兼教務部長 高橋 真樹子先生

研修班 副主幹兼班長 齋藤 みすず先生

総 括

今年度より秋田県立衛生看護学院の高橋先生、齋藤先生より指導を受けることになり、更なるレベルアップをはかりました。

今年度は、病院機能評価受審するために各部署受審に向けての準備や、日々の業務が多忙な中の看護研究でした。3A病棟は今年度より医師が二人になりましたが症例が思うように集まらず次年度発表に向けてさらに情報収集することになりました。多忙な毎日の中、県立衛生看護学院の先生達の指導を受けながら進めていった研究は、私たちにとってレベルアップにつながったと思います。来年度は研究委員がそれぞれの部署において指導ができる事を目標としたいです。

<文責 木村恵美子>

看護記録・計画委員会

【委員会目的】

1. カルテ開示に向け、看護記録の質の向上を図る。
2. 看護計画に基づいた看護ケアを提供するため評価・修正し、看護の質の向上を図る。
3. 患者参加型の看護計画を立案し実践する。

【構成メンバー】

委員長：藤井 洋子

メンバー：佐藤セツ子 高橋千鶴子 木下 文子 木村真貴子 小田嶋恵美子
照井 洋子 高橋 佳子 下夕村優子 高橋 共子 森本 和子
高橋 智美 山田 沙織 草薙美保子 松川かおり 須田 鮎美
高橋 亮子 浅倉けい子 佐々木祐美 鳥山十亜良 高橋まゆみ
渡部 香織

【活動内容】

1. 看護記録形式の変更

- (1) 日々の看護記録はフォーカスチャータリング記録から、全面的に「SOAP」の形式に切り替えた。S：subjective data O：objective data A：assessment P：planning

2. 看護計画の見直し・修正・追加

- (1) 各疾患別看護計画および症状別看護計画の問題点などを抽出し、マスタの修正・追加・並べ替えを行った。
- (2) 転倒転落と褥瘡予防計画は各ソフトで具体的にスコア表にて評価しているため、看護計画上には項目のみ組み入れた。

3. 看護計画評価の記録様式の変更

- (1) 看護計画に基づいた日々の看護実践ができることを目標に、計画の評価は看護記録の一部とし、重要度を「看護計画評価」とした。またその結果、チームメンバーも計画を共有できるようになった。
- (2) 行動制限の評価も患者個々の計画に組み入れ、評価することとした。
- (3) 計画の妥当性は、受け持ち看護師の評価をチームで干渉しあえるよう、チームリーダーまたはサブリーダー、不在時は師長・主任が評価記録を見て赤字で「確認者サイン」をし、指導することとした。

4. 患者参加型看護計画の実施

- (1) 入院時の看護計画書は印刷し、担当看護師が説明した上でサインし、患者または家族よりサインを頂きコピーし手渡すこととした。また、計画が大きく修正する必要があった際にも同様の手順で行うこととした。

5. 記録監査基準作成と定期的監査の定着

- (1) 看護記録の研修会資料を参考に、監査票を作成した。
- (2) 各チームで月1名ずつ患者を選択し、看護記録の形式的かつ質的なオーデットを行った。

<文責 藤井洋子>

師長主任会

- 目的 1、看護科における諸問題を協議し、看護科運営の円滑をはかる。
2、病院運営に関する諸問題について看護科の意見を反映する。

- 内容 1、看護科の諸問題を協議し決議する。
2、予算、決算、人事、各委員会に関する事。
3、病院経営への提案及び答弁。
4、リーダー教育。
5、部署会議の報告。

構成 総看護師長 副総看護師長 看護師長（6名）

会議 月2回（前期・後期）

平成21年度師長会目標と評価

○目標管理の徹底

個々にあわせて面接2～3回実施。師長はスケジュールを組み計画的に実施することを目標に行い、面接を通してスタッフの要望、意見、想いを分かることができたと思われる。今年度は結婚退職者が多く、また職員のメンタル面での対応について師長会でも毎回議題となり今後も大きな課題である。

各部署定例会、議題、検討事項などはあらかじめ資料を配布し検討してもらい、師長会で最終決定している。病院経営に関する事、人事、患者状況の報告、意見交換の場としている。

<文責 木村カズ子>

師長主任会

平成21年度より、会議名を抄読会から師長主任会と変更し、業務、看護科の諸問題、勉強会を取り入れ意見交換の場をしている。

目的 1、看護科における諸問題を討議し、看護科運営の円滑を図る。

内容 1、業務手順に関する事
2、看護科の諸問題を討議し、決議する

構成 総看護師長 副総看護師長 看護師長（6名）看護主任（11名）

会議 月初め1回

内容 4月 病院経営について（事務局長：佐藤）
5月 機能評価自己評価表について 緊急アンギオ時の対応について
6月 医療安全より・・・服薬確認について
研修医対象研修会に参加・・・中心静脈穿刺トレーニング
7月 ①全国医療研の報告 ②最近の新聞情報
8月 ①平成21年度介護報酬改定について ②DPC入力について

- 9月 ①ソフトウェア会・看護部会の報告
②患者の権利（副院長：丹羽）
③機能評価について
- 10月 ①医療安全より（手術室の入室時間の確認、指示伝達について、持参薬について、点滴固定方法・点滴ルートについて）
②機能評価について
- 11月 ①院内監査について（病棟薬剤監査、点滴注射バーコードリーダー、指示確認状況、リストバンド装着状況）
②患者情報入力について
③人工呼吸器・心電図モニター使用時のマニュアルについて
④機能評価について
- H22・1月 機能評価について
2月 機能評価について
3月 機能評価について

平成21年度師長主任会の評価

会議名を師長主任会と改め、管理職として病院経営について佐藤事務局長より話を聞き、知識向上に努めている。3月の機能評価受審に向けて一丸となって頑張った一年だったと思います。

<文責 木村カズ子>

學術研究業績

院内 <医局勉強会>

- 平成21年 4月 抗生剤のPK/PDを考慮した処方設計について・・・石田 良樹 (薬剤科)
- 平成21年 4月 当科における頸椎疾患の4例・・・・・・・・・・江畑公仁男 (整形外科)
- 平成21年 5月 血管造影検査とIVR・・・・・・・・・・平野 弘子 (放射線科)
- 平成21年 5月 産科医療補償制度について・・・・・・・・・・畑澤 淳一 (産婦人科)
- 平成21年 6月 B型肝炎の治療・・・・・・・・・・武内 郷子 (消化器内科)
- 平成21年 6月 放射線診療に係る法令・規則・・・・・・・・・・藤原 理吉 (放射線科)
- 平成21年 7月 薬物誘因の皮膚症状・・・・・・・・・・渡邊 圭子 (薬剤科)
- 平成21年 7月 危険な頭痛・いち早く病院へ・・・・・・・・・・塩屋 斉 (脳神経内科)
- 平成21年 9月 アレルギー・呼吸器内科と心身医療・・・齋藤紀先 (呼吸器内科・アレルギー科)
- 平成21年10月 胃癌検診について・・・・・・・・・・奥山 厚 (消化器内科)
- 平成21年10月 がん化学療法による味覚障害・・・・・・・・・・谷川 裕子 (薬剤科)
- 平成21年11月 BNP トロップT HFABPについて・・・・・・・・・・根本 敏史 (循環器内科)
- 平成21年11月 勃起障害と前立腺全摘について・・・・・・・・・・神崎 正俊 (泌尿器科)
- 平成21年12月 肩関節脱臼・・・・・・・・・・富岡 立 (整形外科)
- 平成21年12月 全身麻酔薬の進化・・・・・・・・・・寺田 宏達 (麻酔科)
- 平成22年 1月 臨床倫理・・・・・・・・・・丹羽 誠 (外科)
- 平成22年 1月 Barret食道・・・・・・・・・・小田嶋 傑 (消化器内科)
- 平成22年 2月 気管支喘息の救急・・・・・・・・・・小川和孝 (呼吸器内科・アレルギー科)
- 平成22年 2月 大腸憩室疾患の検討・・・・・・・・・・木下 幸寿 (消化器内科)
- 平成22年 3月 PTEGについて・・・・・・・・・・渡部 昇 (消化器内科)
- 平成22年 3月 抗癌剤の臨床試験・・・・・・・・・・加藤 健 (外科)

同好会活動

野 球 部

今年度の野球部の活動は、唯一の公式戦である県南病院対抗野球大会が雨の為、中止になってしまいました。この大会に向けて各自練習していただけに選手一同、悔しい思いをしました。

来年は今までより練習回数を増やし、部員一人一人が現在より一段上のレベルを目指して頑張りたいと思います。

<文責 木村宏樹>

バレーボール部

今年度目標として、1. 対外試合をやろう 2. 秋田県病院対抗バレーボール大会に参加しよう、と4月より月1～2回程度の定期的練習をした。

練習は部員以外にも声をかけ参加してもらったため有意義な練習ができた。

対外試合はメンバーの都合がつかず実現できなかったが、全県病院対抗バレーボール大会には参加することができた。

そして、最近負け続けていたこの大会で念願の一勝することができた。来年は「決勝トーナメントには絶対勝ち進もう」と大きな目標を掲げ練習を続けて行くことにした。

秋田県病院対抗バレーボール大会予選リーグ結果

Aブロック

*市立横手病院 1勝

〔 平鹿総合病院 2-0
仙北市立病院 0-2 〕

(Aブロック代表平鹿総合病院 2勝)

<文責 木村恵美子>

職員等互助会

職員等互助会

概 要

職員等互助会は、当院に勤務する職員及び嘱託職員並びにパート職員（会員）の相互共済を図り、福利増進に寄与することを目的としている。職員歓送迎会、盆踊り大会参加、研修旅行、大忘年会など各種行事の主催・運営、祝い金・見舞金・弔慰金の給付、院内同好会活動への補助を行っている。今後もこれらの福利厚生事業などを通じ、会員の親睦と交流を深め、所期の目的を達成するため活動をしていく予定である。

役員氏名

会長	藤盛 修成
副会長	郡山 邦夫
幹事	栗田 公平、原田 優子、高本 和子、 丹 厚子、後藤美佐子
監事	木村カズ子、浮嶋 優子
事務	佐藤 潤

21年度に実施した主な病院行事等

○平成21年4月24日 職員歓迎会 横手セントラルホテル 参加者95名

実行委員長 小田嶋 傑

実行委員 岡根 和義、渋谷 美紀、近江真梨子、田中 清美、原田 優子、
鈴木 智都、高橋 朋子、小西千穂子、鳥山十亜良、藤坂マリ子、
佐々木美紀子、山中慎太郎、藤原 明子、藤倉 美穂

○平成21年8月15日 市民盆踊り大会 横手市役所前 おまつり広場 参加者74名

実行委員長 木下 幸寿

実行委員 細谷 謙、熊谷 剛、佐々木洋子、長瀬 智子、天羽 勝義、
山田 沙織、佐藤瑠衣子、藤井 千晶、武藤 夏子、石田由紀子、
伊藤 優子、照井 真澄、千葉 禎彦、青池 満雄、鈴木久美子

○平成21年10月17日・10月22日・10月24日・10月31日

研修旅行 酒田・仙台 参加者123名

実行委員長 神崎 正俊

実行委員 郡山 邦夫、渋谷 美紀、大山 丹子、谷川真依子、川越 真美、
黒沢奈保子、町本 典子、高橋 美里、武藤 夏子、生出 春美、
赤沼ゆかり、栗田 公平、阿部千鶴子、伊藤喜美子、佐藤恵美子

○平成21年12月18日 大忘年会 横手セントラル 参加者220名

実行委員長 泉 純一

実行委員 藤原 理吉、古関 佳人、渡邊 圭子、佐々木美奈子、原田 優子、
遠藤ちづる、高橋加美子、佐々木祐美、太田奈緒美、
藤原真喜子、小西美穂子、伊藤 建一、谷口 明美、菅原真由美、
高橋 功

○平成21年12月23日 白衣のクリスマスコンサート

実行委員長 衛藤 武

実行委員 法花堂 学、渋谷 美紀、高橋 紀子、谷川真依子、天羽 勝義、
高橋千鶴子、佐藤加代子、末次エリカ、稲川 雅美、佐藤 友紀、
伊藤 優子、佐藤 清美、照井希世子、藤倉 美穂、木村カズ子

○平成22年3月19日 送別会 横手セントラル 参加者136名

実行委員長 小松 明

実行委員 齋藤 千尋、熊谷 剛、北小路由紀、工藤真希子、原田 優子、
菅原奈緒子、藤谷 栄、高橋 大樹、今野谷沙織、藤島 美晴、
丹 久美、佐藤 潤、田澤 妙子、奥山沙耶香

○サークル補助等 2件

○慶弔給付 結婚祝金 13件、弔慰金 16件、退職報償金 17件

<文責 佐藤 潤>

編集後記

病院の増改築がいまだに進行中であり、工事の騒音と、駐車場の少なさに職員、患者さんともにまいている。H22年一杯かかってもまだできないらしい。それらから開放され、ゆっくりと診療が出来るのはH23年3月の予定であり、完成が待ち遠しい。

H22年3月、2回目の病院機能評価を受審した。前回かなり苦労した末の受審であったが、その時の貯金のおかげか、比較的すんなりと合格しそうである。各部署の要になってまとめてくださっている方々、ご苦勞様でした。さらに次回受審に向けて、‘ちりもつもれば・・・’ みなさん、〇体にムチうってがんばりましょう。

<文責 小松 明>